Kodak

Scan Station 700 シリーズ

管理者ガイド

A-61796_ja

サードパーティライセンス

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group

Copyright (C)2009-2013 D. R. Commander. All Rights Reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the libjpeg-turbo Project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS", AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

安全性について

- *コダック* スキャンステーション 710/730EX は、9.97 kg の重量を支えることのできる平らな場所に置きます。
- スキャンステーションを設置する際は、電源コンセントがスキャンステーションの 1.52m 以内にあり、簡単にコンセントに接続できることを確認してください。
- スキャンステーションを移動する場合、2 名で持ち上げて、安全な方法で運んでください。
- ほこりの多い場所や、湿気や蒸気の当たる場所に設置しないでください。感電または出火の危険があります。室内の湿気のない場所でのみ使用してください。
- 機器の電源ソケットを外すときは、コードではなくプラグを持ってください。
- 危険なので、AC アダプタの分解または改造は絶対にしないでください。
- スキャンステーションに同梱されている AC アダプタ以外の AC アダプタを使用しないでください。スキャンステーションに同梱されている AC アダプタをスキャンステーション以外の製品に使用しないでください。
- 電源コードがコンセントにしっかり接続されていることを確認してください。接続がゆるいと、感電または出火の危険があります。
- 電源コードを破損しないよう注意してください（結ぶ、切る、改造するなどの行為を含む）。また、破損した電源コードは使用しないでください。感電または出火の危険があります。
- スキャンステーションは壁のコンセントに直接接続し、電気を正しく供給してください。スキャンステーションに延長ケーブルを使用しないでください。
- 電源コンセントの周辺には十分なスペースを設け、緊急時にすぐにプラグを外せるようにしてください。
- スキャンステーションが異常に熱い、異臭がする、煙が出る、異音がする場合は、使用を停止してください。スキャンステーションを即座に停止して、電源コードをコンセントから外してください。コダックサービスセンターにご連絡ください。
- 『管理者ガイド』に記載された場合を除き、スキャンステーションを解体、修理または改造しないでください。
- 電源コードとインターフェースケーブルを接続したままスキャンステーションを移動しないでください。電源コードとインターフェースケーブルが破損します。スキャンステーションを移動する前に、電源コードをコンセントから抜いてください。
- コダックが推奨する清掃手順に従ってください。エアー、液体、ガススプレークリーナを使用しないでください。これらのクリーナは、ほこり、汚れ、ゴミをスキャンステーション内の別の場所に移動させ、スキャナーの故障の原因となる可能性があります。
- 化学製品の化学物質安全データシート (MSDS) は、次のコダック Web サイトで入手できます。www.kodakalaris.com/go/msds ウェブサイトから MSDS にアクセスする場合、消耗品のカタログ番号を提示する必要があります。

環境に関する情報

- *コダック* スキャンステーション 710/730EX は、環境に対する世界中の要件に対応できるよう設計されています。
- メンテナンスまたはサービス時に交換した消耗品の廃棄についてはガイドラインを参照してください。詳細については、地域の規定に従うか最寄のコダック代理店にお問い合わせください。
- *Kodak* スキャンステーション 710/730EX は国際エネルギースタープログラムに適合しており、出荷時にはスリープモードへの移行時間が 15 分に設定されています。
- リサイクルや再利用については、各自治体にご確認ください（米国の場合は以下を参照してください）。www.kodakalaris.com/go/scannerrecycling。
- 製品パッケージはリサイクル可能です。
- 部品は再利用またはリサイクルを行うように設計されています。

ヨーロッパ連合

このマークは、この製品を廃棄する際に、回収とリサイクルを行う適切な施設への送付が義務付けられていることを表します。本製品の収集 / 回収プログラムについては、最寄りのコダック代理店にお問い合わせください。または、www.kodakalaris.com/go/recycle を参照してください。

REACH 規則 ((EC) No. 1907/2006) 第 59 (1) 条の対照リストに含まれる物質に関する情報については、www.kodakalaris.com/go/REACH を参照してください。

電池に関する情報

本製品にはリチウムイオンボタン電池が使用されています。資格を持ったサービス担当の技術者のみが、この電池の取り外しや交換を行うことができます。

注意：

- バッテリーを不適切なタイプと交換した場合、爆発の危険性があります。
- 使用済みのバッテリーは、指示に従って廃棄してください。

騒音

Maschinenlarminformationsverordnung - 3, GSGV
Der arbeitsplatzbezogene Emissionswert beträgt <70 db(A).

[Machine Noise Information Ordinance - 3, GSGV
操作者位置の騒音量 <70dB(A) 以下。]

phase est de 230 V.

EMC 声明

アメリカ合衆国：この装置は、FCC 規則の Part 15 に従った Class B デジタル装置に対する制限に適合していることが検査され、証明されています。これらの制限は、個人の住宅に取り付けた場合に、有害な干渉から適切に保護することをその目的としています。本製品は高周波エネルギーを発生させ、使用し、また放射することもあります。取扱説明書に従って設置およびご使用されない場合は、無線通信に有害な障害をもたらす可能性があります。ただし、特定の設置条件で、干渉が起こらないという保証はありません。この装置が無線通信またはテレビ受信の障害となる場合には（装置をオン／オフすることで判定できます）、次の方法で障害を改善されることをお勧めします。

- 受信アンテナの方向や位置を変える
- 装置と受信機との距離を広げる
- 受信機を接続している回路とは別の回路のコンセントに装置を接続する
- 取扱店または信頼できるラジオ / テレビ関係の技術者に問い合わせる

法令遵守に責任のある当事者により明白に承認されていない変更や修正を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。製品に被覆インターフェースケーブルが同梱されている場合、または製品を設置する際に被覆インターフェースケーブルを追加コンポーネント / アクセサリとして使用するように指定されている場合は、FCC 規制に準拠するためにそれらのケーブルを使用する必要があります。

韓国：この機器は家庭で使用するための EMC 登録を取得しており、住宅でご利用いただけます。

이 기기는 가정용으로 전자파적합등록을 한 기기로서 주거지역에서는 물론 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

日本：この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置を家庭環境でラジオやテレビ受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい設置と運用を実施してください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

目次

概要	1-1
インストール前のチェックリスト	2-1
インストールと使用方法	3-1
デバイス設定の設定	4-1
スキャン設定の定義	5-1
出力先の作成	6-1
グループの追加と管理	7-1
ジョブの作成	8-1
スキャンステーションの監視と管理	9-1
メンテナンス	10-1
トラブルシューティング	11-1
用語集	12-1
付録 仕様 ネットワークプロトコル 保証	A-C

1 概要

目次

同梱品一覧 1-1
スキャンステーションのセットアップ 1-2
構成のセットアップ 1-3
スキャンステーションの構成 1-5

コダック スキャンステーション 710/730EX は、ホスト PC やアプリケーションソフトウェアを必要としないウォークアップデバイスとして設計されています。既存のネットワークで動作し、既存のネットワークやネットワーク共有サービスを利用して他のネットワークデバイスまたは宛先と通信します。*Kodak* スキャンステーション 710/730EX は、電子メール、ネットワーク、ネットワークプリンタ、USB メモリ、ファックス、FTP、SHAREPOINT、および Kofax Front Office Server によりワンタッチ操作で素早く文書を送信できるキャプチャソリューションです。

この管理者ガイドでは、*コダック* スキャンステーション 710 と *コダック* スキャンステーション 730EX のセットアップおよび管理に必要な情報を提供します。本マニュアルの目的上、両方のモデルを *Kodak* Scan Station 700 シリーズと呼びます。これらのモデル間に差異がある場合は、注釈を加えています。

同梱品一覧

梱包品内容の確認

- *コダック* スキャンステーション 710/730EX
- 電源コード
- 次の物品が入ったフォルダ
  - インストール CD
  - ユーザ登録シート
  - ユーザリファレンスガイド（英語版）
  - メンテナンスリファレンスガイド（英語版）
  - インストール ガイド
  - 連絡先シート（国別）
  - その他のパンフレット（「国内連絡先詳細」や「製品保障の登録は使用しません）

スキャンステーションのセットアップ

スキャンステーション 710/730EX の梱包を慎重に開き、清潔で乾燥している水平な場所に置きます。ポートの場所については、『インストールガイド』またはこの章の後半にある「後部」の説明図を参照してください。

1. 適切な AC 電源コードを選択します。日本国内で使用する場合は必ず 2 ピンの端子側に PSE マークが刻印された電源コードを使用してください。電源アダプタをスキャンステーションの電源ポートに接続します。電源コードの片端を電源アダプタに接続し、もう一方の端部をコンセントに接続します。
2. 10/100/1000 ベース T ネットワークケーブル（別途ご用意ください）の片端をスキャンステーションのイーサネットポートに接続し、ネットワークケーブルのもう一方をネットワークポートに接続します。
3. スキャンステーション 730EX の場合は、電話回線を RJ-11 モデムポートに接続します。
4. スキャンステーションを正しく接続したら、電源ボタンを押します。起動してアプリケーションが表示されるまでしばらく待ちます。
5. *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストールと設定の作成前に、第 2 章、「*インストール前のチェックリスト*」を参照し、予め必要な設定情報を確認します。
6. 「インストール前のチェックリスト」を確認してから、構成を設定できます。詳細については、第 3 ～ 8 章を参照してください。

構成のセットアップ

使用前に、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用してスキャンステーションを構成する必要があります。アプリケーションを使用して、スキャンステーションの構成や管理ができます。

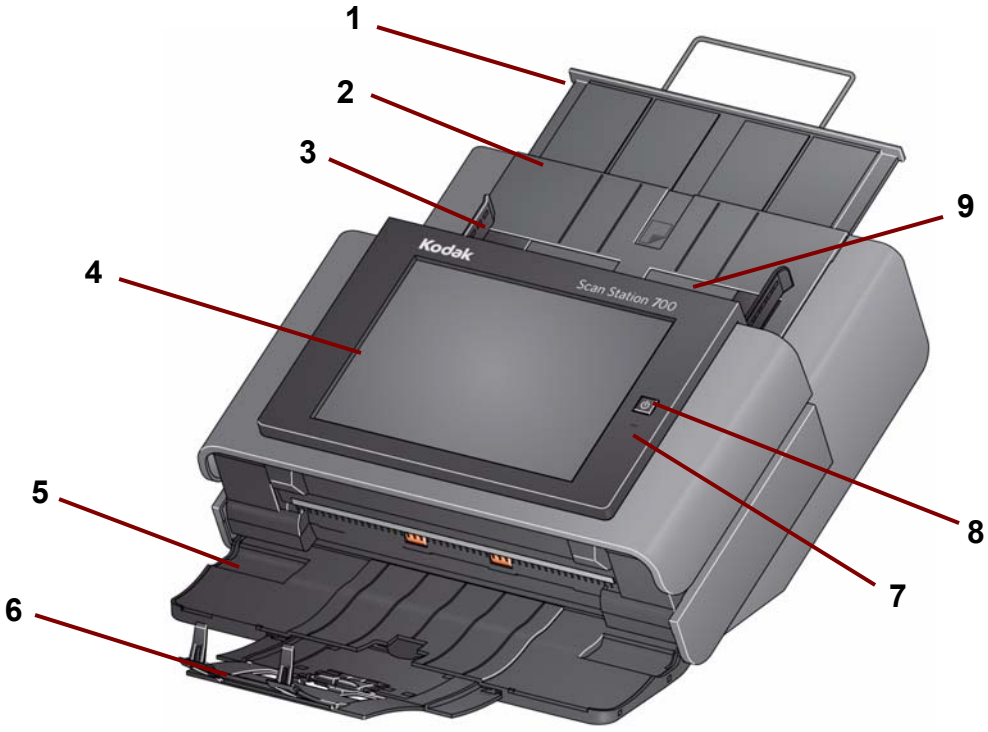
スキャンステーションの構成では、デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブを設定します。これらのオプションは、Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションの [編集] メニューの [構成] タブから設定できます。

- **デバイス設定** — 以下のアイテムで構成されています。*詳細については、第 4 章を参照してください。*
  - **デバイスオプション**：スキャンステーションの構成（表示言語、日付、時刻設定など）に使用します。
  - **メールサーバー**：SMTP サーバーを使用するようスキャンステーションを構成します。イメージをメール送信する場合、メールサーバーの構成が必要です。
  - **Active Directory Server**：Active Directory Server の場所を構成します。Active Directory Server のユーザーやユーザーグループを定義する場合に必要です。
  - **FAX**：FAX オプションを構成します。スキャンイメージを FAX 送信する場合、FAX 構成が必要です。
- **スキャン設定** — スキャン方法 （例：白黒、両側、300 dpi など）、出力形式 （例：PDF、JPEG、XLS など）、特殊処理、スキャンイメージの名前を定義できます。複数のスキャン設定を構成できます。たとえば、カラースキャンするためのスキャン設定や白黒スキャン用の設定をセットアップできます。スキャン設定を定義後、後で使用するため構成に名前を付けます。*詳細については、第 5 章を参照してください。*
- 出力先 — スキャンイメージを送信 / 保存する場所を定義できます。スキャンステーションは、イメージをメール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP、FAX、インターネット FAX、SharePoint、Kofax Front Office Server に送信 / 保存できます。*詳細については、第 6 章を参照してください。*
- **グループ** — 特定のユーザーやユーザーグループ使用するジョブを管理するために使用します。*詳細については、第 7 章を参照してください。*
- **ジョブ** — ジョブとは、スキャン設定、出力先、グループ設定の構成です。ジョブは、「*請求書*」など、1 つのボタンとしてスキャンステーションのユーザーインタフェースに表示されます。ジョブは文書のスキャン方法やフォーマット（スキャン設定）、保存先や送信先（出力先）、特定のジョブを使用できるユーザーやグループを定義するので、ジョブを選択するだけのワンタッチスキャンができます。*詳細については、第 8 章を参照してください。*

ジョブを定義する前に、スキャン設定、出力先、グループを定義してください。スキャン設定、出力先、グループには、ジョブ定義時に使用可能な名前があります。

スキャンステーションは、ユーザーログインの要求を設定できます。ログイン情報は、各ジョブに定義されたグループ情報と一致します。ユーザーがログインすると、アクセス権があるジョブのボタンだけが表示されます。

スキャンステーション　前部の構成



1 **入力トレイエクステンション** ― このエクステンションを引き出すと、8.5 x 11 インチ (A4) より長い原稿に対応できます。

2 **入力トレイ** ― 80 g/m^2 用紙を 75 枚セットできます。

3 **サイドガイド** ― スキャンする原稿の横幅に合わせて、ガイドを調整します。

4 **タッチスクリーン** ― 指で簡単に選択内容を指定できます。タッチスクリーンは、スキャンステーションと通信するための主要なユーザーインタフェースです。

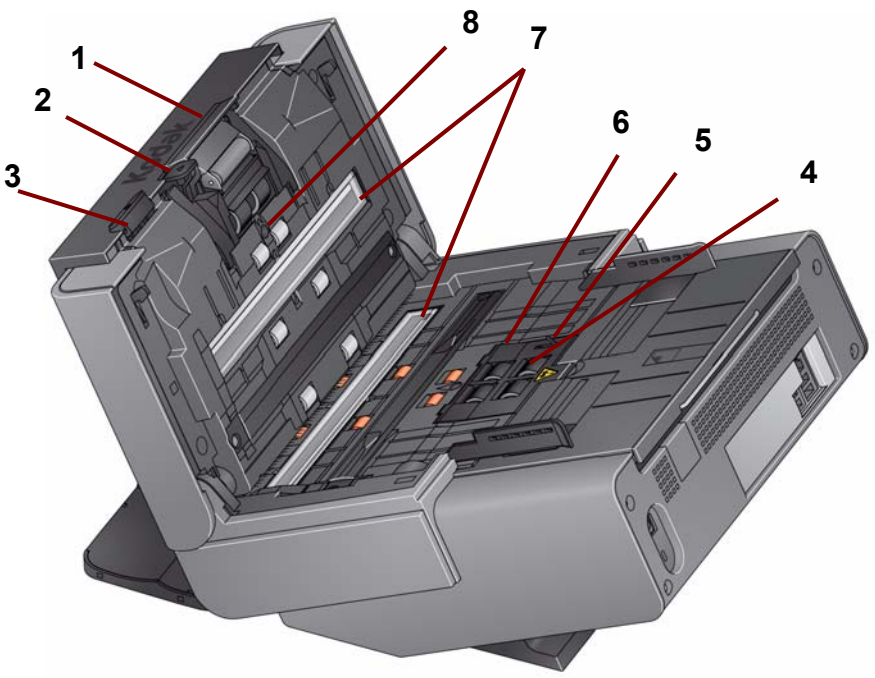
5 **出力トレイ パネル** ― 未使用時は搬送部をカバーします。原稿をスキャン時には、このパネルを開きます。開くと、スキャンされた原稿を収納します。出力トレイパネルを閉じた状態では、スキャンステーションカバーを開くことはできません。

6 **出力トレイエクステンション** ― 28 cm より長い原稿をスキャンする場合は、このエクステンションを引き出します。

7 **マイク** ― 音声注釈で使用します。

8 **電源** ― 電源をオンにします。詳細については、第 11 章の「インジケータライト」のセクションを参照してください。

内部



1 **セパレーションモジュールリリースレバー** - セパレーションモジュールを清掃、交換する場合、このリリースレバーを下に押してモジュールを取り外します。セパレーションモジュールは、さまざまなサイズ、厚さ、素材の原稿をスムーズに給紙します。

2 **ギャップリリース レバー** - 特別な処理を必要とする書類用に、フィードモジュールとセパレーションローラのギャップを手動で調整できます。

3 **カバーリリース レバー** - スキャンステーション本体を開いて搬送部の清掃や紙詰まりの除去ができます。

4 **フィードモジュール** - さまざまなサイズ、厚さ、素材の原稿をスムーズに給紙します。

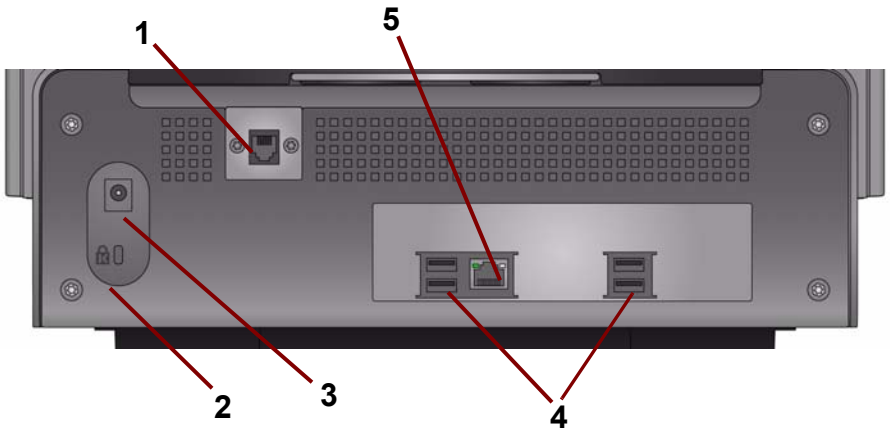
5 **用紙センサ** - 入力トレイにセットされた原稿を検出します。

6 **フィードモジュールカバー** - フィードモジュールやフィードモジュールタイヤを清掃、交換時にこのカバーを外します。

7 **イメージングガイド** - 最適な画質を得るために、上下のイメージングガイドを常に清潔な状態に保ってください。

8 **重送検知センサ** - 重なって給紙された書類を検出します。

後部



1 **モデムポート** - RJ-11 ポートで FAX モデムを電話回線に接続します。スキャンステーション 730EX でのみ使用します。

2 **セキュリティロック ポート** - セキュリティロックを接続します。標準的なセキュリティロックは、事務用品店などでご購入ください。取り付け手順は、セキュリティロックの付属の手順書を参照してください。

3 **電源ポート** - 電源コード / アダプタをスキャンステーションに接続します。

4 **USB ポート** - 周辺装置（キーボード、マウスなどのアクセサリ）を接続します。

5 **イーサネットポート** - スキャンステーションをネットワークに接続します。

2 インストール前のチェックリスト

目次

ネットワーク設定の詳細 2-1
ベストプラクティス 2-1
インストール前のチェックリスト 2-2

ネットワーク設定の詳細

スキャンステーションはネットワークデバイスなので、ネットワークの用語やテクノロジの基礎知識は役に立ちます。（ドメインの）ユーザアカウントの作成、フォルダの共有、アクセス権限の設定、汎用命名規則 (UNC)、IP アドレスの使用、完全修飾ドメイン名 (FQDN)、ユーザグループの作成の概念について熟知している必要があります。

注：この項で説明する概念のうちのいくつかは、Microsoft NT ドメインと承認の知識があることを前提としています。詳細については、Microsoft Windows 2003、2008、2012 サーバのマニュアルを参照してください。

ベストプラクティス

スキャンステーションユーザグループ — ネットワークドメイン環境では、すべてのスキャンステーションにユーザグループを作成する必要があります。このグループは、各スキャンステーションに割り当てられたアカウント名を保持するために使用されます。各スキャンステーションには、最低 1 つのアカウント名が割り当てられている必要があります。各スキャンステーションにユニークなユーザ名とパスワードが割り当てられ、それらのアカウントがスキャンステーション用に特別に用意されたグループ内にあると最適です。これらのアカウント名は、スキャンステーションのネットワーク設定時や、*[ユーザ名]*、*[パスワード]*、*[ネットワークドメイン]* フィールドへの入力に使用します。

注：スキャンステーショングループとログイン名には、ネットワークリソースにアクセスするための適切な権限が割り当てられている必要があります。このネットワークリソースは、スキャンステーションで [保存先] の選択肢として表示されます。

ワークグループ環境 — Microsoft "Workgroup" 設定を使用するネットワーク環境では、最低でも、スキャンステーションに割り当てるアカウント名とパスワードを作成する必要があります。これらのアカウント名は、スキャンステーションのネットワークの設定時と、*[ユーザ名]*、*[パスワード]* フィールドに入力するときに使用されます。*[ネットワークドメイン]* フィールドは、Workgroup 環境では空欄にしておく必要があります。

ネットワークフォルダ — [保存先] または [自動設定スケジュールの更新] のいずれかで、ネットワークフォルダの作成をお勧めします。このフォルダには、スキャンスーションのログインアカウント、またはスキャンステーション用に作成したユーザグループがアクセスできるようにします（最低でも読み込み書き込み、アクセスの変更が必要です）。

フォルダの UNC 名 — スキャンステーションで使用する各ネットワークフォルダの完全修飾のUNC名を知っておく必要があります。これは、ネットワーク上の保存先設定時に、[追加：ネットワークフォルダ] ダイアログボックスの *[アドレス]* フィールドに入力する情報です。たとえば、スキャンステーションアクセス用に用意されている *「acmeserver」* というサーバに *「scanfolder」* というフォルダを作成します。これは、UNC 名：*\\acmeserver\scanfolder* として参照できます。

NETBIOS の使用 — ルーターを使用するネットワーク環境では、ルーター上の NETBIOS トラフィックをブロックするのが一般的です。スキャンイメージを格納するサーバの IP アドレスを知っておく必要があります。NETBIOS コンピュータ名の代わりにサーバの IP アドレスを代用することで、ネットワークのスキャンを失敗させる可能性のあるネットワークトラフィック制限を回避できます。たとえば、以前に定義したネットワークアドレス *「\\AcmeServer\scanfolder」* は、*「\\192.168.2.10\scanfolder」*のようなアドレスに変換する必要があります。

インストール前のチェックリスト

コダック スキャンステーション 710/730EX の設定を行う***前***に、このチェックリストの項目を確認してください。この情報は、初期設定ファイルを作成し、インストールを完了するために必要です。設定ファイルを作成する前に、予め不確定な情報について確認する必要があります。この情報について質問がある場合は、システムまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

デバイス設定 /IP アドレス 以下の設定は [スキャナ] タブを使用し、**[スキャナ] > [スキャナを修正]** を選択して見つけることができます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
自動 (DHCP)		第 9 章、「スキャンステーションの修正」を参照してください。
IP アドレス設定 - 固定		
固定 (IPv4) IP アドレス		
サブネットマスク		
デフォルトゲートウェイ		
推奨 DNS サーバー		
代替 DNS サーバ		
推奨 WINS サーバ		
代替 WINS サーバ		
デバイス設定 / ネットワーク出力先の資格情報 [構成] タブで **[編集]>[デバイス設定]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
ユーザー名、パスワード、ドメイン		• スキャンステーションのアカウント作成については、第 9 章「ベストプラクティス」を参照してください。 • 第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。
自動設定スケジュール		

デバイス設定 / メール (SMTP) サーバー [構成] タブで **[編集]>[デバイス設定]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
メールサーバーアドレス		第 4 章の「メール設定の構成」を参照してください。
ユーザー名、パスワード、ドメイン		
ポート		
認証スキーム		
最大添付サイズ		
セキュリティ タイプ		
デバイス設定 /Active Directory Server [構成] タブで **[編集]>[デバイス設定]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバアドレス		第 4 章の「Active Directory Server の設定」を参照してください。
ユーザー名、パスワード、ドメイン		
ポート		
ベース DN		
検索フィールド属性		
E- メールアドレス属性		
フルネームフィールド属性		
ホームディレクトリ属性		
FAX フィールド属性		
セキュリティ タイプ		
デバイス設定 /Fax [構成] タブで **[編集]>[デバイス設定]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
外線番号		第 4 章の「FAX の設定」を参照してください。
モデム国コード		
LAN Fax サーバーのドメイン名		
ネットワーク出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
完全なディレクトリパス（スキャンイメージの格納フォルダ）。		第 6 章「ネットワーク出力先のセットアップ」。

プリンタ出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
完全なディレクトリパス（プリンタサーバー キューのディレクトリパス）		第 6 章「プリンタ出力先のセットアップ」。
ユーザー名、パスワード、ドメイン		
アドレス （プリンタ直結）		
ドライバ名 （プリンタ直結）		
ポート名（プリンタ直結）		
FTP 出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 6 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザー名、パスワード		
プロトコル (FTP)		
ポート番号		
Passive（有効 / 無効）		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザー名 • パスワード • ポート番号		
FTPS 出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 6 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザー名、パスワード		
プロトコル (FTPS)		
ポート番号		
暗号化		
Passive（有効 / 無効）		
SSL サーバー認証（有効 / 無効）		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザー名 • パスワード • ポート番号		

SFTP 出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
サーバー名とディレクトリパス		第 6 章「FTP サイトのセットアップ」。
ユーザー名、パスワード		
プロトコル (SFTP)		
ポート番号		
プライベートキーファイル、パスワード		
プロキシ • プロキシの種類 • プロキシアドレス • ユーザー名 • パスワード • ポート番号		
SharePoint 出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
SharePoint ウェブサイトの URL		第 6 章「SharePoint グループの追加」を参照してください。
ユーザー名、パスワード		
ドキュメントパス		
インデックスフィールド		
証明書、パスワード		
プロキシ • プロキシアドレス • ユーザー名 • パスワード • ポート番号		
Kofax Front Office Server 出力 [構成] タブで **[編集]>[出力先]** を選択すると、以下の設定が表示されます。		
設定項目	**使用する設定**	**参照先**
Kofax Front Office Server アドレス		第 6 章「Kofax Front Office Server グループの追加」。
ポート番号		
ユーザー名、パスワード		
クライアント ID		
ショートカットの種類		
ショートカット名		
インデックスフィールド		
証明書、パスワード		

3 インストールと使用

目次

セットアップの概要 3-1
省電力モードおよびスキャンステーションの起動 3-1
Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストール 3-2
メイン画面 3-3
メニュー 3-5
[ファイル] メニュー 3-5
[編集] メニュー 3-6
[スキャナ] メニュー 3-6
[ヘルプ] メニュー 3-9
アイコン 3-9

セットアップの概要

以下は、スキャンステーション 710/730EX の設定の準備に必要な内容を示します。

- スキャンステーションの梱包箱の中にある開梱手順に従って開梱します。
- スキャンステーションをセットアップし、必要な接続を行います。『インストールガイド』または第 1 章の「スキャンステーションのセットアップ」を参照してください。
- 第 2 章のインストール前のチェックリストを確認し、スキャンステーションの設定に必要なすべての情報を収集します。この情報を事前に用意しておくと、スキャンステーションの設定を容易に行うことができます。
- スキャンステーションを正しく接続したら、電源ボタンを押します。起動してアプリケーションが表示されるまでしばらく待ちます。
- *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを PC にインストールします。手順については、本章の後半の「*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストール」を参照してください。

省電力モードおよびスキャンステーションの起動

デフォルトでは、15 分間何も操作されないと、スキャンステーションは自動的に省電力モードになります。

スキャンステーションを省電力モードから起動するには、電源ボタンを押します。

Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションのインストール

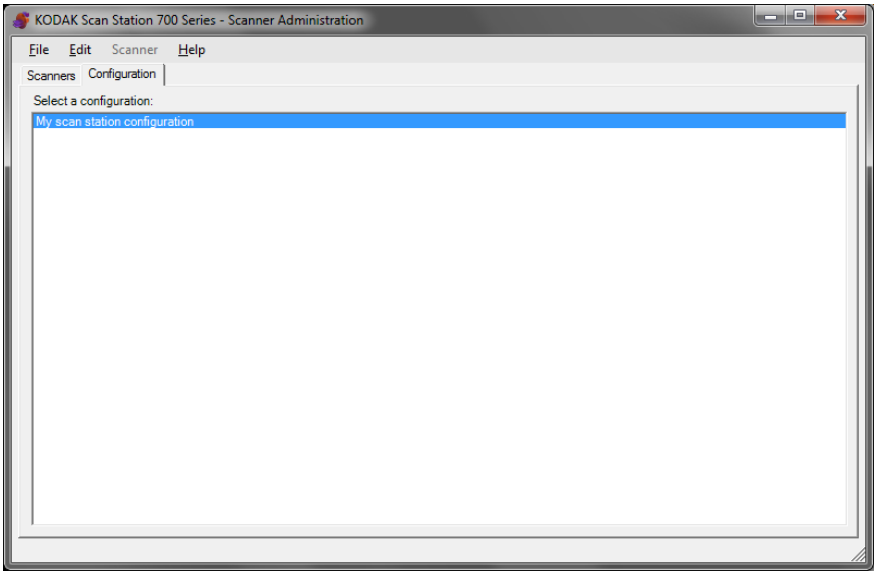
Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションをPCにインストールする必要があります。*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションを使用すると、スキャンステーション 700/710/720EX/730EX/500/520EX デバイスをネットワーク上で効率的にセットアップ、設定、管理ができます。アプリケーションは コダック スキャンステーション 500 や 700 に対してネットワークを介して通信するため、スキャンステーション毎の個別アクセスを低減できます。

1. 「スキャナー管理と参照資料」のインストール CD をインストールする PC の CD-ROM ドライブに挿入します。ソフトウェアのインストールが自動的に始まります。

   注：.NET Framework 4.0 がインストールされていない場合、インストーラは、スキャナー管理アプリケーションをインストールする前に .NET Framework 4.0 をインストールします。

2. *Kodak* Scan Station 700 シリーズのスプラッシュ画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
3. ［ようこそ］画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
4. ソフトウェアライセンス使用許諾を読み、**[同意する]** をクリックしてから、**[次へ]** をクリックします。

   [インストール準備の完了] 画面が表示されます。
5. **[インストール]** をクリックして続行します。
6. スキャナー管理アプリケーションのインストール完了後、**[完了]** をクリックします。
7. インストール CD を CD-ROM ドライブから取り出します。
8. インストール後にアプリケーションを実行すると、[*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理] メイン画面が表示されます。

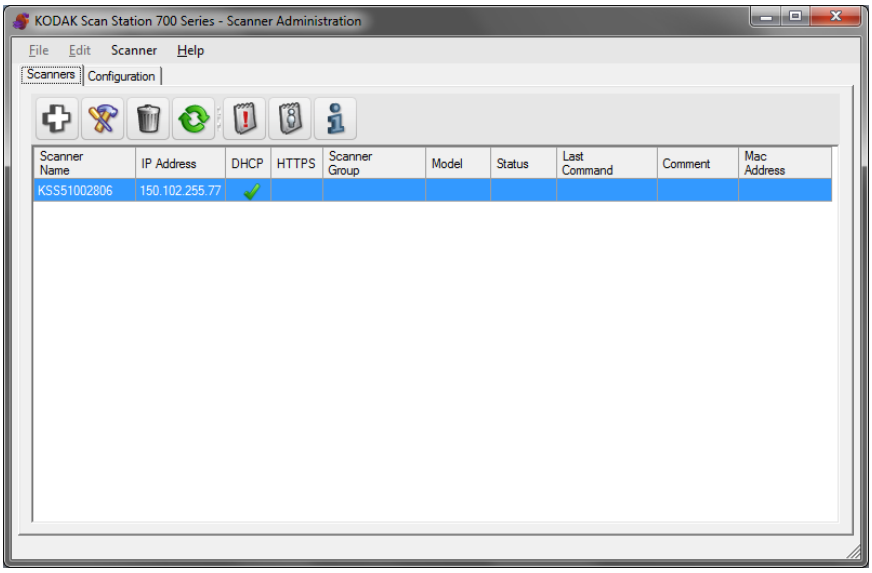


メイン画面

メイン画面には 2 つのタブがあります。

- **[スキャナー] タブ** — 検出 / 構成済みのスキャンステーションを監視できます。詳細については、第 9 章、*「スキャンステーションの管理と監視」* を参照してください。

  注：スキャンステーション 710/730EX 以外に、*コダック* スキャンステーション 500/520EX/700/720EX を [スキャナー] タブや [スキャナー] メニューから管理できます。

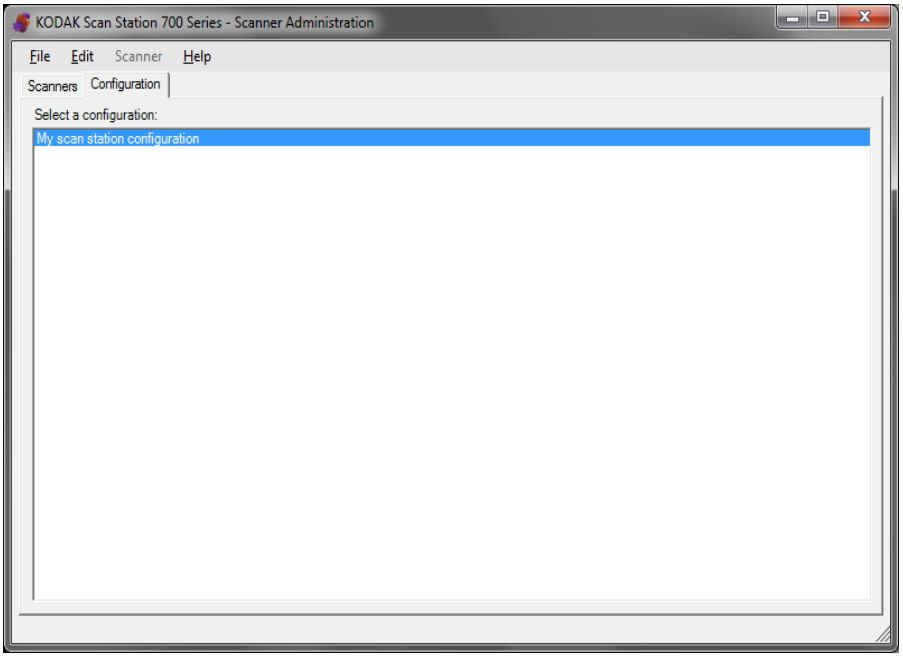


- **[構成] タブ** — スキャンステーションをセットアップできます。設定を 1 つ作成すると、設定のリストを示すこの画面が表示されます。

  注：[構成] タブ、[ファイル] メニュー、[編集] メニューは、スキャンステーション 700/710/720EX/730EX にのみ適用されます。

  スキャンステーション 500/520EX は、*コダック* スキャンステーション設定オーガナイザーを使用して構成してください。詳細については、*コダック* 500/520EX の『管理者ガイド』を参照してください。

*構成*は、デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブ設定の集合です。構成は PC の構成データベースに保存され、スキャナー管理アプリケーションでメンテナンスされます。設定の詳細な手順については、第 4 ～ 8 章で説明しています。



メニュー

[スキャナー管理] メイン画面では、[ファイル] メニュー、[編集] メニュー、[スキャナー] メニュー、[ヘルプ] メニューが使用できます。

注：[構成] タブでは、[ファイル]、[編集]、[ヘルプ] メニューが使用できます。

[スキャナー] タブでは、[スキャナー]、[ヘルプ] メニューが使用できます。

[ファイル] メニュー

[ファイル] メニューに表示されるメニューオプションを説明します。

追加 — デフォルトまたは既存の構成を元に新しい構成を作成します。

- **デフォルトの構成から**：このオプションを選択すると、[デバイス設定] 画面が表示されます。詳細については、第 4 章「*デバイス設定*」を参照してください。
- **選択した構成から**：このオプションを選択すると、[構成名] 画面が表示され、選択した構成に基づいて新規名称をつけることができます。（デフォルトではない）既存の構成に基づいて新規構成を作成する場合、元となる構成を選択後、**[ファイル]>[追加]>[選択した構成から]** を選択します。デフォルト以外に構成がない場合、オプションは選択できません。

保存 — スキャナー管理アプリケーションを実行中の PC にある構成データベースに選択した構成を保存します。

名前の変更 — [構成名] 画面が表示され、選択した構成の名前を変更できます。

削除 — 選択した構成を削除します。

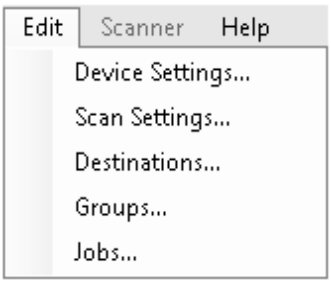
アップロード — 選択した構成をスキャンステーションに送信できます。スキャナー管理アプリケーションがスキャンステーションにアクセスできない場合、このオプションは選択できません。

インポート — 任意の場所からスキャナー管理アプリケーションに構成ファイルをインポートできます。

エクスポート — スキャナー管理アプリケーションから任意の場所に構成ファイルをエクスポートできます。

終了 — スキャナー管理アプリケーションを閉じます。

[編集] メニュー



以下は、[編集] メニューに表示されるメニューオプションの説明です。

デバイス設定 — スキャンステーションが電子メールを送信、セキュリティのためアクティブディレクトリサーバーと通信、スキャンステーションを初期設定、ファックス設定を行う必要のあるパラメータを選択することができます。詳細については、第 4 章 *「デバイス設定」* を参照してください。

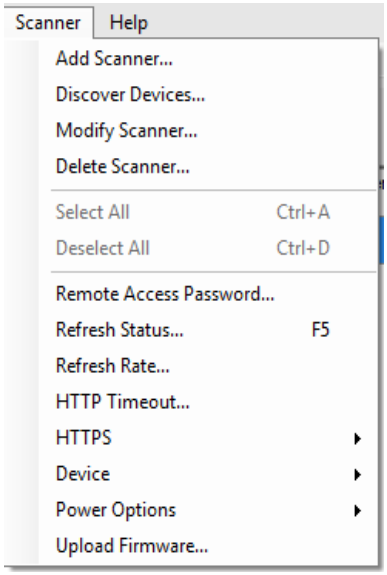
スキャン設定 — カラー / グレースケール / 白黒、出力ファイル形式、圧縮のような基本的な画像処理設定から穴埋めや縦縞フィルタなどの高度なオプションまで設定できます。詳細については、第 5 章「*スキャン設定*」を参照してください。

出力先 — スキャンイメージを送信する場所を定義し、出力先（例：メール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP サイトなど）を追加 / 変更できます。詳細については、第 6 章「*出力先の作成*」を参照してください。

グループ — Active Directory Server のユーザーグループを作成 / 変更することができます。Active Directory Server グループ以外のその他ユーザーも追加できます。詳細については、第 7 章「*グループの追加と管理*」を参照してください。

ジョブ — スキャン設定、出力先、ユーザーグループの集合であるジョブの作成 / 変更ができます。詳細については、第 8 章「*ジョブの作成*」を参照してください。

[スキャナー] メニュー



以下は、[スキャナー] メニューに表示されるメニューオプションの説明です。これらのオプションに関する手順については、第 9 章、*「スキャンステーションの管理と監視」* を参照してください。

[スキャナーの追加] —［スキャナーの追加］ダイアログボックスが表示され、リモート管理するスキャンステーションを登録できます。

機器の検出 — IP アドレス範囲をスキャンして、その範囲内でリクエストに応答する任意のスキャンステーションを自動的に登録します。

注：リモートアクセスパスワードを設定した任意のスキャンステーションは、検出リクエストには応答しません。このような場合、**[スキャナ] > [スキャナを追加]** を選択してスキャンステーションの名前または IP アドレスとスキャンステーションのパスワードを入力することによりスキャンステーションを動で追加する必要があります。

[スキャナー編集] — 選択したスキャンステーションの名前を変更したり、ネットワーク設定を設定できます。

[スキャナーの削除] — 管理下にあるスキャンステーションのリストから選択したスキャンステーションを削除できます。

すべてを選択 — リストに表示されたすべての スキャンステーションを選択できます。[Ctrl+A] を押してすべてのスキャンステーションを選択することもできます。

すべての選択を解除 — 現在選択されているすべての スキャンステーションの選択を解除できます。[Ctrl+D] を押して解除することもできます。

リモートアクセスパスワード — [リモートアクセスパスワード] ダイアログボックスが表示され、スキャンステーションのネットワーク接続に使用するパスワードを変更できます。

このパスワードは、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナ管理とスキャンステーションとの通信に使用します。1 つの組織には、同時に実行するスキャナ管理ソフトウェアが 2 つ以上存在してもかまいません。特定のスキャンステーションのパスワードを知っている場合のみ、そのスキャンステーションと通することができます。リモートアクセスパスワードを持つスキャンステーションがグリッドビューから削除された場合、グリッドビューにスキンステーションを戻すにはパスワードが必要になります。詳細については、第 9 章の「グリッドビュー」を参照してください。

[ステータスの更新] — 選択したスキャンステーションの現在の状態を表示します。

- **[省電力]** — 現在、ネットワーク上でアクティブですが、使用していません。

  注：タッチスクリーンを使用した場合、スキャンステーションは *[使用中]* の状態になります（以下参照）。

- **[スキャン中]** — スキャンステーションはスキャン中です。
- **[イメージ処理中]** — スキャンステーションはイメージ処理を実行中です（例：イメージを PDF に変換中）。
- **[メール送信中]** — スキャンステーションはメールを送信しています。
- **[保存中]** — イメージを USB メモリ、ネットワークフォルダ、FTP サイト、SharePoint に保存しています。
- **[印刷中]** — スキャンステーションはリモートプリンタを使用してイメージを印刷しています。
- **[スキャン完了]** — スキャンステーションはスキャンセッションを正常に完了しました。[完了] を選択すると、スキャンステーションは *[省電力]* 状態に移行します。
- **[エラー]** — スキャンステーションはスキャンセッションの完了に失敗しました。[完了] を選択すると、スキャンステーションは *[省電力]* 状態に移行します。
- **[キャンセル]** — スキャンセッションはキャンセルされました。非アクティブ時間の上限に達すると、スキャンステーションは *[省電力]* 状態に移行します。
- **[プレビュー]** — スキャンステーションはプレビュー機能を使用しています。
- **[FAX 送信中]** — FAX を送信中です。スキャンステーションが現在スキャン中ではない場合にのみ表示されます。
- **[FAX 受信中]** — FAX を受信中です。スキャンステーションが現在スキャン中ではない場合にのみ表示されます。
- **[電源の停止中]** —スキャンステーションは電源シャットダウン中です。
- **[再起動中]** — スキャンステーションは再起動のプロセス中です。

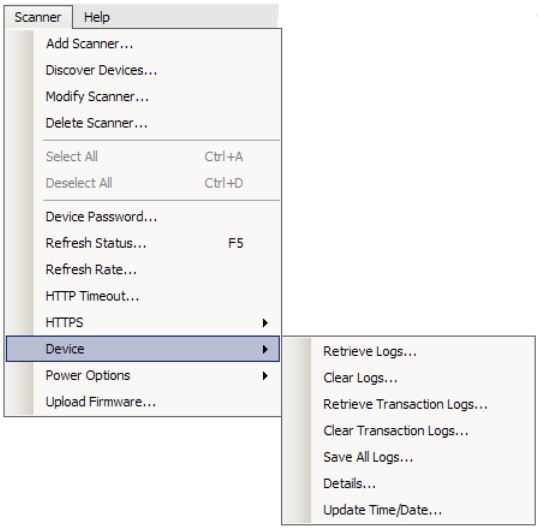
- **[更新中]** — 設定ファイルまたはファームウェアを更新中です。
- **[使用中]** — USB メモリが挿入され、ユーザがログイン中、あるいはスキャンステーションを操作している場合に表示されます。
- **[見つかりません]** — ネットワーク上にスキャンステーションが認識されません（電源オフなど）。

更新率 — アプリケーションがすべてのスキャンステーションと通信する回数を設定できます。

HTTP タイムアウト — HTTP コマンドが完了するまでの待機時間（単位：秒）を調整できます。一部のコマンドがタイムアウトして完了しない場合、長い時間に調整します。

HTTPS — スキャナー管理アプリケーションとスキャンステーション間の通信時に、**HTTPS** によってデータを暗号化します。

[デバイス] — 以下のオプションがあります。これらの機能の使用方法についての詳細は、第 9 章「*スキャンステーションの監視と管理*」で説明しています。



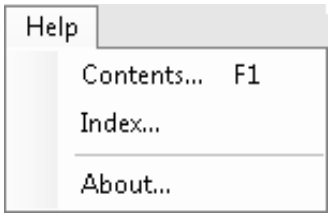
- **ログの取得**：選択したスキャンステーションから取得したログ ファイルを保存できます。
- **ログの消去**：選択すると、***「選択したスキャナーのログ ファイルを削除してもよろしいですか？」*** というメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックすると、ログ ファイルは削除されます。
- **トランザクション ログの取得**：選択したスキャンステーションから取得したトランザクション ログ ファイルを保存できます。
- **トランザクション ログの消去**：選択すると、「***選択したスキャナーのトランザクション ログファイルを削除してもよろしいですか？***」というメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックすると、トランザクション ログ ファイルは削除されます。
- **すべてのログを保存**：選択したスキャンステーション上のすべてのログ ファイルを任意のディレクトリに保存します。ログはスキャンステーションの任意のディレクトリの [デバイス名] フォルダに保存されます。

- **詳細**：選択したスキャンステーションに関するデバイス情報が表示されます（ネットワーク設定、ソフトウェアのバージョン、ページカウントなど）。
- **日時の更新**：選択したすべてのスキャンステーションの NTP 時間サーバーを設定できます。

[電源オプション] — 選択したスキャンステーションの再起動 / 電源オフが実行できます。

[ファームウェアのアップロード] — [開く] ダイアログボックスが表示され、スキャンステーションにファームウェアの更新情報をアップロードできます。

[ヘルプ] メニュー



以下は、[ヘルプ] メニューに表示されるメニューオプションの説明です。

目次 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナ管理のヘルプトピックを提供します。

索引 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ X - スキャナ管理の ヘルプトピックを提供します。

バージョン情報 — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナ管理アプリケーションの [バージョン情報] 画面を表示し、現在のバージョンのソフトウェアに関する情報表示します。

アイコン

第 4 章～第 8 章では、スキャンステーションの設定を手順毎に説明します。通常、画面には以下のアイコンが 1 つ以上あります。

新規項目を作成します。

既存の項目を編集します。

選択した項目を削除します。

スキャンステーションの現在の状態を表示します。
- 待機中
- スキャン中
- 画像処理中
- メール送信中
- 保存中
- 印刷中
- スキャン完了
- エラー
- キャンセル
- プレビュー
- FAX 送信中
- FAX 受信中
- 電源の停止中
- 再起動中
- 更新中
- 使用中
- 見つかりません

選択したスキャンステーションのログファイルを検索、表示、保存ができます。

選択したスキャンステーションにトランザクションログファイルの表示や保存ができます。

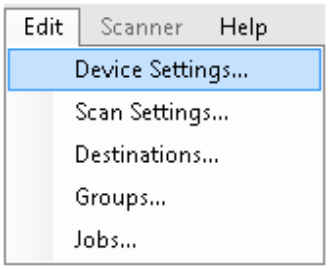
選択したスキャンステーションの詳細情報を表示します（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）。

4 デバイス設定の設定

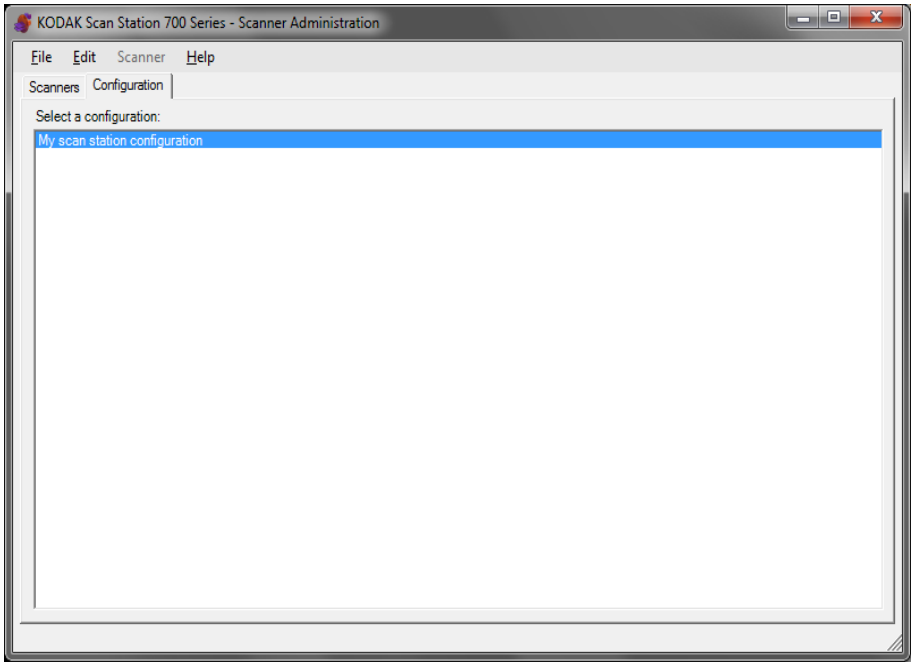
目次

デバイス設定 4-1
- デバイスオプションの設定 4-3
- E メールの設定 4-8
- Active Directory Server 設定 4-10
- FAX の設定 4-12

デバイス設定



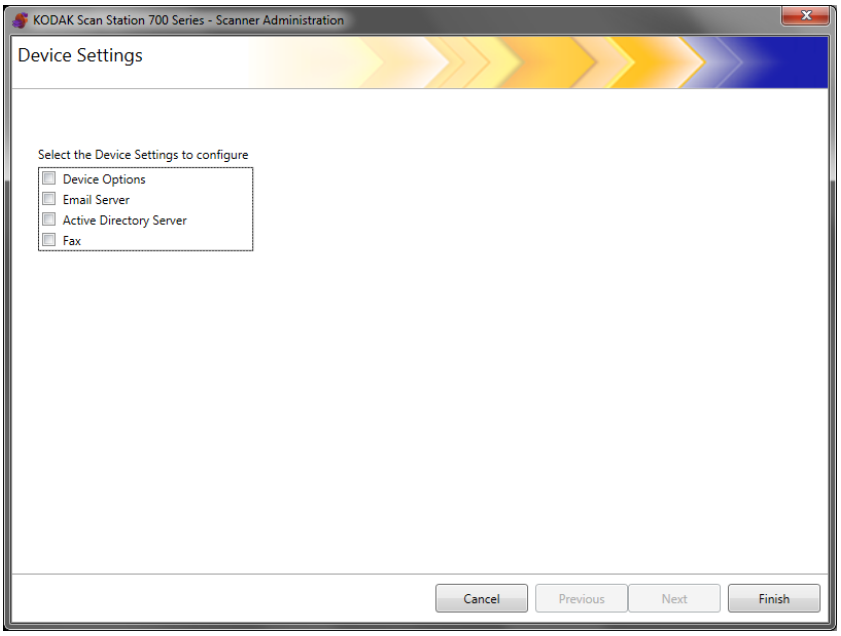
デバイス設定オプションでは、電子メールの送信、ファックスの送受信、認証目的でのアクティブディレクトリサーバーとの通信、およびスキャステーションのデフォルトの設定のためにスキャンステーションを設定することができます。



構成を設定するには

1. 設定を適用する構成を選択するか、新規構成を作成します（**[ファイル]>[追加]**）。

2. **［編集］>［デバイス設定］**を選択します。

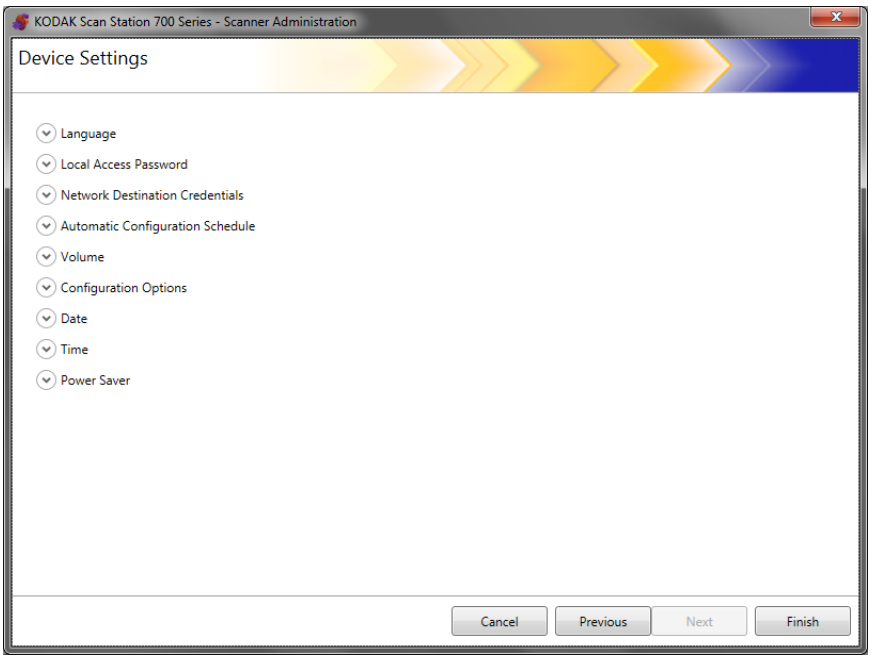


設定するすべてのオプションを選択して、**［次へ］**をクリックします。オプション毎に実行します。

- **デバイスオプション** — 以下のオプションが設定できます。
  - 言語
  - ローカルアクセスパスワード
  - ネットワーク接続先証明書
  - 自動設定スケジュール
  - 音量
  - 設定のオプション
  - 日時
  - 省電力
- **メールサーバ** — スキャンステーションでイメージをメール送信する場合は、メールサーバへのアクセス方法を定義します（SMTP、送信元のメールアドレスなど）。
- **Active Directory Server** — Active Directory Server との接続を設定できます。これにより、スキャンステーションで資格情報の認証や、ネットワーク上のホームディレクトリなどのユーザ情報を認識できます。
- **Fax** — FAX 送信 / 受信を設定できます。

デバイスオプションの設定

この画面では、以下のデバイスオプションを設定できます。

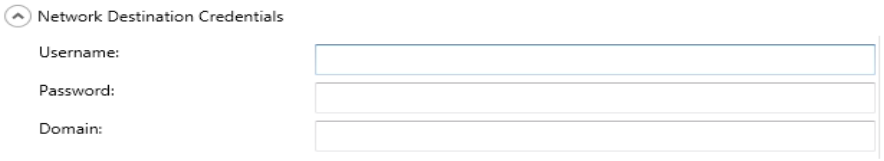


言語 — 下矢印をクリックして、スキャンステーションのディスプレイで使用する言語を選択します。

ローカルアクセスパスワード — スキャンステーションへのアドミニストレータアクセス用のパスワードを設定できます。

ユーザログインの強制	ローカルアクセスパスワード設定	ローカルアクセスパスワード空欄 (デフォルト)
オン	ユーザ名とパスワードを使ってスキャンステーションにログインする必要があります。設定ファイルを含むUSBメモリを挿入する場合、スキャンステーションを更新するにはローカルアクセスパスワードが必要です。	ユーザ名とパスワードを使ってスキャンステーションにログインします。設定ファイルを含むUSBメモリが挿入されている場合、スキャンステーションを更新するためにパスワードは必要ありません。
オフ	スキャンステーションを使い、設定ファイルを適用するには、ローカルアクセスパスワードが必要です。	アクセス制御なし。
特権を有さないユーザがアドミニストレータ機能にアクセスすることを防ぐために、ローカルアクセスパスワードを設定することをお勧めします		

ネットワーク出力先証明書 — このオプションを選択すると、ネットワークアクセスに必要な**ユーザー名、パスワード、ドメイン**を定義します。



注：**[ユーザログインの強制]** (アクティブディレクトリサーバー画面で) が有効でない場合に、ネットワークフォルダにのみ使用されます。

1. スキャンステーションに割り当てられたネットワークユーザ名を入力します。詳細については、第 2 章の「ネットワーク設定の詳細」を参照してください。

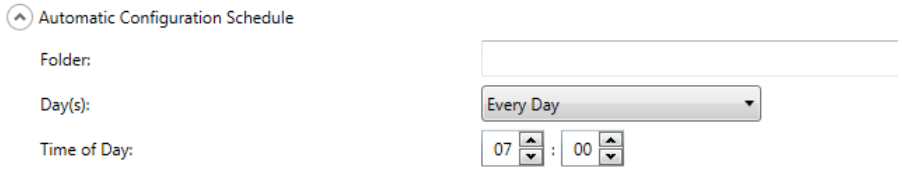
   注：スキャンステーションからネットワークプリンタ、ネットワーク共有フォルダへアクセスする場合、提供される証明書には各リソースにアクセスできる権限がある必要です。

2. ネットワークユーザ名のパスワードを *[パスワード]* フィールドに入力します。

   注：このパスワードはスキャンステーションだけで使用され、判読可能なフォーマットでは表示されません。パスワードは暗号化されます。

3. スキャンステーションが接続する Microsoft ネットワークドメイン名を *[ドメイン]* フィールドに入力します。ワークグループ環境では、このフィールドを空欄のままにできます。

自動設定スケジュール — 特定の日時に更新された設定およびファームウェアの更新をスキャンステーションで検索できるように設定できます。このオプションを選択すると、更新された設定をスキャンステーションで自動的に検索できます。



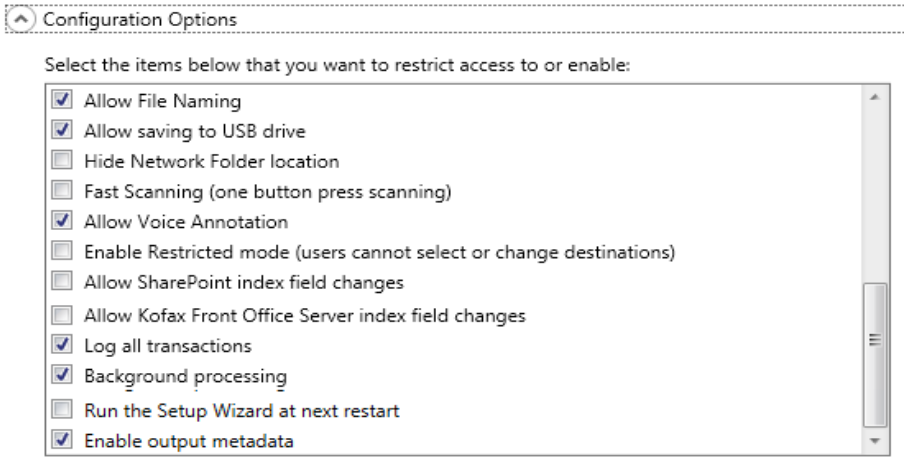
1. スキャンステーションが更新設定ファイルを監視するネットワークフォルダを入力します。
2. 操作を実行する曜日（複数選択可）を選択します。
3. スキャンステーションが更新設定の有無を確認する時間を選択します。

   注：この方法を使って設定を更新する場合、[スキャナを追加] および [スキャナを更新] ダイアログボックスのフィールドは更新されません。*スキャナ名*、*IP アドレス* および *リモートアクセスパスワード*。

音量 — スキャンステーションのマスタ音量を調整できます。これは、FAX モデムおよび音声アノテーションの再生のスピーカー音に影響を与えます。

注：音量を変更しても FAX のダイアル音がしない場合は、スキャンステーションを再起動する必要があります。

設定のオプション — 以下のオプションがあります。



- **ファイルの名前付けを許可** — 有効な場合、スキャンステーションでファイル名オプションの設定が可能です。
- **[USB メモリへの保存を有効にする]** — USB メモリへのイメージ保存を有効にします。この機能は、厳格なセキュリティが必要な環境などで有効です。
- **[ネットワークフォルダロケーションの非表示]** — ネットワークパスの一部を隠す場合はこのオプションを有効にします。このオプションが有効にされると、スキャンステーションタッチスクリーンにはネットワークフォルダパスの一部しか表示されません。例：\\server\myfolder は **...\myfolder** のように表示されます。
- **[ファストスキャン]（ボタンを押すとスキャン）** — 10 秒間待機しないですぐにスキャンを実行し、[設定レビュー] 画面と [保存先レビュー] 画面が表示されます。スキャンセッションが失敗した場合のみメッセージが表示されます。
- **[音声注釈を有効にする]** — 有効にするとバッチスキャン毎に音声ファイルを記録できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **［制限モードを有効にする］（出力先の選択 / 変更を許可しない）** ― 有効にすると、ユーザーはタッチスクリーンから設定済みのジョブだけを選択できます。ユーザはジョブの変更ができません。
- **[SHAREPOINT インデックスフィールドの変更を許可]** ― 有効にすると、既存のインデックスフィールドを変更できます。
- **[Kofax Front Office Server インデックスフィールドの変更を許可]** ― 有効にすると、既存のインデックスフィールドを変更できます。
- **[すべてのトランザクションを記録]** ― すべてのトランザクション（ログイン、スキャン、出力先への保存に関連する全動作）を個別のトランザクションファイルに記録できます。このファイルは XML 形式で、スキャンステーションからダウンロードできます。この機能はセキュリティを重視する環境や、トランザクションを請求書作成などに使用する環境で有効です。デフォルトでは、全トランザクションが記録されます（チェックマークがオンになっています）。チェックボックスを無効にするとトランザクションのログを生成しません。
- **バックグラウンド処理** ― ジョブの処理方法を選択します。[バックグラウンド処理] を選択した場合、すべてのジョブがキューに送信され、デフォルトでは先入れ先出し (FIFO) 方式で処理されます。これにより、最初のスキャンジョブがまだ処理中であっても、スキャン完了後に 2 番目のスキャンジョブをただちに開始できます。
- **次の起動時にウィザードを実行する** ― 有効にすると、次回起動時にセットアップ ウィザードが自動起動し、ネットワーク接続時の設定オプション（時間、日付など）を順番に選択できます。

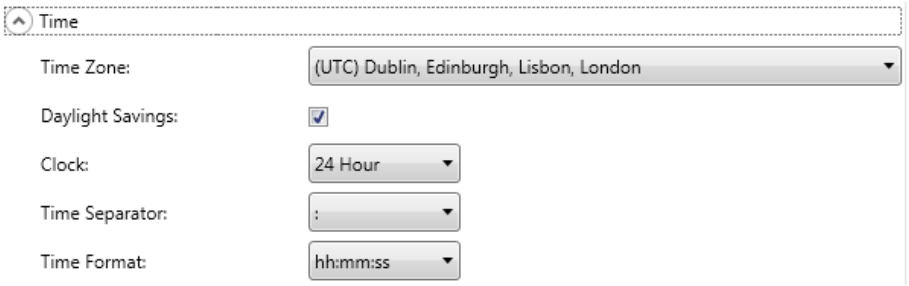
  注：セットアップウィザードは、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ本体から実行します。

- **出力メタデータの有効化** ― 各ドキュメントがスキャンされると、.xml ファイルが作成され、スキャンファイルとともに出力先へ送信されます。メタデータの検証に使用できる .xsd ファイルはインストール用 CD にあります。

日付 — スキャンステーションの日付フォーマットを設定します。

1. *[日付区切り文字]* ドロップダウンリストから、日付の区切りに使用する記号を選択します。
2. *[日付フォーマット]* ドロップダウンリストからフォーマット（年、月、日）を選択して、表示方法を決定します。

時間 — スキャンステーションの時間フォーマットを設定します。



1. スキャンステーションの場所に基づいて、**[時間帯]** を選択します。

   注：スキャンステーションが異なる時間帯にある場合、個別の設定ファイルが必要です。

2. スキャンステーションでサマータイムを自動的に調整したい場合は、**[サマータイム]** チェックボックスを選択します。
3. **[クロック]** ドロップダウンリストから、**[12 時間]** または *[24 時間]* 時間フォーマットのどちらかを選択します。
4. *[時間区切り]* ドロップダウンリストから時間の区切りに使用する記号を選択します。
5. 時間フォーマットで表示する時、分、秒の表示方法を選択します。**hh:mm:ss**、**h:mm:ss**、**hh:mm**、**h:mm**。

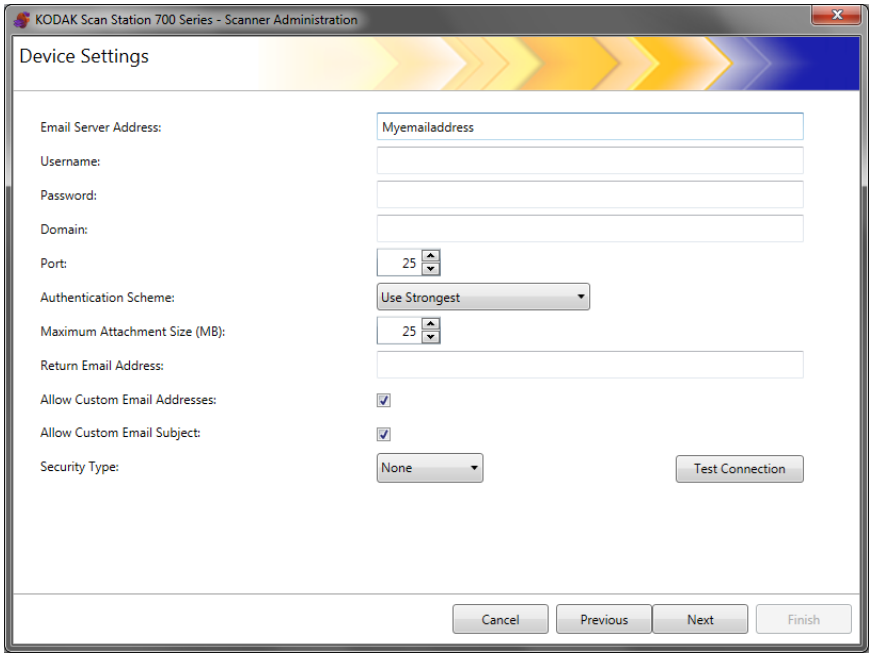
省電力 — 未使用状態から省電力モードに移行するまでの時間を設定します。デフォルトは 15 分です。

デバイス設定のメイン画面で選択したオプションに応じて、**[次へ]** をクリックすると設定する次のデバイスが表示され、**[完了]** をクリックすると [構成] タブに戻ります。

メールの設定

スキャンステーションでイメージをメール送信するには、スキャンステーションがメールサーバへアクセスする方法を定義する必要があります。

1. **[メールサーバ]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。



2. SMTP サーバの IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を *[メールサーバアドレス]* フィールドに入力します。
3. SMTP サーバから要求された場合、スキャンステーションがログインするメールサーバアカウントの**ユーザー名**、**パスワード**、**ドメイン名**を入力してください。
4. 通常、メールサーバとはポート 25 で接続します。使用するメールサーバーを別のポートで接続する場合は、該当のポート番号を選択します。
5. メールサーバが使用する SMTP 認証スキーマを選択する場合、**[認証スキーム]** を選択します。次のオプションから選択します。
   - 最高を使用
   - なし
   - 通常
   - ログイン
   - MD5 チャレンジレスポンス
   - NTLM

   注：**[最高を使用]** を選択すると、メールサーバで利用できる最高の認証スキーマを選択します。認証スキーマの詳細は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
6. **[最大添付サイズ]** (1 ～ 99 MB) を 1 MB 刻みで選択します。

7. スキャンステーションから送信したメールが届かない場合に、通知を受け取るためのメールアドレスを *[送信元 E メールアドレス]* に入力します。このメールアドレスも、電子メールの*差出人*フィールドに表示されます。
8. アドレス帳に登録されていないメールアドレスの入力をユーザに許可しない場合は、**[カスタムメールアドレスを許可する]** を無効にします。
9. メールの件名欄への入力を許可しない場合は、**[カスタムメール件名を許可する]** を無効にします。
10. メールサーバにセキュリティ保護を設定する場合は [セキュリティの種類] を選択します。選択内容は以下のとおりです。**なし**、**SSL**、**StartTLS 使用**。
    - **SSL**：メールサーバで Secure Socket Layer (SSL) が必要な場合は、このオプションを選択します。
    - **StartTLS 使用**：セキュア SMTP 接続を有効にする場合は、このオプションを選択します。

    注：メールサーバが StartTLS を設定していることを確認してください。設定されていないと、スキャンステーションはメールを送信できません。
11. 行った設定が正しいか確認する場合は、**[接続のテスト]** をクリックします。終了すると、*[成功]* または *[失敗]* のメッセージが表示されます。接続のテストに失敗した場合は、設定が正しいか確認して必要に応じて設定内容を修正してください。その後、再度テストを実行し、*「成功」*メッセージが表示されることを確認します。

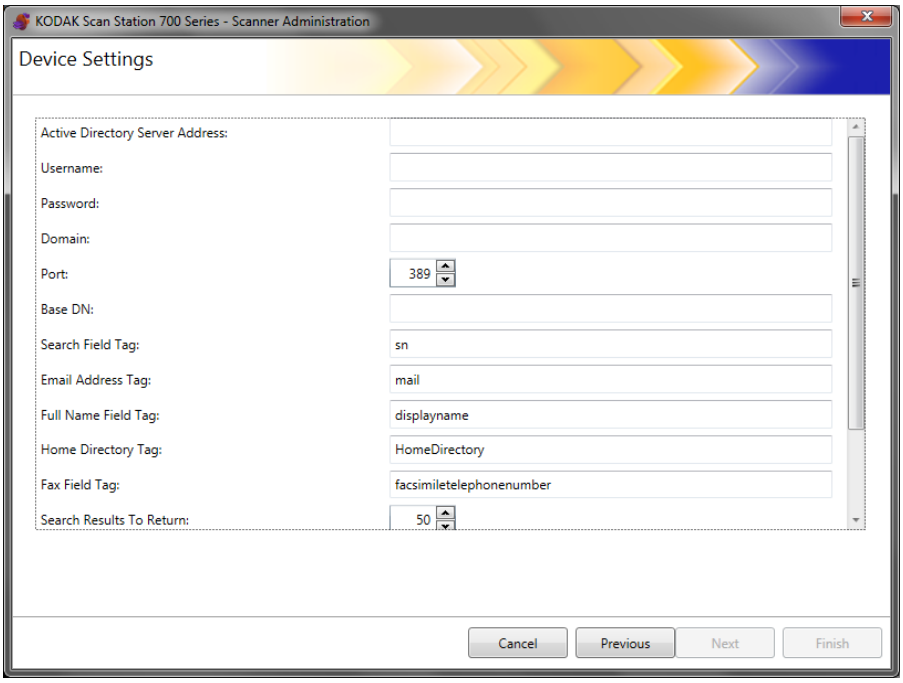
    注：[接続のテスト]ボタンの表示にスクロールバーの使用が必要になる場合があります。

デバイス設定のメイン画面で選択したオプションに応じて、**[次へ]** をクリックすると設定する次のデバイスが表示され、**[完了]** をクリックすると [構成] タブに戻ります。

Active Directory Server の設定

Active Directory Server の設定を選択した場合は、以下のステップを続行します。選択しなかった場合は、設定する次のデバイスを示すセクションに移動してください。

Active Directory Server では、ネットワーク管理およびセキュリティのための中央の場所をセットアップできます。



1. IP アドレスまたは完全修飾ドメイン名を *[Active Directory Server アドレス]* フィールドに入力します。
2. SMTP サーバーから要求された場合は、Active Directory Server アカウントの**ユーザー名**、**パスワード**、**ドメイン名**を入力してください。
3. 通常は、Active Directory Server はポート 389 で接続します。使用する Active Directory Server が別のポートで接続する場合は、該当のポート番号を選択します。
4. ベース DN（識別名）、検索フィールド属性、E メールアドレス属性、フルネームフィールド属性は Active Directory Server の検索基準を定義します。文字列のフォーマットについては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。正しい形式を選択したら、**ベース DN**、**検索フィールド属性**、**E メールアドレス属性**、**フルネームフィールド属性**を入力します。
5. *[ホームディレクトリ属性]* フィールドに、ユーザーのホームディレクトリの場所を定義する Active Directory Server の属性の名前を入力します。Active Directory Server データベースで定義されているホームディレクトリが必要になります。

   [ユーザーログインの強制] を選択した場合、ログイン時に、自動的にホームディレクトリを出力先として使用します。

6. Active Directory ServerでFAX番号の検索時に使用する属性として、Active Directory Server **FAX フィールド属性**を入力します。詳細については、使用する正しい文字列（FAX 番号など）をネットワーク管理者に問い合わせてください。
7. *[検索結果から戻る]*で検索を実行した際に表示する検索結果の最大数を設定します。1 から 1000 までの値を選択します。

注：**[セキュリティの種類]**、**[ユーザログインの強制]**、**[接続のテスト]** オプションにスクロールバーが表示される場合があります。

8. Active Directory Server の接続を設定する場合は **[セキュリティの種類]** を選択します。選択内容は以下のとおりです。**なし**、**SSL**、**TLS**。
   - **[SSL]** または **[TLS]** を選択した場合、*[証明書]* と *[証明書パスワード]* フィールドが表示され、証明書ファイルを選択できます。
   - パスワードを要求する証明書もあります。パスワードが必要な場合は、パスワードを入力します。
9. **[ユーザログインの強制]** を選択した場合、スキャンセッションを開始する前にログインすることが求められます。ログインするには、ユーザ名、パスワード、およびドメインを入力する必要があります。これらの証明書は、ネットワークリソースにアクセスするために使用されます。

   注：**[ユーザログインの強制]** を有効にした場合でも、デフォルトの管理者アカウントを使用してスキャンステーションにログインすることができます。初期設定ではローカルアクセスパスワードは「空欄」なので、ユーザ自身でパスワードを設定して管理機能へのアクセスを防ぐ必要があります。このローカルアクセススワードの詳細については、この章のはじめにある「デバイスオプションの設定」セクションを参照してください。

10. 行った設定が正しいか確認する場合は、**[接続のテスト]** をクリックします。終了すると、*[成功]* または *[失敗]* のメッセージが表示されます。接続のテストに失敗した場合は、設定が正しいか確認して必要に応じて設定内容を修正してください。その後、再度テストを実行し、*「成功」*メッセージが表示されることを確認します。

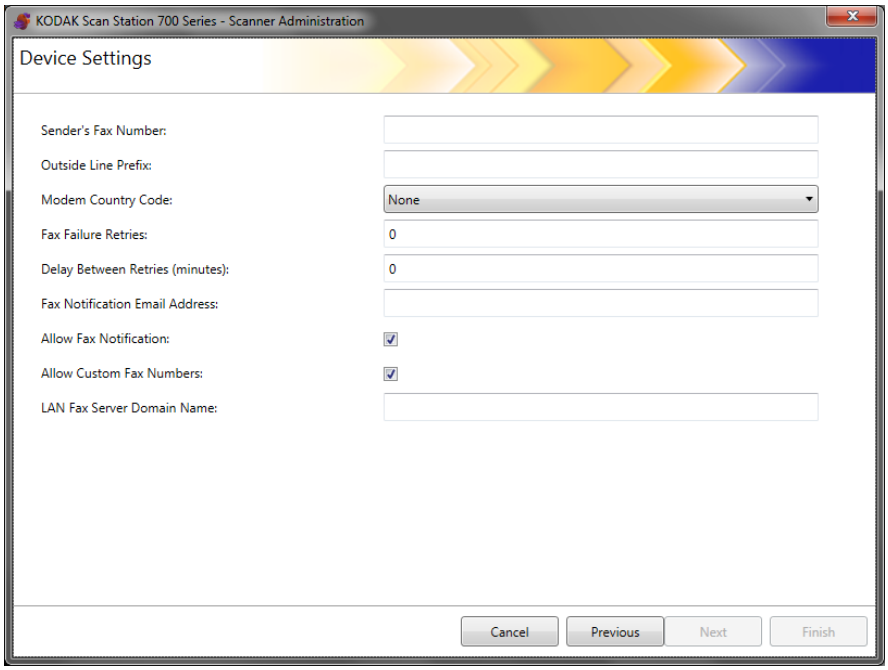
デバイス設定のメイン画面で選択したオプションに応じて、**[次へ]** をクリックすると次のオプションが表示され、**[完了]** をクリックすると [構成] タブに戻ります。

FAX の設定

Fax の設定を選択した場合は、以下のステップを続行します。

注：ダイヤルアップFAX設定はスキャンステーション 730EXで使用します。スキャンステーション 710 に送信する場合、ダイヤルアップ設定は無視されます。

FAX の設定では、スキャンステーションによる FAX 送信と受信を設定できます。



注：

- 手順 1 ～ 8 は、ダイヤルアップモデル（スキャンステーション 730EX）の手順です。
- *[送信者の FAX 番号]* フィールドに FAX 番号を入力します。この番号は送信される FAX のバナーに表示されます。

1. 使用する環境で外線用の番号が必要な場合は、外線用の番号を *[外線番号]* に入力します（通常は 9 を使用し、カンマ「,」は保留する際に使用します）。各カンマはダイアルシーケンスを 3 秒ほど停止させます。カンマを繰り返し使用することで停止時間を長くすることもできます。
2. **[モデム国コード]** を選択すると国とモデムを構成する関連コードのリストが表示されます。

3. スキャンステーションで FAX 送信を試行する回数を *[再試行回数]* フィールドに入力します。
4. *[FAX 送信の再送間隔（分）]* フィールドに、FAX の再送でスキャンステーションが待機する時間（分）を入力します。
5. FAX 送信ごとに（*成功*または*失敗*）の通知を受け取る個人を指定する場合は、個人 / グループのメールアドレスを *[FAX 通知メールアドレス]* フィールドに入力します。
6. ユーザが、メールアドレス、プリンター、あるいは「*成功*」または「*失敗*」の通知を指定することができるようにする場合は、「**FAX 通知を有効にする**」にチェックを入れてください。**[FAX 通知のメールアドレス]** と **[FAX 通知を有効にする]** を同時に作動させるには、以下の表を参照してください。

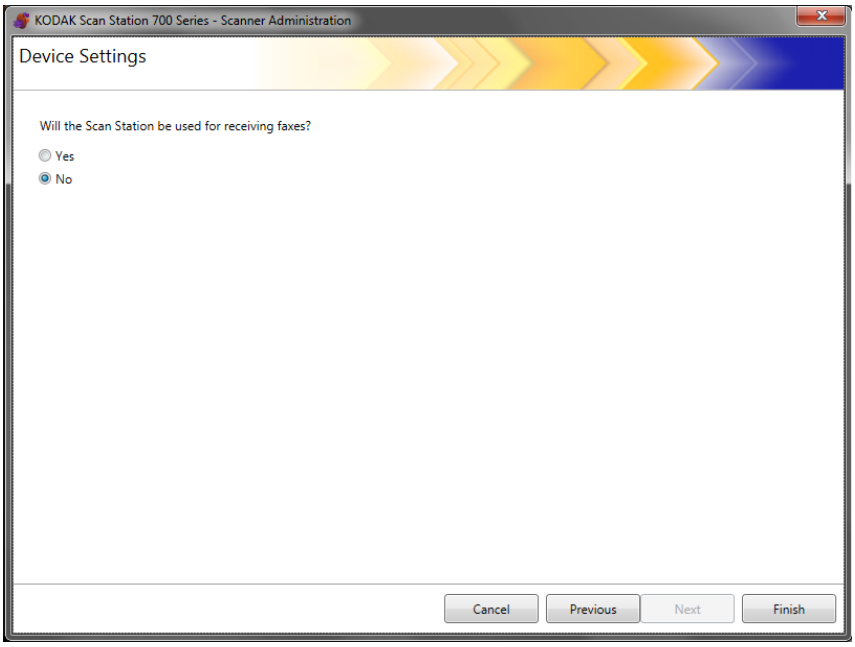
FAX 通知のメールアドレスフィールド	FAX 通知にチェックを付ける	FAX 通知のチェックを外す
指定した場合	• 通知は、*[FAX 通知メールアドレス]* フィールドに指定したアドレスに送信されます。 • スキャンの前にスキャンステーションにメールアドレスを入力することも可能です。メールアドレスが入力された場合、通知はそのアドレスにも信されます。	• 通知は、*[FAX 通知メールアドレス]* フィールドに指定したアドレスに送信されます。
空欄のままにした場合	• スキャンの前にスキャンステーションにメールアドレスを入力することができます。メールアドレスが入力された場合、通知はそのアドレスに送されます。	• 通知が受信できない。

注：出力先を定義し、少なくとも 1 つのプリンタを定義している場合に限り、FAX/ プリンタ通知を設定できます。プリンタのセットアップについては、第 6 章の「プリンタ出力先の設定」を参照してください。

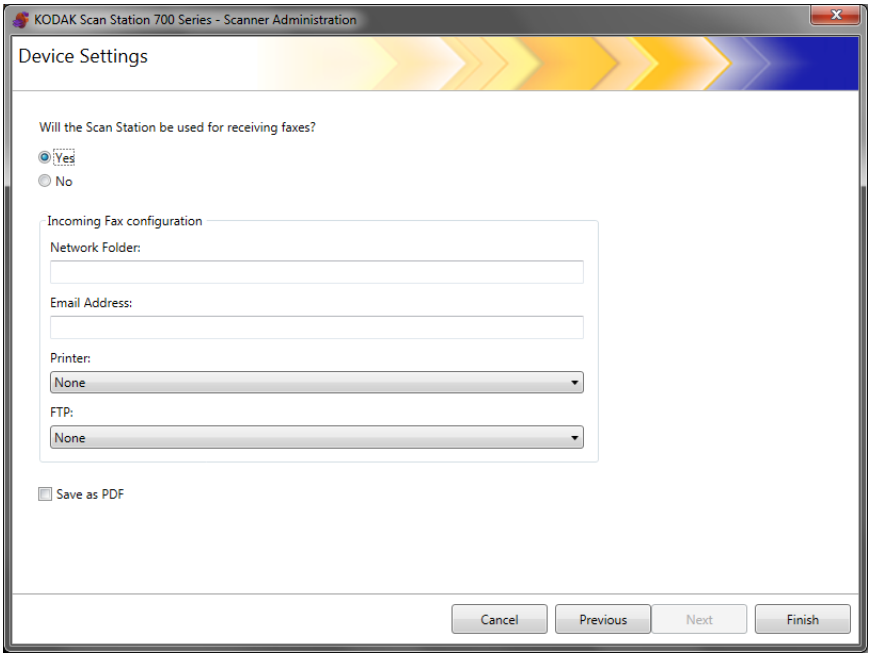
7. ユーザがスキャンステーションにFAX番号を入力できるようにする場合は、**[カスタム FAX 番号を有効にする]** にチェックを入れてください。
8. メール FAX サービス（Nextiva など）を使用する LAN FAX サーバのドメイン名を入力します。これにより、LAN FAX の出力先の送信方法が設定されます。

注：これはログインを必要としないドメインの FAX 番号に送信するメール FAX サービスのみ適用します。

9. 情報の入力が完了したら、**[次へ]** をクリックします。以下の画面が表示されます。



10. スキャンステーションの FAX 受信を拒否する場合は、**[いいえ]** をクリックします。FAX 受信する場合は、**[はい]** をクリックして、*[受信 Fax 設定]* に必要な情報を入力します。



必要に応じて、以下を入力します。

- 受信 FAX を保存するネットワークフォルダのフルパス名。
- FAX を受信する個人 / グループのメールアドレス。
- 印刷のために受信 FAX が送信されるプリンタ名。
- 受信 FAX が保存される FTP サイト。

11. 受信FAXをPDFファイルとして保存する場合は**[PDF として保存]**を選択します。

    注：

    - スキャンステーションで FAX 受信を設定する場合は、少なくとも1つの出力先を設定する必要があります。FAXは送信されません。
    - FAX がプリンタ、ネットワークフォルダ、FTP サイトのいずれかを経由する場合、選択可能にするために出力先を事前に作成する必要があります。

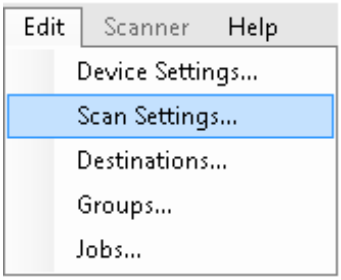
12. **[完了]** をクリックします。

5 スキャン設定の定義

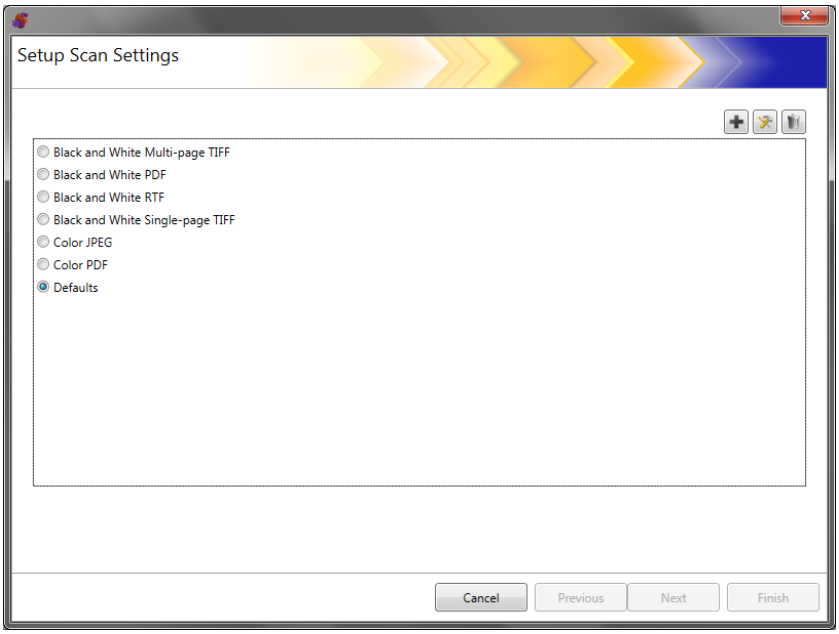
スキャン設定 5-3
白黒設定 5-5
カラー設定 5-6
詳細設定 5-8
PDF 設定 5-12
ファイル名設定 5-13

スキャン設定では、画像処理の基本的な設定を行います。カラー / グレースケール / 白黒、出力ファイルフォーマット、圧縮、パンチ穴除去や縦縞フィルタなどの詳細なオプションがあります。

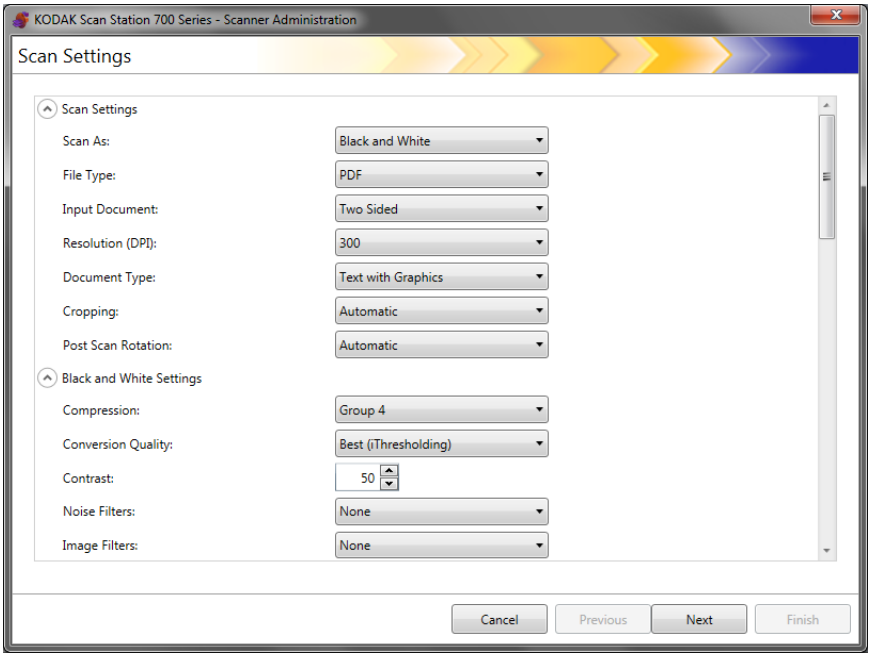
1. **［編集］> ［スキャン設定］**を選択します。



[スキャン設定のセットアップ] 画面が表示されます。



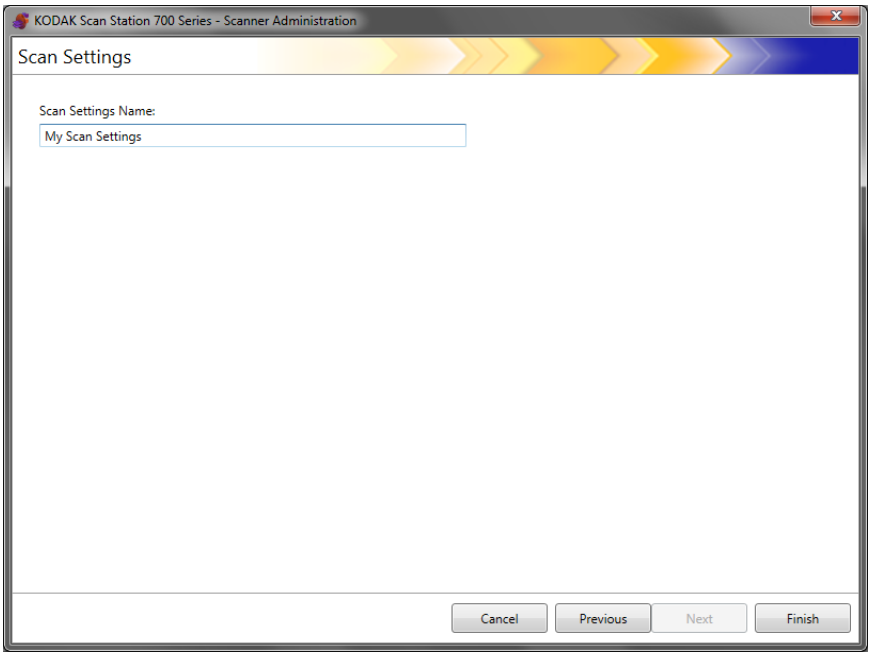
2. **追加** アイコンをクリックします。以下の画面が表示されます。



3. いずれかのカテゴリ（白黒設定、詳細設定など）から選択します。

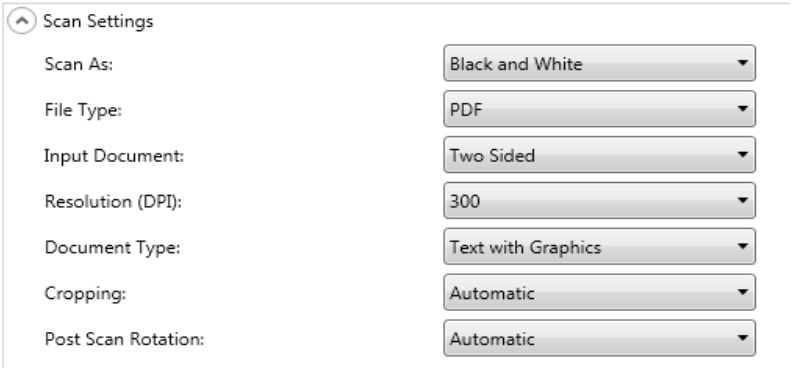
   注： オプションの詳細については、この後のセクションを参照してください。

4. 選択が完了したら、**[次へ]** をクリックします。



5. *[スキャン設定名]* フィールドに、名前を入力します。
6. **[完了]** をクリックします。
7. **[完了]** をクリックします。

スキャン設定



スキャン方法 — 書類をスキャンする方法を選択します**カラー、グレースケール、白黒が選択できます**。

ファイルの種類 — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **JPEG**：このオプションは、カラーまたはグレースケールで利用できます。*[スキャン形式]* の選択肢が **[白黒]** で **[JPEG]** が選択されている場合、*[スキャン形式]*の選択肢は自動的に**[カラー]**に変更されます。
- **TIFF - シングルページ**：両面スキャンページの片面を 1 ファイルとして、複数のファイルを作成します。**[なし]**（圧縮なし）、**[グループ 4]** 、**[JPEG]** 圧縮が選択できます。
- **TIFF - マルチページ**：スキャンされたすべてのページを 1 ファイルで作成します。**[なし]**（圧縮なし）、**[グループ 4]** 、**[JPEG]** 圧縮が選択できます。

  注：圧縮設定は、*[スキャン形式]* の選択肢によって異なります。*[スキャン形式]* が **[白黒]** の場合、圧縮設定は [白黒設定] から選択します。*[スキャン形式]* が **[カラー]** または **[グレースケール]** の場合、圧縮設定は [カラー設定] から選択します。

- **PDF**: PDF ファイルを作成します。詳細については、後述の「PDF 設定」を参照してください。
- **DOC**: Microsoft Word 文書を作成します。
- **RTF**: 多くのアプリケーションで読み取り可能なリッチテキスト形式のファイルを作成します。
- **XLS**: Microsoft Excel スプレッドシートを作成します。

注：

- DOC、RTF、XLS 形式にする場合、スキャンイメージから OCR 処理を実行します。生成される .doc、.rtf、.xls ファイルは OCR 結果に基づくので成果物は元の原稿と同じでない場合があります。
- DOC、RTF、XLS を選択すると、*[言語]* オプションが表示されます。ファイル生成に使用する言語を選択します。

入力タイプ — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **両面**：スキャンステーションは表面と裏面を一度にスキャンします。
- **片面（下向き）**：このオプションを選択した場合、原稿は伏せて（スキャンしたい面を入力トレイに向けて）にセットします。
- **片面（上向き）**：このオプションを選択した場合、原稿は仰向け（スキャンしたい面を自分に向けて）にセットします。

解像度 (DPI) — **100、150、200、240、300、400、600** dpi を選択します。解像度が高いと画像品質が高まりますが、ファイルサイズも大きくなります。

注：*ドキュメントのタイプ*が **PDF** の場合は、すでに PDF 解像度設定が使用されているため、この解像度設定は無視されます。

原稿の種類 — 以下のいずれかのオプションを選択します。

- **文字と図形**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト**：文字原稿の場合に選択します。
- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

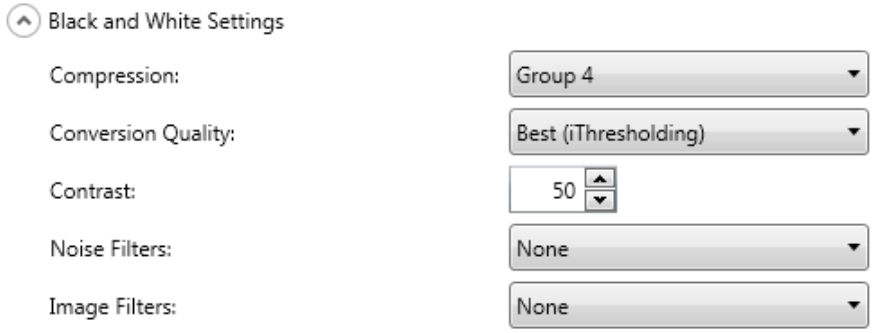
クロッピング — 以下のいずれかを選択します。

- **自動**：イメージ枠を自動的に検出し、必要に応じてまっすぐに修正します。
- **アグレッシブ**：イメージ枠を自動的に検出し、必要に応じてまっすぐに修正し、任意のイメージの端に残っている黒枠を消去します。この場合、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。

スキャン後の回転 — **[なし]** または **[自動]** を選択します。**[自動]** を選択すると、スキャンステーションは各書類の向きを判断し、画像を適正な方向に回転します。

白黒設定

[スキャン形式] が **[カラー]** または **[グレースケール]** の場合、[白黒設定] が選択できません。



圧縮 — **[なし]** または **[グループ 4]** が選択できます。

変換画質 — **[ベスト]** (iThresholding) または **[ノーマル]** (ATP) を選択できます。

- **ベスト (iThresholding)** — スキャンステーションが各原稿を動的に評価して最適なしきい値を決定するため、ベストの画質が得られます。このため、単一の設定で画質が異なる書類（文字のかすれ、影のある背景、カラーの背景など）もスキャンでき、書類の仕分けの手間を省略できます。**[ベスト]** を選択した場合、*[コントラスト]* のみが調整できます。
- **ノーマル (ATP)** (Adaptive Threshold Processing) — 画像での前景情報（テキスト、グラフィックス、線など）と背景情報（白または白以外の用紙の背景）を区別します。**[ノーマル]** を選択した場合、*[しきい値]* と *[コントラスト]* のどちらも調整できます。

コントラスト — イメージの前景の強弱を調整します。この設定を小さくすると、ノイズの量を減らせますが、薄い文字が消える場合があります。この設定を大きくすると、薄い文字が見えるようになりますが、ノイズが多くなる場合があります。

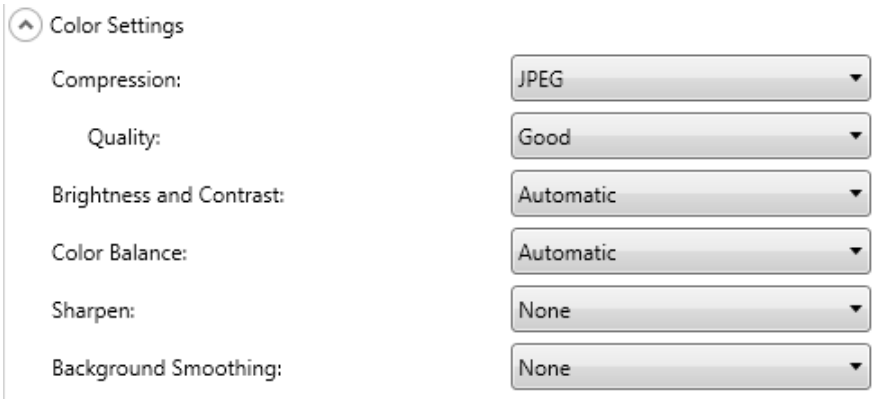
スレッショルド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1 ビット / ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションの範囲は、0 から 255 です。

ノイズフィルタ — 次のいずれかのオプションを選択します。

- **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

画像フィルタ — **[なし]** または **[ハーフトーン除去]** が選択できます。[ハーフトーン除去] では、ハーフトーン画面でドットマトリクステキストと画像の見栄えを良くします（新聞の写真など）。

カラー設定



圧縮 — **[JPEG]** または **[なし]** を選択します。[JPEG] では、表面と裏面のページについて複数のファイルを作成します。[JPEG] を選択する場合、[*品質*] オプションから、**[ドラフト]**、**[標準]**、**[高]**、**[最高]**、**[高品質]** が選択できます。

品質 — **[ドラフト]**、**[標準]**、**[高]**、**[最高]**、**[高品質]** の品質オプションを選択できます。ファイルを PDF として保存する場合、[**標準**] (150 dpi)、[**高**] (200 dpi)、[**最高**] (300 dpi) を選択すると、事前に定義された解像度設定が使用されます。PDF モードでスキャンする場合、スキャンステーション解像度設定は使用されません。

注： 品質設定は、ファイルの最終サイズに影響します（ファイルサイズは [ドラフト] で最小、[スーペリア] で最大になります）。

明度およびコントラスト — ［**なし**］、**[自動]**、［**手動**］のいずれかを選択できます。**[自動]** を選択する場合、使用する値はスキャンステーションが選択します。[**手動**] を選択した場合、すべての画像に特定の値を設定できます。

- **明度**：カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は 1 ～ 100 です。
- **コントラスト**：ピクセルの明暗差を調整します。

注：文字の薄い原稿の文字情報を維持する場合や暗い原稿で OCR スキャンする場合は、値を小さくします。

カラーバランス — 以下のいずれかを選択します。

- **なし**
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。写真への使用はお勧めしません。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度**：差異の程度を調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は -2 ～ 2 です。
- **手動**：全イメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤**：カラーイメージ中の赤の量を変更します。値の範囲は 1 ～ 100 です。
  - **緑**：カラーイメージ中の緑の量を変更します。値の範囲は 1 ～ 100 です。
  - **青**：カラーイメージ中の青の量を変更します。値の範囲は 1 ～ 100 です。

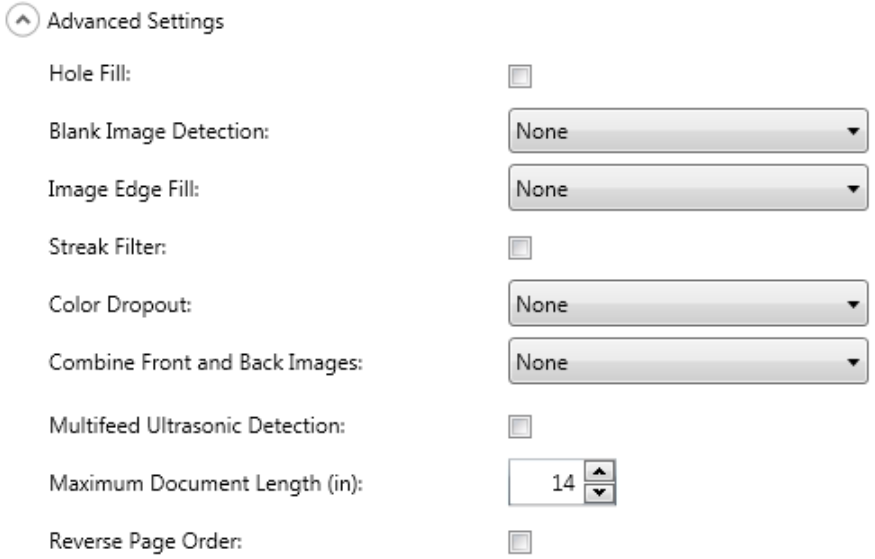
注： カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス — 文字の輪郭を調整します。オプションには、**[なし]**、**[通常]**、**[高]**、**[強調]** があります。

背景のスムージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

- **なし**
- **自動**：背景色を 3 色までスムージングします。
- **自動 - 詳細**：**自動**オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度**：背景色のスムージングを調整します。値の範囲は -10 ～ 10 です。

[詳細設定]



- **パンチ穴除去**：原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、円、長方形、および不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーからドキュメントを取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある）。

- **白紙イメージ検知**：白紙ページ（書類の裏面など）を検出して、このようなページを処理しない場合に使用します。このオプションを選択した場合、[**文字量基準**] を選択して基準値を設定できます。基準値未満のイメージは削除されます。

- **イメージの端を埋める**：最終的な電子画像の端の領域を、選択した色で塗ります。
  - **なし**
  - **自動**：イメージの端が周囲の色で自動で埋められます。
  - **自動 - 破れを含める**：端を塗る以外にも、スキャンステーションは書類の端周辺の裂け目も塗ります。
  - **白**：**[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の余白の値を入力できます。
  - **黒**：**[上]**、**[下]**、**[左]**、**[右]** の余白の値を入力できます。

- **縦縞フィルタ**：スキャンステーションを設定して、画像から縦縞を除去することができます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿上の不純物（泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャンステーションで推奨される清掃手順に従わないために発生する場合があります。**[縦縞フィルタ]** をクリックしてこのオプションを有効にし、強度値を選択することで、縦縞を除去する程度を調整することができます。値の範囲は -2 ～ 2 です。

- **カラードロップアウト**：記入フォームの背景色の除去に使用します。背景が消去されると記入された文字部分のみがイメージとして保存されます（記入フォームの罫線やボックスなどを削除）。白黒画像の場合、これらの設定は、スキャンステーションが書類を分析して生成するグレースケール版の電子画像に影響を与えます。このオプションはグレースケールと白黒イメージで使用できます。以下のいずれかのオプションを選択します。
  - **なし**
  - **マルチ**：濃い色合い（例、黒または濃い青インク）以外をドロップアウトします。
  - **主色**：メインの色をドロップアウトします。
  - **青**：**青色をドロップアウトします。**
  - **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします。**

  [マルチ] または **[主色]** を選択すると、カラードロップアウトする [**強度**] が調整できます。-2 ～ 2 で調整できます。デフォルトは 0 です。

表面と裏面のイメージを結合する — 通常は 1 枚の原稿につき、表面と裏面の各イメージが生成されます。原稿の表面と裏面を両方とも 1 つのイメージに合成する場合、このオプションを有効にします。以下のいずれかのオプションを選択します。

- **なし**
- **表面を上**：イメージ内で表面を裏面の上に配置します。
- **表面を下**：イメージ内で表面を裏面の下に配置します。
- **表面を左**：イメージ内で表面を裏面の左に配置します。
- **表面を右**：イメージ内で表面を裏面の右に配置します。

重送検知 ― 重なって給紙された原稿を検出して、原稿の処理を支援します。重送はホチキスで綴じられた原稿、粘や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。*重送検出*を有効にする場合、このオプションを選択します。

- **重送の感度** ― 重送センサーのレベルを設定します。重送は、原稿とのすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知することができます。
  - **低**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性が最も低くなります。
  - **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
  - **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が 20-lb. 以下のボンド紙の厚さである場合など、厚さが同じ原稿をスキャンするのに適しています。

  注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送として検知されます。

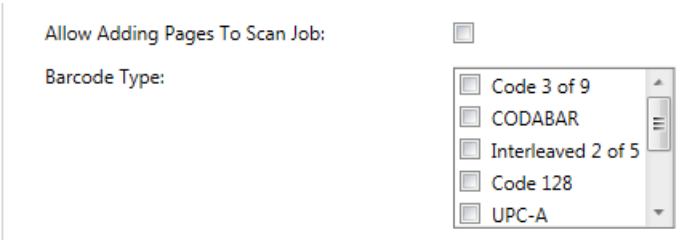
- **重送検出時の対応** ― 重送を検出したときのスキャンステーションの動作を選択します。どのオプションでも、状況はスキャンステーションに記録されます。
  - **スキャンの続行**：スキャンステーションは引き続きスキャンを行います。
  - **スキャンの停止**：スキャン停止時にスキャンの継続かキャンセルを指定できます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。

最大原稿長（インチ）― ジョブでの原稿の最大の長さを選択できます。スキャンステーションがこの値よりも長い原稿を検出した場合、紙詰まりが発生したと判定します。デフォルト値は 14 インチ (35.56 cm) です。最長は 160 インチ (406.40 cm)、最短は 2.5 インチ (63.5 mm) です。

ページ順序を反転 ― 有効な場合、スキャンステーションはスキャンした原稿の順序に対してイメージの順序を反転します。

[スキャンジョブへのページの追加を有効にする] ― 有効にすると、スキャンジョブにページを追加できます。入力トレイ内のすべてのページがスキャンされると、ページを追加するか確認するメッセージが表示されます。**「はい」**と選択すると、原稿を追加スキャンして、**「いいえ」**と選択するまで繰り返し同じメッセージを表示します。同様に、30 秒のタイムアウトが発生するとメッセージの表示は終了します。

バーコードタイプ — バーコードタイプを選択します。



ドキュメントの表および裏のどこでもバーコードを読み込むことができます。読み取りの順序は、横方向および縦方向いずれの場合でも左から右上から下です。ドキュメントの各側で最大 10 個のバーコードを読み取ることができます。

注：バーコードの精度はスキャンされたイメージの品質に大きく依存します。解像度が高くバーコードが大きいほど精度が高まります。推奨のスキャ設定は 300 dpi、モノクロまたはグレイスケールです。出力タイプが **PDF** の場合は、**最高** 品質設定を使用します。イメージの圧縮も精度に影響を与える場合があります。最小圧縮または非圧縮を選択して、読み取り精度を高めてください。

スキャンするドキュメントにあるバーコードに一致する*バーコードタイプ*リストからバーコードタイプを選択します。ドキュメントがスキャンされたときに読み取られたバーコードデータは、対応する .xml ファイルにメデータとして保存されます。バックエンドシステムに統合するためのメタデータファイル検証用の .xsd ファイルはインストール用 CD に含まれてます。

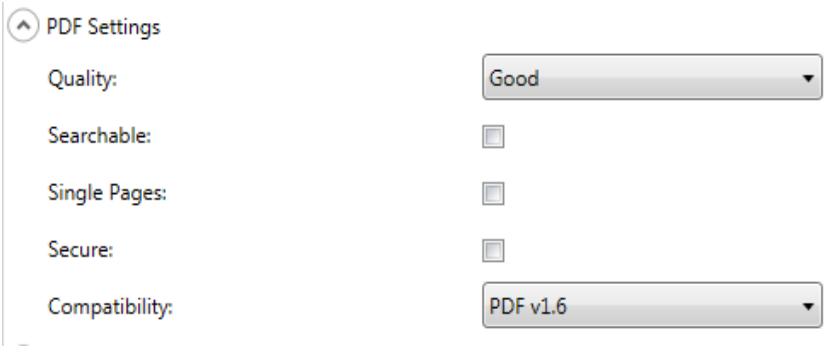
注：出力メタデータファイルを作成するには、デバイス設定の**出力メタデータの有効化**をチェックする必要があります。

次のバーコードタイプが使用できます。

- Code 3 of 9
- CODABAR
- Interleaved 2 of 5
- Code 128
- EAN 13
- UPC-A
- UPC-E
- EAN 8
- EAN 13
- PDF-417 2D Code

注：複数のバーコードタイプを選択すると、スループットのパフォーマンスに影響を与える場合があります。

PDF 設定



品質 — **[標準]**、**[高]**、**[最高]** の品質オプションが選択できます。ファイルを PDF として保存する場合、[**標準**] (150 dpi)、[**高**] (200 dpi)、[**最高**] (300 dpi) を選択すると、事前に定義された解像度設定が使用されます。PDF モードでスキャンするとき、スキャンステーション解像度設定は使用されません。

検索可能 — テキストと画像データを含むシングルページまたはマルチページのファイルを作成します。OCR（光学式文字認識）技術を使用して、スキャンイメージデータからテキスト情報を抽出します。このオプションを選択すると、[*言語*] オプションが表示されます。PDF ファイルの生成時に使用する言語を選択します。

注： このオプションを選択すると、OCR 処理が有効になります。XLS、DOC、RTF 出力を選択しても OCR 処理が有効になります。

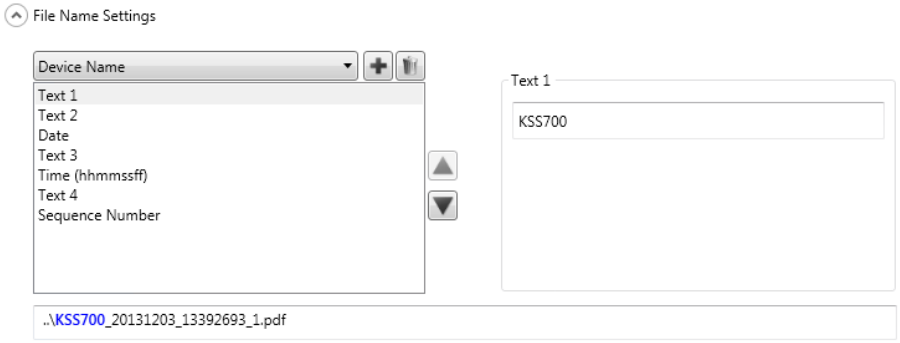
シングルページ — スキャンされたページごとに PDF ファイルを作成します。両面書類をスキャンした場合、表面と裏面のファイルが個別に生成されます。

セキュリティ — パスワードを入力できます。これは送信前にファイルを暗号化するために使用します。パスワードは *[E メール]* が送信先の 1 つとして選択された場合、別の E メールで送信されます。

互換性 — このオプションは電子文書をデジタル保存するために特化されており、長期間使用する必要がある PDF を作成する場合に使用します。ドロップダウンリストから、適切な PDF オプションを選択します。

注：**[PDF/A]** と **[セキュア]** は、相互排他的です。

ファイル名の設定



[ファイル名の設定] では、スキャンイメージ作成時に、ファイルの保存場所（ディレクトリまたはサブディレクトリ）とファイル名を定義できます。スキャンした原稿を保存する [フォルダ名] を定義できます。保存先は、ネットワークフォルダ、FTP、USB メモリです。すべてのスキャンイメージに適用する [ファイル名の固定文字] も定義できます。スキャンイメージに固定文字を付けて名前が付けられます。必要に応じて日付と時刻が固定文字に付加されます。たとえば、固定文字 *[receipts]*、フォルダ名 *[2012]* を定義した場合、スキャンイメージのファイル名は、*「receipts_20120117_092219.tif」* となり、*「2012」* という名前のフォルダに保存されます。

- **デバイス名** — ファイル名やファイルパスの一部に、スキャンステーションの名前を使用できます。
- **日付** — ファイル名やファイルパスの一部に、日付を追加できます。
- **時刻 (hhmmssff)** — ファイル名やファイルパスの一部に、時刻 (hhmmssff) を追加できます。
- **連続番号** — ファイル名やファイルパスの一部に、連番が使用できます。
- **テキスト** — ファイル名やファイルパスの一部にテキストを入力できます。これは、で OS 上で使用可能な最大文字数に制限されます。
- **ディレクトリの区切り** — ファイル名やファイルパスの一部に、区切りを使用できます。

注：

- ボックス内で項目を並べ替える場合は、上下の矢印を使用してください。
- ボックス内で項目を並べ替える場合は、上下の矢印を使用してください。
- *[テキスト]*、*[日付]*、*[連番]* を選択すると、追加の選択肢が右側に表示されます。
- *[ファイル名]* フィールドには、常に少なくとも 1 つのエントリが必要です。

6 出力先の作成

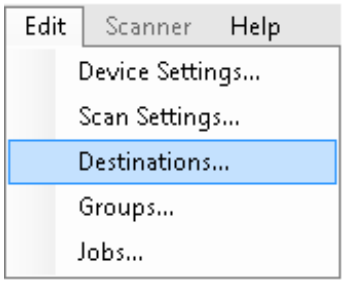
目次

[出力先] 画面 6-1
出力先のレイアウトと用語 6-3
E メール送信先のセットアップ 6-4
　E メールアドレスブックのインポート 6-6
ネットワーク出力先のセットアップ 6-8
プリンタ出力先のセットアップ 6-10
FTP サイトのセットアップ 6-14
Fax / FAX メールをセットアップ 6-18
SharePoint グループの追加 6-19
Kofax Front Office Server グループの追加 6-21

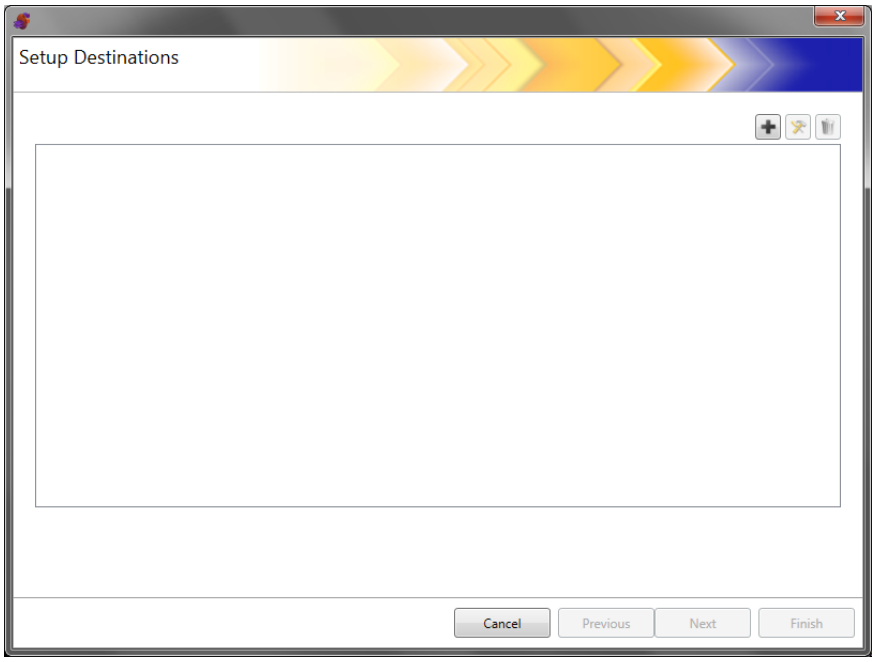
この章では、出力先（E メール、ネットワークフォルダ、プリンタ、FTP など）の追加手順について説明します。

[出力先] 画面

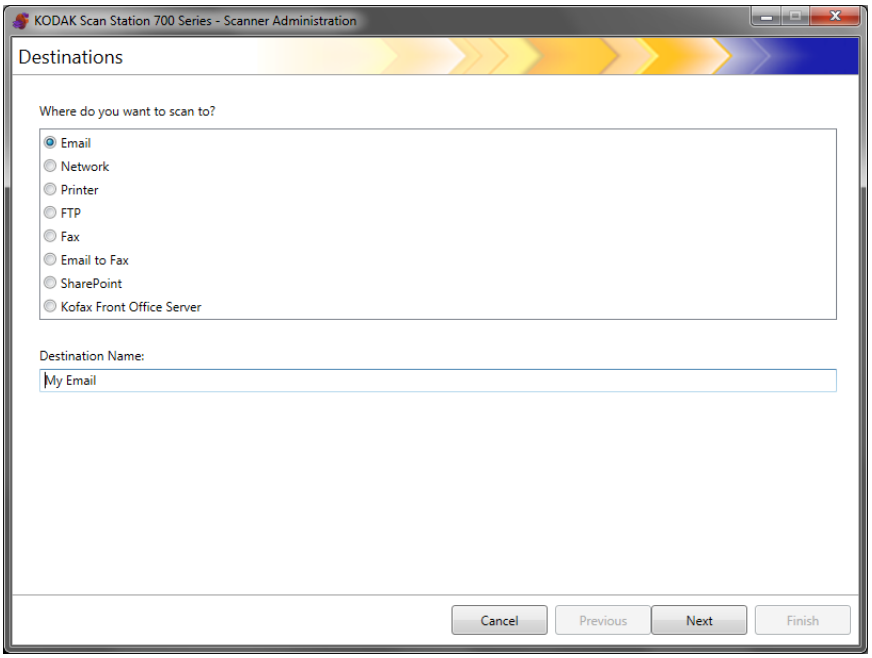
1. **[編集]>[出力先]** を選択します。



[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。



2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。[出力先] 画面で E メール、ネットワーク、プリンタ、FTP、FAX、メール /FAX、SharePoint、Evernote、Kofax Front Office Server を出力先として作成できます。

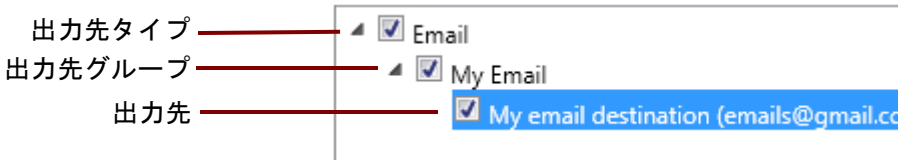


3. 作成する出力先タイプを選択します。出力先タイプを選択する際、推奨の出力先名が *[出力先名]* フィールドに表示されます。名前を変更して、わかりやすい名前を入力できます。この名称がタッチスクリーンに表示されます。
4. **[次へ]** をクリックします。各出力先の設定を順番に実行します。

   注：各出力タイプの詳細については、この後のセクションを参照してください。

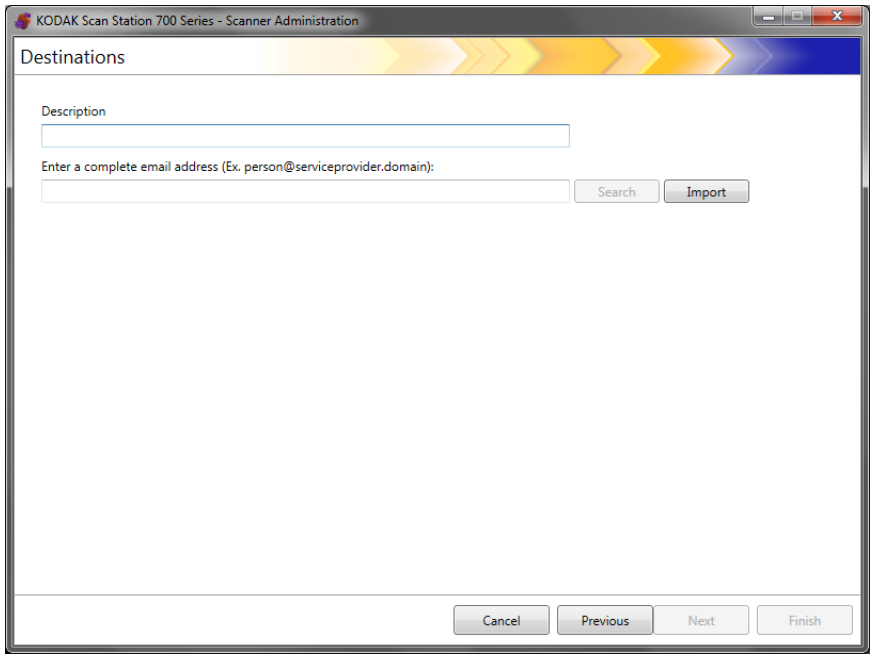
出力先のレイアウトと用語

出力先の設定が完了すると、画面に出力先タイプ、出力先グループ、出力先が一覧表示されます。



E メール送信先のセットアップ

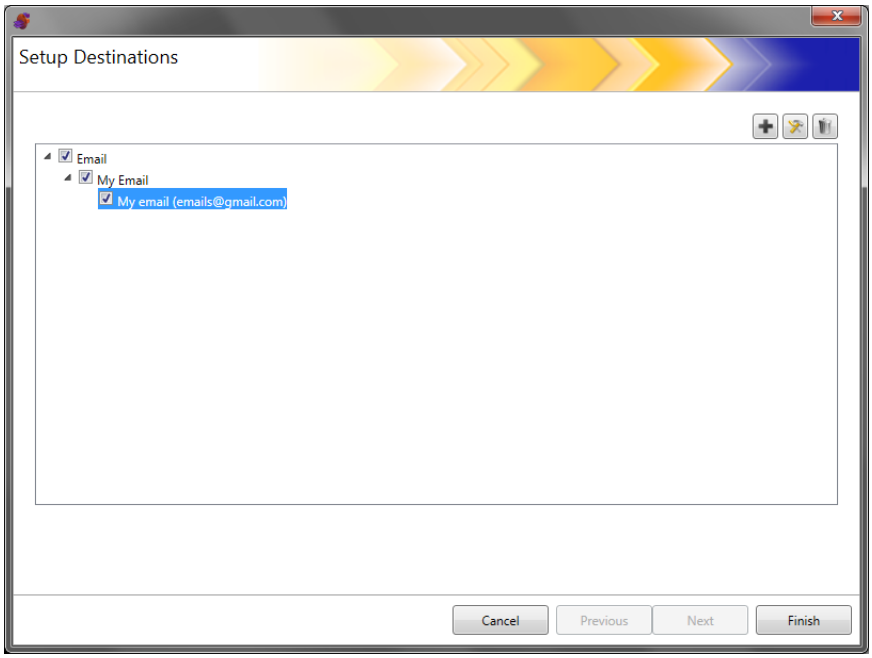
1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[メール]** を選択します。
4. **[次へ]** をクリックします。



5. *[説明]* フィールドに名前を入力し、*[メールアドレスを入力]* フィールドに送信先のメールアドレスを入力します。
   - **[検索]** フィールドでアドレスブックから E メールアドレスを検索できます。検索中に見付けたアドレスは、選択している E メールグループに追加できます。

     注：
     - アドレス帳は、デバイス設定で設定した SMTP サーバー（メールサーバー）と関連しています。
     - 検索条件に一致するアドレスが 20 件以上見つかった場合は、名前などの追加条件を指定して検索結果を絞り込むことができます（例：「smith」ではなく「smith joe」と指定する）。
     - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。
     - 検索機能は、適切に機能するように Active Directory Server デバイスの設定によって異なります。詳細については、第 4 章の「Active Directory の設定」を参照してください。
   - **[インポート]** では、CSV ファイルをインポートできます。詳細は、「アドレス帳のインポート」を参照してください。

6. **[完了]** をクリックします。メール出力先とグループの画面が表示されます。



7. 同じメール出力先グループでメール出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 と 6 を繰り返し実行します。
8. 他のメール出力先グループを追加する場合は、メール出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

E メールアドレスブックのインポート

CSV ファイルはデータベース情報を表すデータファイルです。各行には、カンマで区切られたデータ値が入っています。テキストの行にある各カンマは、オリジナルのデータベースからのデータの列を示しています。以下の例は、Microsoft の Outlook Express からエクスポートされた一般的なデータです。

注：最初の行はデータ列のヘッダー情報で、実際のデータでは**ありません**。

1 行目　名、姓、メールアドレス

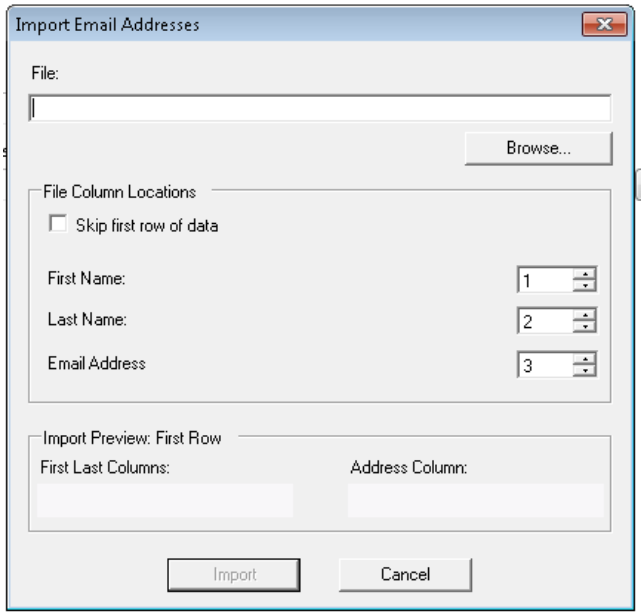
```
Smith、John、johnsmith@rochester.rr.com
Tom、Brown、Tombrown123@yahoo.com
William、Doe、wdoe@msn.com
```

Outlook Expressはメールアドレスブックをカンマ区切りファイルにしてエクスポートできます。E メールアドレスブックをエクスポートする場合、エクスポートするデータ列を選択できます。

注：その他のメールプログラムでは、エクスポートするデータ列を選択できない場合があります。

名、姓、E メールアドレスのみをエクスポートすることを推奨します。

1. **[インポート]** をクリックします。**[E メールアドレスのインポート]** ダイアログボックスが表示されます。



2. *[ファイル]* フィールドに、インポートするファイル名を入力します。必要に応じて、**[参照]** ボタンを使用します。

3. 一般的なメールクライアントアプリケーションでは、列の見出しをデータの 1 行目として自動的にエクスポートします。列見出しを 1 行目としてインポートしない場合は、**[1 行目をスキップ]** を有効にします。

   注：デリミッタ付きデータをエクスポートするメールアプリケーションもあります。データのインポート時に引用符は削除されます。

4. **ファイル名**、**姓**、**メールアドレス**が CSV ファイルに表示される列番号を入力します。

   CSV ファイルを選択して列の場所を指定すると、プレビューが表示され、[ファイル列位置] 選択の結果が表示されます。列の選択が変更されるので、プレビューは変更を反映します。

   たとえば、3 つの *[ファイル列位置]* の値が 1、2、3 の場合、プレビューは次のようになります。

名前 姓	メールアドレス

   名前と姓はメールアドレスの表示を形成するために組み合わせられます。E メールアドレスは、E メールアドレスの作成に使用されます。

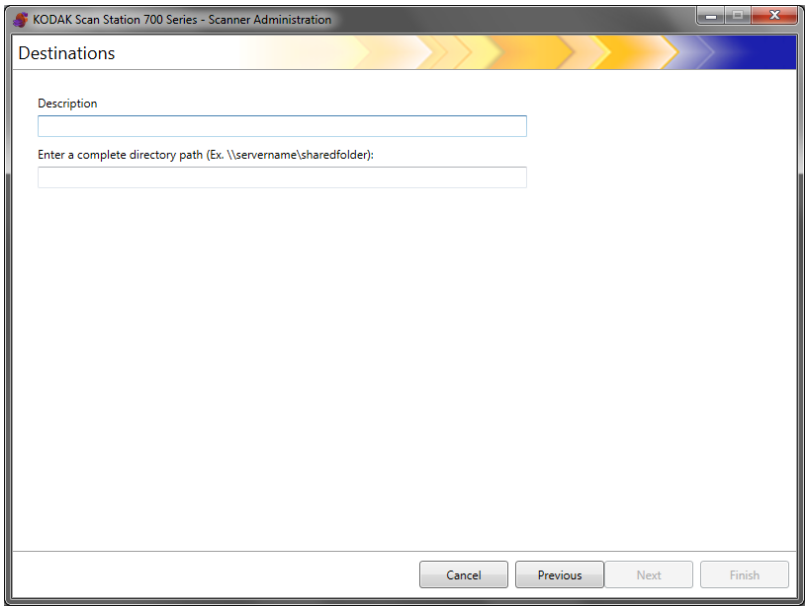
   3 つの列位置の値がすべて 1 に設定された場合のプレビューを示します。

名前 名前	名

5. **[インポート]** をクリックします。メールアドレスが選択したメールグループに追加されます。

ネットワーク出力先のセットアップ

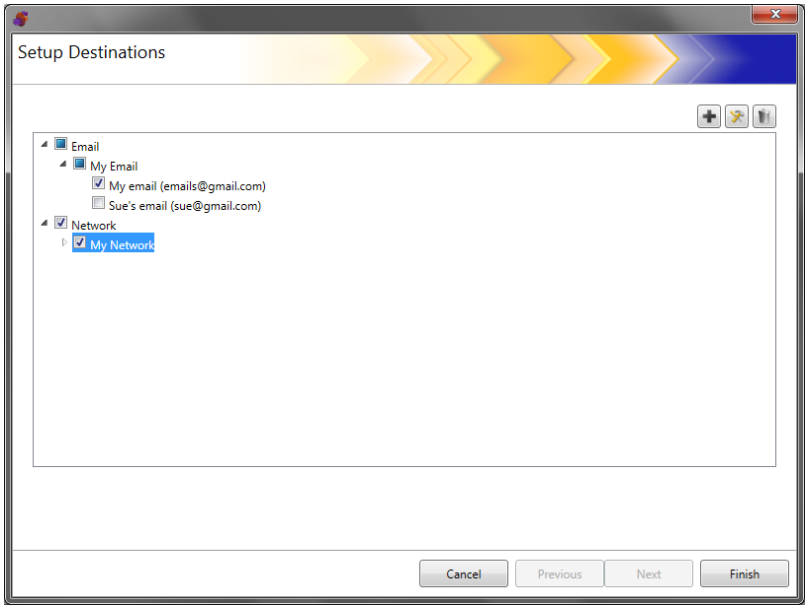
1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[ネットワーク]** を選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。



5. わかりやすいネットワーク出力先名を *［説明］* フィールドに入力します。
6. フォルダのフルパスを *[完全なディレクトパスを入力]* フィールドに入力して、**[完了]** をクリックします。

   注：DFS ベースのネットワークにスキャンしている場合は、フル ネットワーク パスを使用します。

ネットワーク出力先やグループを示す画面が表示されます。



7. 同じネットワーク出力先グループでネットワーク出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 と 6 を繰り返し実行します。
8. 他のネットワーク出力先グループを追加する場合は、ネットワーク出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

プリンタ出力先のセットアップ

スキャンステーションは、Microsoft の*「ポイントアンドプリント」*テクノロジーを使用してプリンタドライバをインストールし、ネットワークプリンタに接続します。通常、ネットワークプリンタは、1 台以上のネットワークプリンタの印刷ジョブを管理するプリントサーバに接続されます。これらのプリントサーバは、接続されているプリンタの印刷キューを管理します。また、プリンタドライバは、他のネットワーク PC やデバイスにインストールできます。

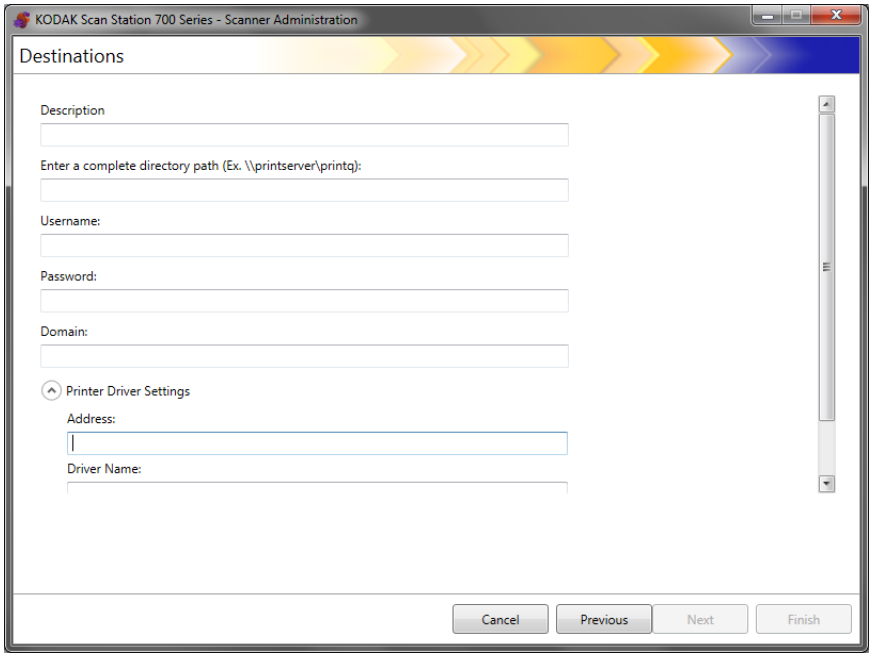
注：プリンタをインストールする前に、プリントサーバまたはホスト PC に Windows 7 または Windows 8（32 ビット）対応ドライバがあることを確認してください。

スキャンステーションとプリンタとの接続方法は、次のとおりです。

- ネットワークドメイン上のプリントサーバに接続されたプリンタに接続する。
- ネットワークのワークグループ内で共有されている別の PC のプリンタに接続する。
- ネットワーク上のルーターまたはハブ経由でネットワークプリンタに接続する。

これらの各状況において、Microsoft Windows はネットワークプリンタへのアクセスを要求するすべてのデバイスに対してログイン証明書を要求します。

1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[プリンタ]** を選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。



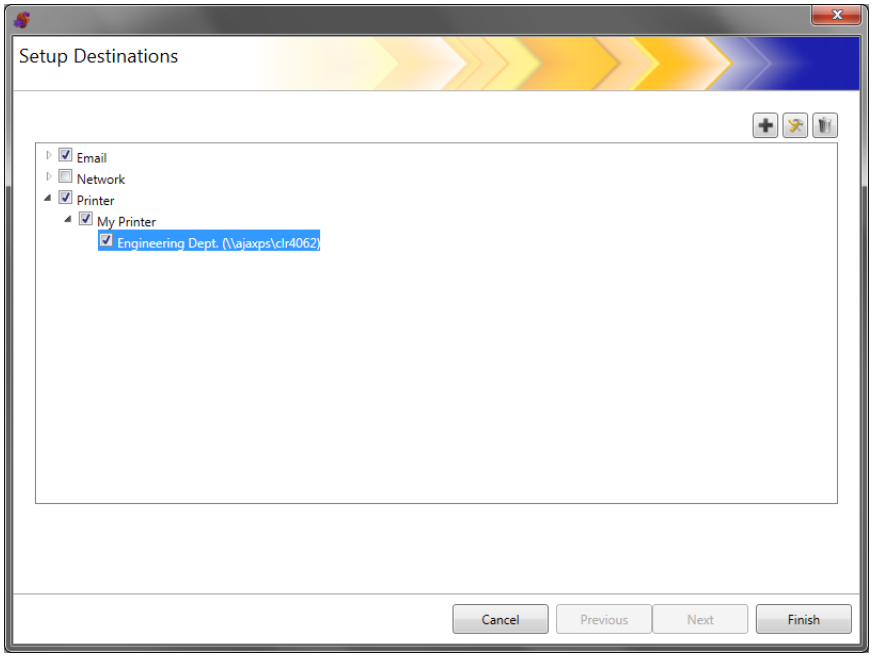
5. プリンタに関する説明を *[説明]* フィールドに入力します。

   - ネットワークドメイン上でプリントサーバに接続する場合、またはネットワーク上で別のコンピュータで共有されているプリンタに接続する場合は、手順 6 に進みます。
   - ルーターまたはハブに直接差し込んだイーサネットケーブルで、ネットワークに直接接続されているネットワークプリンタに接続する場合は、**プリンタドライバ設定**の下矢印をクリックし手順 11 に進みます。

6. *[ディレクトリフルパスを入力]* フィールドに、プリンタサーバーのフルパスや印刷キュー（例 : \\printservername\printqueue）を入力します。
7. プリンタドライバのインストールに認証を要求するように設定されたネットワークドメインの場合は、**[ユーザ名]**、**[パスワード]**、**[ドメイン]** の名前を入力します。

   注 : 適切な認証が提示されない場合、プリンタとそのドライバは、スキャンステーションにインストールされません。

8. **[完了]** をクリックします。プリンタ出力先およびグループを示す以下の様な画面が表示されます。



9. 同じプリンタ出力グループでプリンタ出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 ～ 8 を繰り返し実行します。
10. 他のプリンタ出力グループを追加する場合は、プリンタ出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

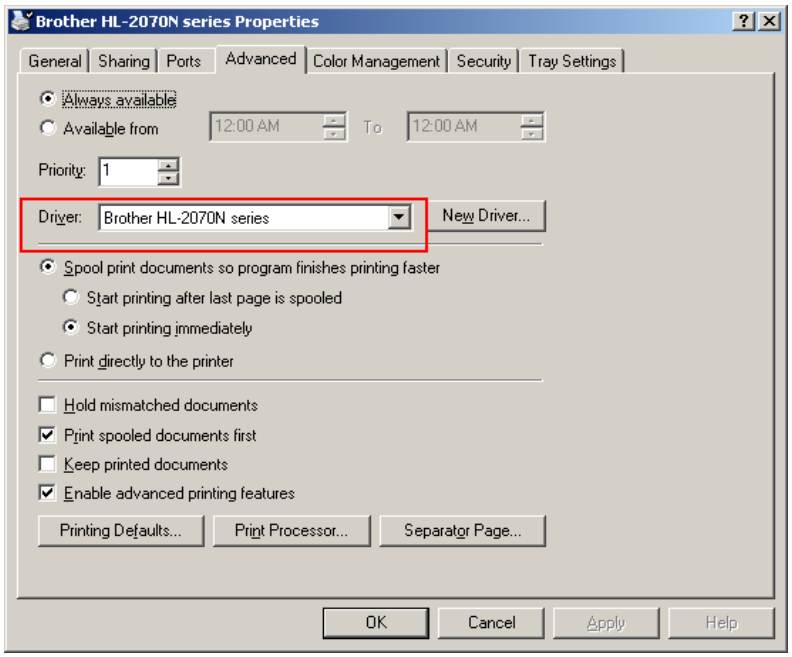
ネットワークに直接接続するプリンタを設定する場合、手順 11 ～ 18 を実行します。プリンタドライバをダウンロードする場合は、まずネットワーク上のコンピュータからプリンタを「共有」する必要があります。また、共有プリンタは、プリンタ用の Windows 7 ドライバを提供するように設定されている必要もあります。共有後、このコンピュータのドライバ名とポート名が必要になります。

11. *[フルディレクトリパスを入力]* フィールドに、ネットワークプリンタの IP アドレスや印刷キュー（例 : \\192.168.1.136\printQueue Name）を入力します。

プリンタを共有している PC で、次の処理を実行します。

12. **[スタート]>[設定]>[プリンタと FAX]** の順に選択し、インストールされたプリンタを選択します。

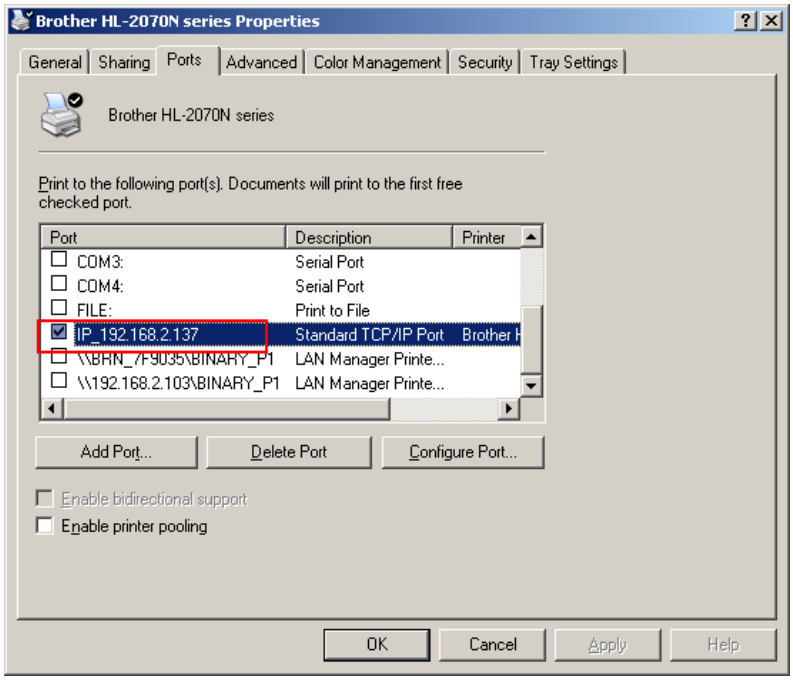
13. インストールしたプリンタを右クリックし、**[プロパティ]** を選択します。[プロパティ] ウィンドウが表示されます。



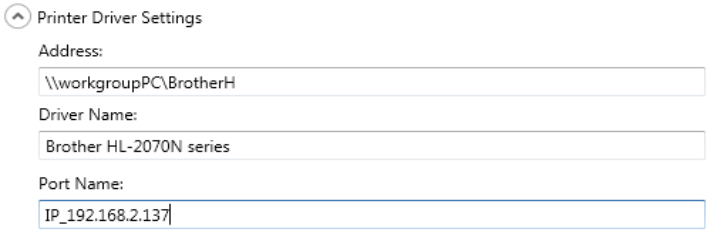
14. **[ドライバ名]** をメモします。この情報が表示される場所は、プリンタによって異なる場合があります。

15. [ポート] タブで、選択されているポートの内容を正確にメモします。

    注：下の図に示した例では、*「IP_192.168.2.137」* です。



16. *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションに戻り、PC が共有しているプリンタの完全修飾アドレスを、*共有*名も含めて、[*アドレス*] フィールドに入力します（「\\workgrouppc\BrotherH」など）。



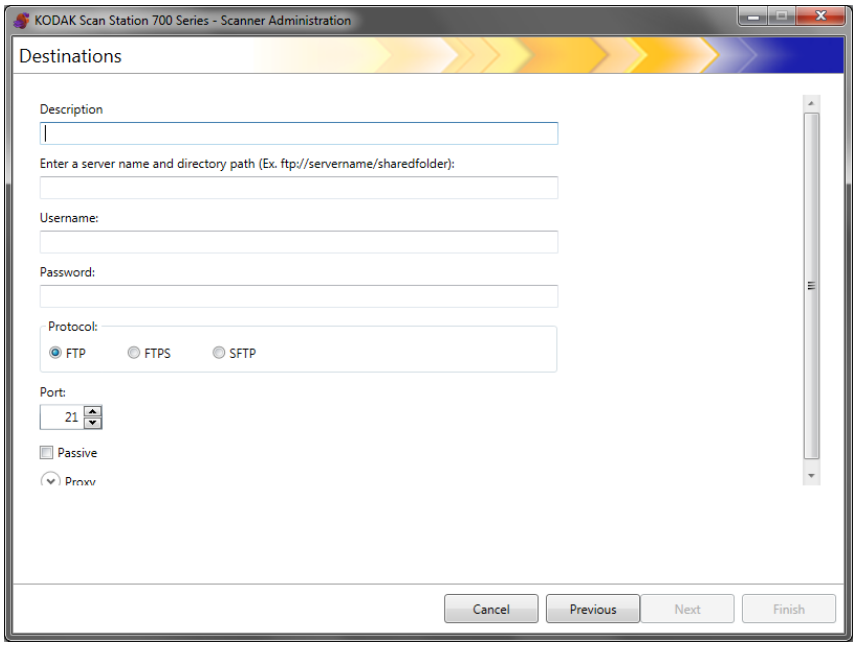
17. 手順 14 と手順 15 でメモした情報を元に、ドライバ名とポート名を各フィールドに入力します。
18. 同じプリンタ出力先グループでプリンタ出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 から繰り返し実行します。
19. 他のプリンタ出力グループを追加する場合は、プリンタ出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

    プリンタドライバが、共有している PC からインストールされます。プリンタとスキャンステーションの間で、入力した IP アドレスを使用して、接続が行われます。インストール後は、共有プリンタの接続は不要になり、スキャンステーションはネットワークプリンタと直接通信できます。

注：プリンタのインストールに失敗した場合は、ログファイルを開いてエラーコードを確認してください。エラーコードは、Microsoft の Web サイトで検索します。

FTP サイトのセットアップ

1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[FTP]** を選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。



5. *[説明]*、*[サーバ名とディレクトリパスを入力]*、*[ユーザ名]*、*[パスワード]* の各フィールドに値を入力します。*[サーバ名とディレクトリパスを入力]* フィールドには、スキャンイメージを保存する FTP サイトのパスをフルパスで設定します。たとえば、FTP サイト「*ftp.acme.com*」に接続して、スキャンイメージを「*documents*」フォルダに保存する場合は、「ftp:*//ftp.acme.com/documents*」と設定します。
6. 使用する**[プロトコル**オプション]**を選択します。FTP、FTPS、SFTP**。
   - **[FTP]** を選択した場合、次のオプションが使用できます。
     - ポート 21 以外のポートで FTP サイトに接続する場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。
     - FTP サーバで必要な場合は、**[パッシブ]** を選択します。パッシブは、ファイアウォールの外部に FTP サイトがある場合に、一般的に使用されています。

[プロキシ] の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。

- **[プロキシの種類]** に、*[ユーザログイン後]* を選択します。
- **[プロキシアドレス]** に、ドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
- ポート21以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。

• **[FTPS]** を選択した場合、次のオプションを使用できます。

- **[暗号化]** オプションを選択します。**[暗示]** または **[明示]**。

  [明示] に設定した場合、スキャンステーションとサーバが、データに使用する暗号化の形式について交渉します。明示 FTPS は、ポート 21 にあります。サーバが暗号化データを受信できる場合、スキャンステーションはこの選択に対応します。

  [暗示] に設定すると、スキャンステーションは常に暗号化されたデータを送信することになります。デフォルトのポートは 990 です。

  適切な暗号化オプションについては FTP サーバ管理者の指示に従ってください。
- パッシブポートネゴシエーションを有効にする場合、**[パッシブ]** を選択します。
- ネットワーク環境のセキュリティー意識が高く、証明書が最新で証明機関による認証が必要な場合は、**[検証できる SSL サーバ証明書を要求]** を有効にします。

[プロキシ] の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。

- *[プロキシの種類]* として **SOCKS** を選択します。
- **[プロキシアドレス]** に、ドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
- ポート 1080 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。
- プロキシサーバの適切な**バージョン**を選択します。**[SOCKS4]** または **[SOCKS5]** のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

- **[SFTP]** を選択した場合、次のオプションを使用できます。
  - ポート 22 以外のポートで SFTP サイトに接続する場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。**[SFTP]** を選択すると、デフォルト値のポート 22 に自動的に変更されます。
  - プライベート キー ファイルは SFTP サーバにアクセスするために使用する暗号化されたキーです。プライベート キー ファイルには複数の種類があります。お使いの PC またはネットワークに保管されているプライベート キー ファイルを選択する場合 **[参照]** ボタンを使用します。適切なプライベート キー ファイルについては SFTP サーバ管理者の指示に従ってください。

    注： DSA 2048、4096 bits、Putty SSH1 RSA で暗号化されたプライベート キー ファイルはサポートされていません。
  - プライベート キー ファイルを入力し、ファイルをパスワード保護する場合は、パスワードを入力する必要があります。パスワードはプライベート キー ファイルの解読に使用します。

[プロキシ] の下矢印をクリックして、プロキシ設定を行います。SFTP は次の 2 つのプロキシタイプをサポートします。**[HTTP]** と **[SOCKS]**。

HTTP

- プロキシの種類として **HTTP** を選択した場合、**[プロキシアドレス]** にフルドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
- ポート81以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。
- プロキシサーバに対して適切な **[認証タイプ]** を選択します。**[LOGIN]** または **[NTLM]** のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

SOCKS

- プロキシの種類として **SOCKS** を選択した場合、**[プロキシアドレス]** にフルドメイン名（FTP.acme.com など）または IP アドレスを入力します。
- プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
- ポート 1080 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印を使用して値を変更します。
- プロキシサーバの適切な **バージョン** を選択します。**[SOCKS4]** または **[SOCKS5]** のいずれを使用するか分からない場合は、管理者の指示に従ってください。

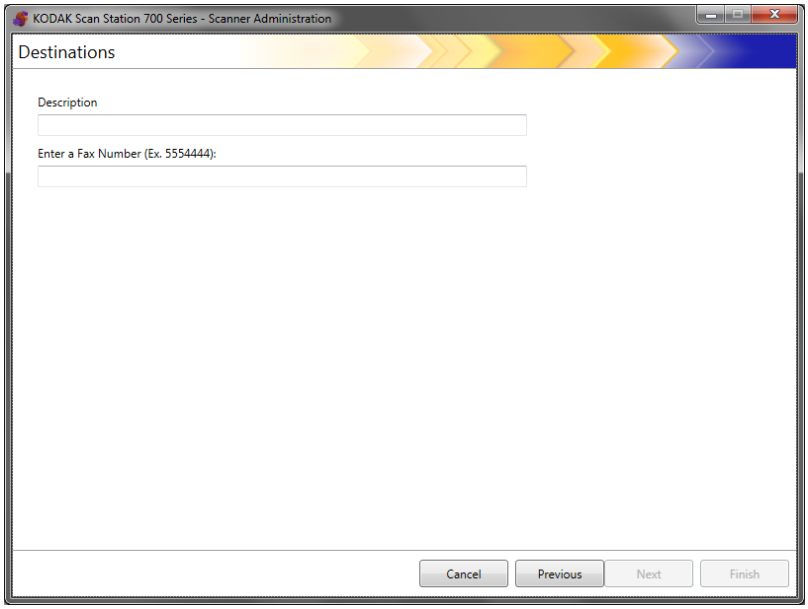
7. **[完了]** をクリックします。
8. 同じ FTP 出力グループで FTP 出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 ～ 8 を繰り返し実行します。
9. 他の FTP 出力先グループを追加する場合は、FTP 出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

Fax / FAX メールをセットアップ

FAX/FAX メールの出力先をセットアップできます。いずれの出力先でも手順は同じです。

注：特定の設定に対しては、ファックス送信先または電子メールからファックスへの送信先 (両方は不可) のみ設定できます。

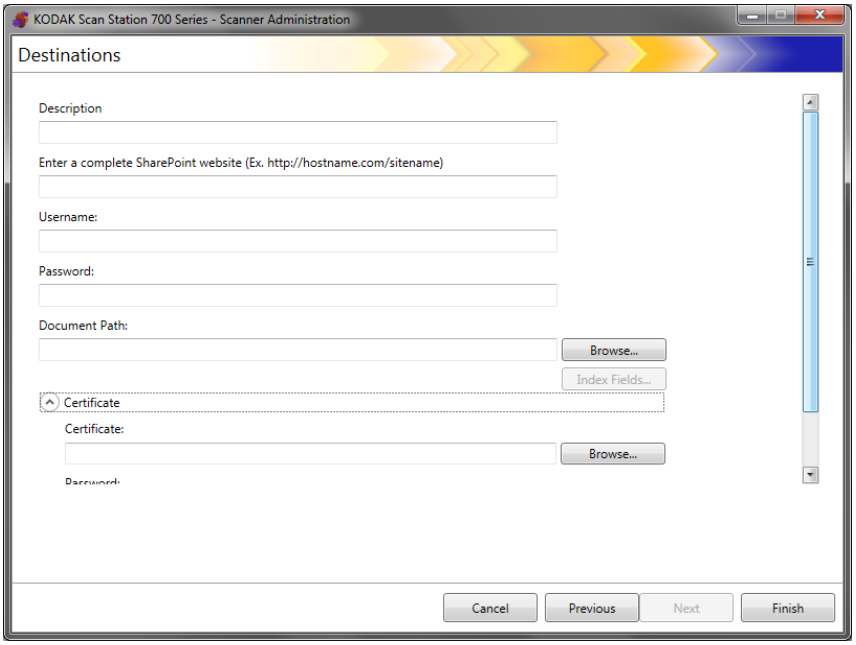
1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[Fax]** または **[Fax メール]** を選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。



5. *[説明]* フィールドに名前を、*[Fax 番号 （Fax メール番号）を入力]* フィールドに FAX 番号または（Fax メール番号）を入力し、**[完了]** をクリックします。
6. 同じ Fax 出力先グループで Fax 出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 を繰り返し実行します。
7. 他の Fax 出力先グループを追加する場合は、Fax 出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

SharePoint グループの追加

1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[SharePoint]** を選択します。
4. ［**次へ**］をクリックします。



5. 詳細を示す *[説明]* フィールドに入力します。
6. SharePoint サーバのアドレスを *[完全な SharePoint Web サイトを入力]* フィールドに入力します。このフィールドには、SharePoint サイトのフルパスを入力する必要があります。
7. *[ユーザ名]* と *[パスワード]* フィールドに入力します。
8. ユーザがアクセスする SharePoint サイトがセキュアの場合は、**[証明書]** 矢印をクリックして証明書ファイルを入力する必要があります。SharePoint 証明書のオプションが表示されます。
   - *[証明書]* フィールドに証明書ファイル名を入力します。次のファイル拡張子が使用できます。.cer、.crt、.der、.pfx、.p12、.p76、.p7c。
   - 証明書ファイルを開いて復号化するには証明書パスワードを入力します。
9. SharePoint　サイトに接続する前にプロキシサーバを使用する場合は、**[プロキシ]** 矢印をクリックして、使用するプロキシ設定を定義してください。
10. **[プロキシアドレス]** に、フルドメイン名（proxy.mycompany.com など）または IP アドレスを入力します。
11. プロキシサーバへのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。

12. ポート 80 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、上下の矢印かキーボードを使用して値を変更するか、値を入力します。
13. *[ドキュメントパス]* フィールドに、スキャンイメージを保存するフォルダへのパスを入力します。必要に応じて、**[参照]** ボタンを使用してフォルダを指定します。
14. 選択したライブラリに必要なインデックスフィールドがある場合は、**[インデックスフィールド]** ボタンを選択します。選択すると、[インデックスフィールド] ダイアログボックスが開き、選択したライブラリに関連する必須およびオプションのインデックスフィールドが表示されます。

    注：

    - *[インデックスメモ]* フィールドで、最大 5000 文字入力可能です。5000 文字以上入力しても、入力フィールドの別のエリアをクリックするまで警告メッセージは表示されません。その後メッセージの **[OK]** をクリックすると、*[インデックスメモ]* フィールドに入力されたすべての文字が削除されます。
    - パスの前部はライブラリで、以後はサブディレクトリです。ライブラリにはインデックスフィールドが含まれます。
    - インデックスフィールドを入力する前に、証明書が必要です（ステップ 8 を参照）。
    - インデックスフィールドでインデックス値の右側に下矢印がある場合は、クリックすると選択可能な値を表示します。

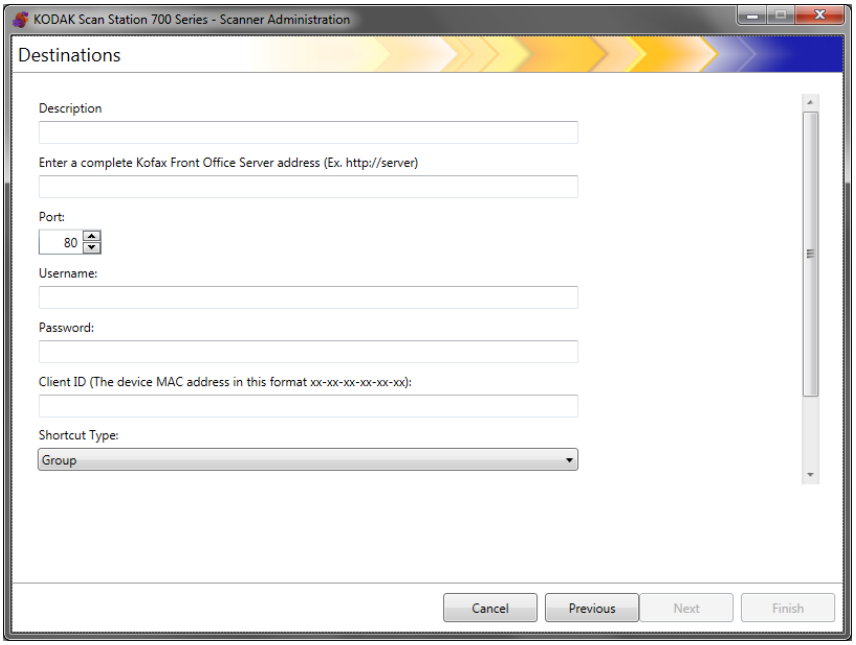
    サポートされているインデックスフィールドのタイプは以下のとおりです。

1 行のテキスト	複数行のテキスト
選択肢	数字
通貨	日付・時刻
検索	する / しない
個人またはグループ	ハイパーリンクまたは画像

15. 同じ SharePoint 出力先グループで SharePoint 出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 ～ 14 を繰り返し行います。
16. 他の SharePoint 出力グループを追加する場合は、SharePoint 出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックします。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

Kofax Front Office Server グループの追加

1. **[編集]>[出力先]** を選択します。[出力先のセットアップ] 画面が表示されます。
2. **[追加]** アイコンをクリックして、[出力先] 画面を表示します。
3. **[Kofax Front Office Server]** を選択します。
4. **［次へ］** をクリックします。



5. 詳細を示す *[説明]* フィールドに入力します。
6. *[完全な Kofax Front Office Server アドレスを入力]* フィールドにサーバーアドレスを入力します。
7. ポート 80 以外のポートでプロキシサーバに接続するように設定されている場合は、適切な値を選択します。
8. Kofax Front Office Server へのアクセスに必要な **[ユーザ名]** と **[パスワード]** を入力します。
9. *[クライアント ID]* フィールドに、スキャンステーションの MAC アドレス（アドレス形式：xx-xx-xx-xx-xx-xx）を入力します。この情報は、スキャンステーションの [バージョン情報] 画面にあります。
10. **[ショートカットの種類]** リストから **[グループ]** または *[個人]* を選択します。
11. ショートカット名を検索する場合は**[参照]**をクリックします。[ショートカットの選択]ダイアログボックスが表示されます。目的のショートカットを選択して、**[OK]** をクリックします。

12. **[インデックスフィールド]** をクリックします。[インデックスフィールド] ダイアログボックスが表示されます。導入環境での Kofax Front Office Server の内容によってインデックスフィールドは異なります。
13. Kofax Front Office Server でセキュリティが確保されている場合、*[証明書]* フィールドで証明書ファイル名を入力（または参照）します。次のファイル拡張子が使用できます。.cer、.crt、.der、.pfx、.p12、.p76、.p7c。
14. 証明書ファイルを開き復号化するには証明書パスワードを入力します。
15. 同じKofax Front Office Server出力グループでKofax Front Office Server 出力先を追加する場合、**[追加]** アイコンを選択して手順 5 ～ 14 を繰り返し実行します。
16. 他の Kofax Front Office Server 出力グループを追加する場合は、Kofax Front Office Server 出力先タイプを選択し、**[追加]** アイコンをクリックし場合す。追加しない場合は、**[完了]** をクリックします。

7 グループの追加と管理

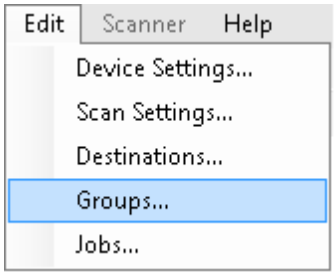
この章では、グループの追加と管理の手順について説明します。

グループは、ネットワークユーザの集合です。ネットワークユーザ名は Active Directory Server から抽出できます。既存の Active Directory Server グループのコンテンツからグループを作成したり、Active Directory Server からグループに個々のユーザーを追加できます。詳細については、第 4 章の「Active Directory Server の構成」を参照してください。

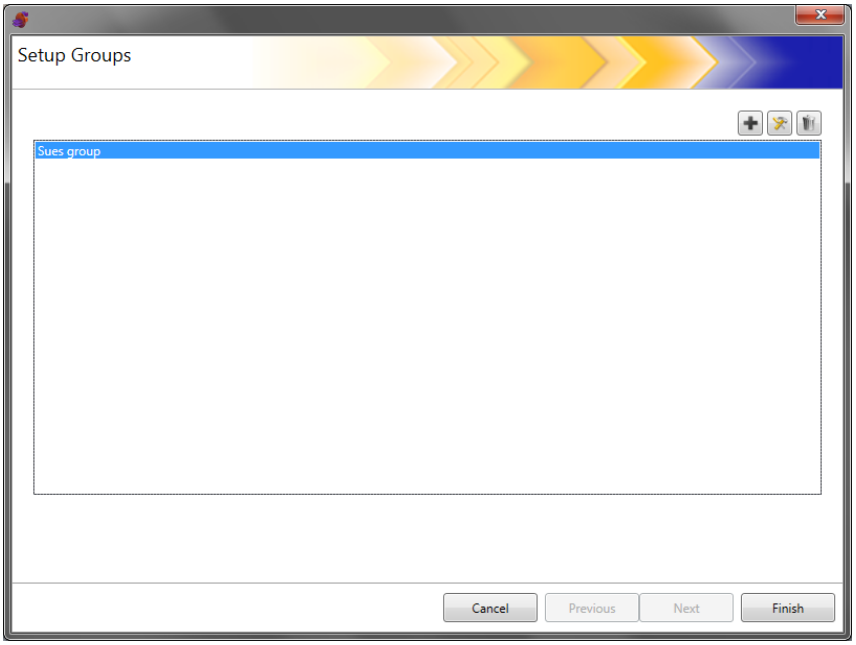
グループの割り当て

グループをセットアップすると、特定のジョブに対してユーザグループのアクセスの制限が簡単になります。

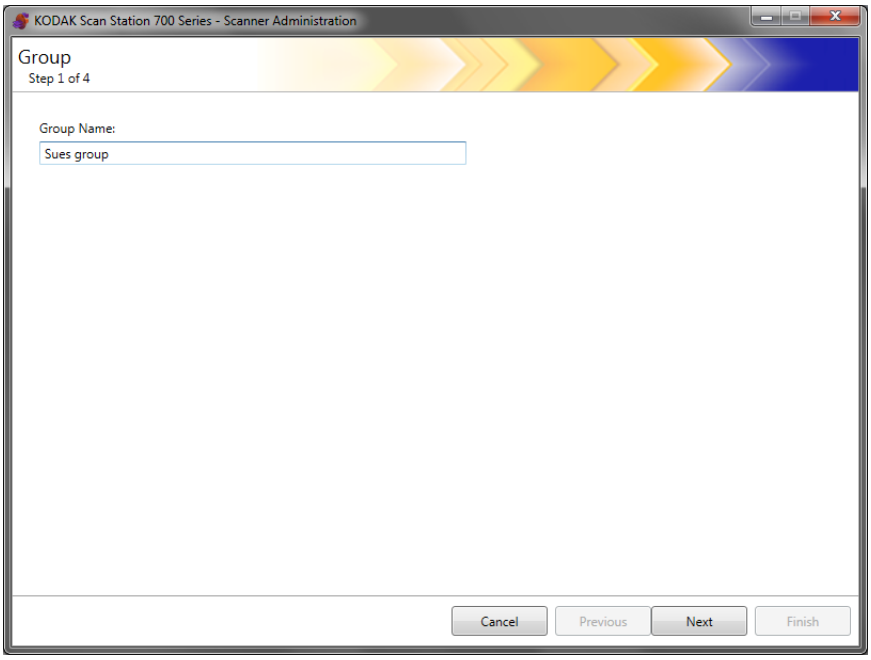
1. **[編集]>[グループ]** を選択します。



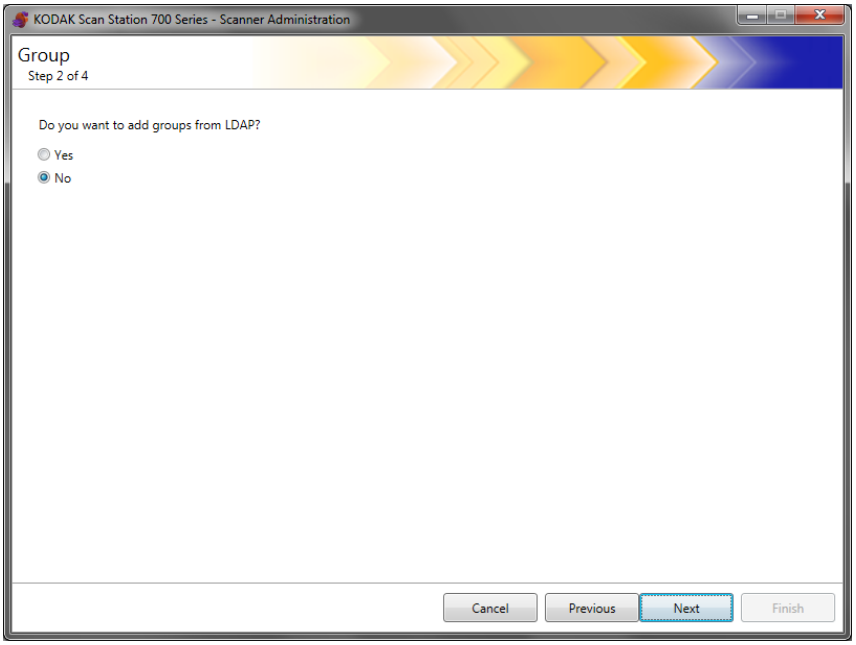
[グループのセットアップ] 画面が表示されます。



2. **[追加]** アイコンをクリックして、[グループ] 画面を表示します。

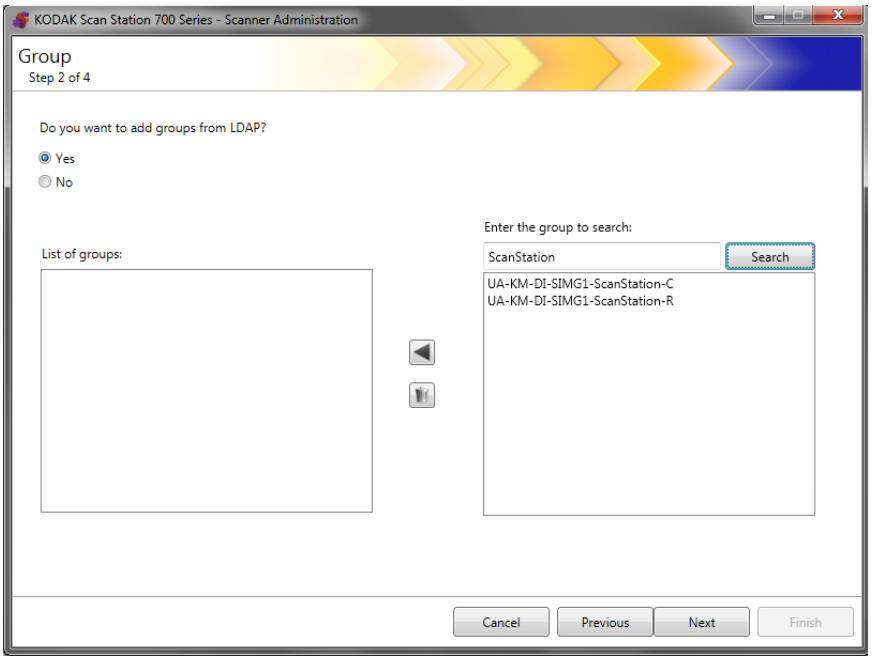


3. 適切なグループ名を入力して **[次へ]** をクリックします。グループ名は、ユーザのグループを定義するわかりやすいものにします。



- Active Directory Server からグループを追加しない場合、**[いいえ]** をクリックしてから **[次へ]** をクリックし、手順 8 を続行します。

- **[はい]** を選択した場合、Active Directory Server (LDAP) のグループ名用の検索フィールドが表示されます。



4. *[検索するグループを入力]* フィールドに追加するグループの名前を入力し、**[検索]** をクリックします。

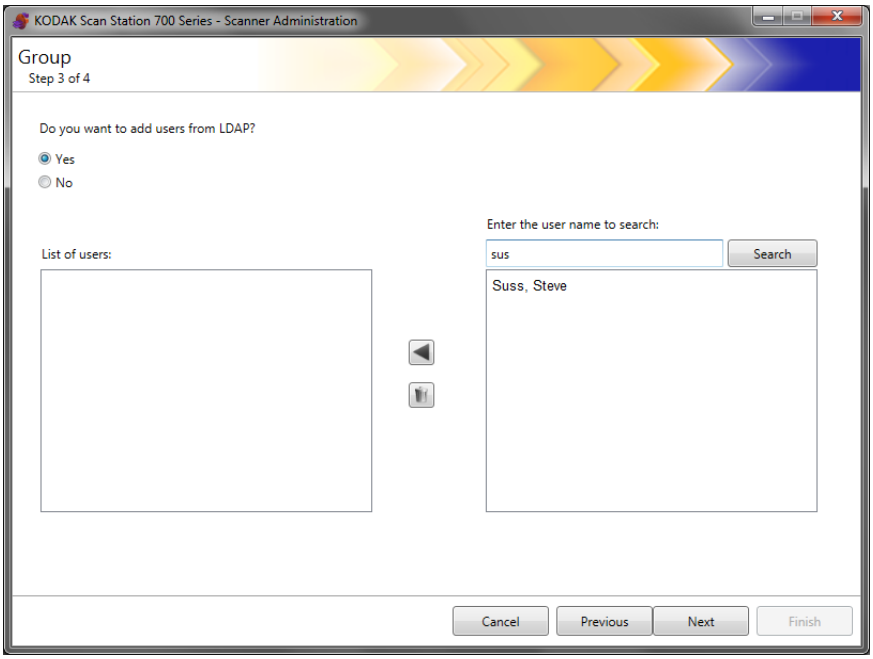
   注：

   - 入力した検索条件で大量のグループがヒットした場合、検索条件の絞り込みを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。
   - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。

5. 右側のリストから追加するグループを選択し、左矢印をクリックします。グループが *[グループのリスト]* ボックスに追加されます。
6. 他のグループをリストに追加する場合は手順 4 と 5 を繰り返します。

   注：*[グループのリスト]* からグループを削除する場合は、削除するグループを選択し、**削除**アイコンをクリックします。

7. 完了したら、**[次へ]** をクリックします。



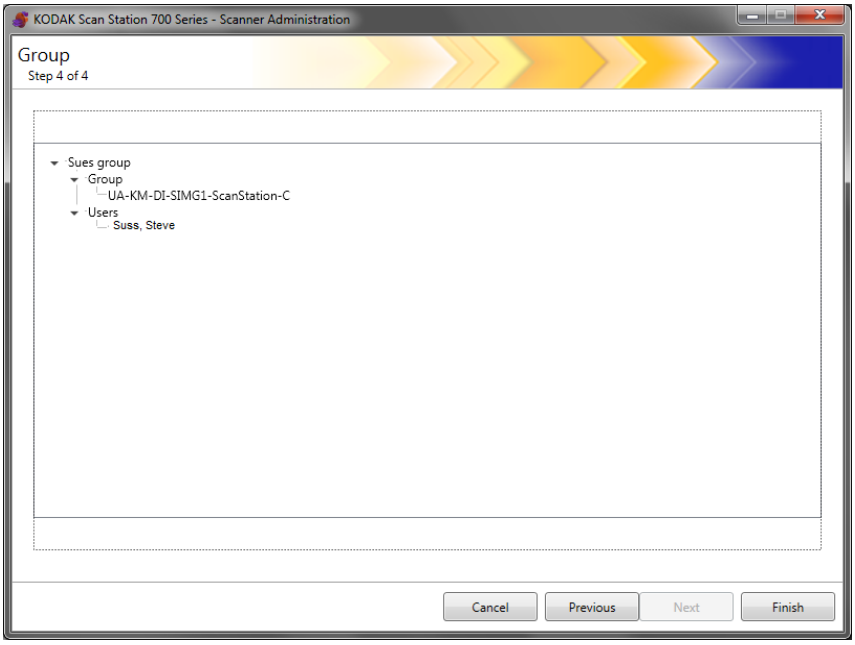
8. Active Directory Server からユーザを追加する場合は、**[はい]** を選択します。
9. グループに追加するユーザの名前を入力し、**[検索]** をクリックします。

   注：

   - 検索基準に一致するアドレスが多い場合は、名前などの追加条件を指定して検索結果を絞り込むことができます（例：「smith」ではなく「smith joe」と指定する）。
   - ワイルドカードは検索条件の前後に追加できます。

10. 表示されたリストからグループに追加するユーザを選択し、左矢印をクリックします。
11. グループへのユーザの追加が完了したら、**[次へ]** をクリックします。

グループとユーザのリストが表示されます。

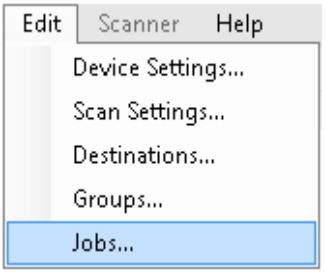


12. **[完了]** をクリックします。

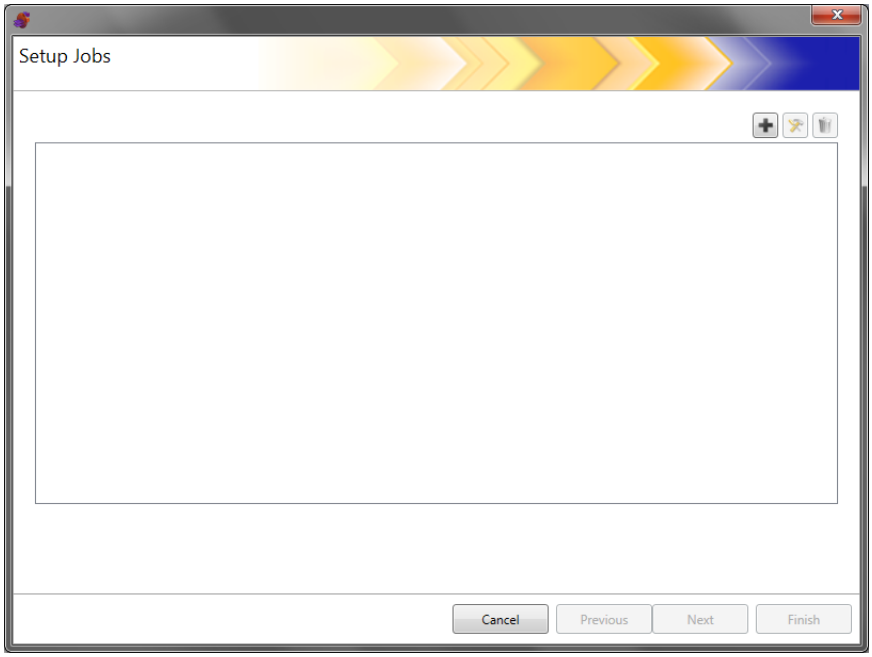
8 ジョブの作成

ジョブはスキャン設定、出力先、ユーザグループの集合であるため、これらすべてを設定後にジョブを作成することを推奨します。

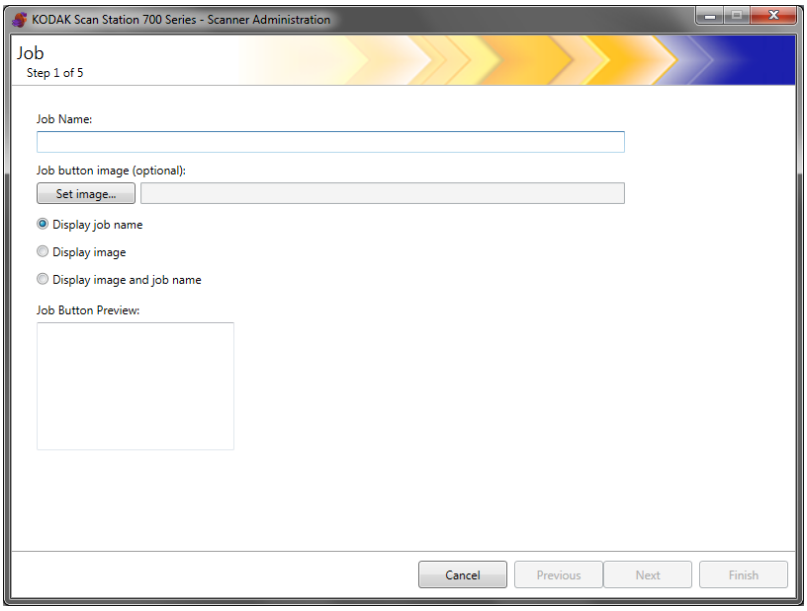
1. **[編集]>[ジョブ]** を選択します。



[ジョブのセットアップ] 画面が表示されます。



2. **追加** アイコンをクリックします。[ジョブ] 画面が表示されます。

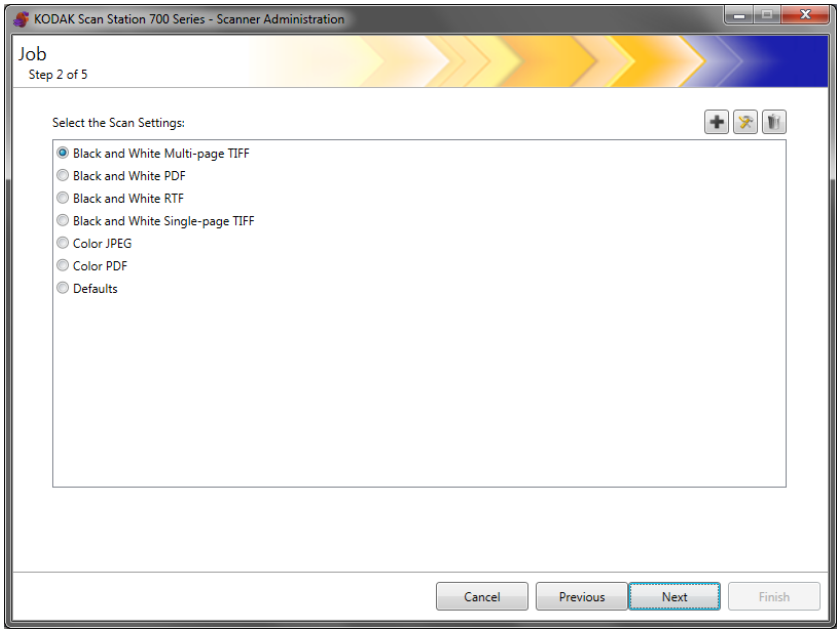


3. ジョブ名を入力します。ジョブ名の入力時、入力内容が *[ジョブボタンプレビュー]* ボックスに表示されます。この名称がスキャンステーションのタッチスクリーンに表示されます。
4. 必要に応じて、ジョブ名のバックグラウンドとして使用するイメージファイルを選択できます。目的のイメージファイルを指定する場合は、**[イメージを設定]** をクリックします。

   注：

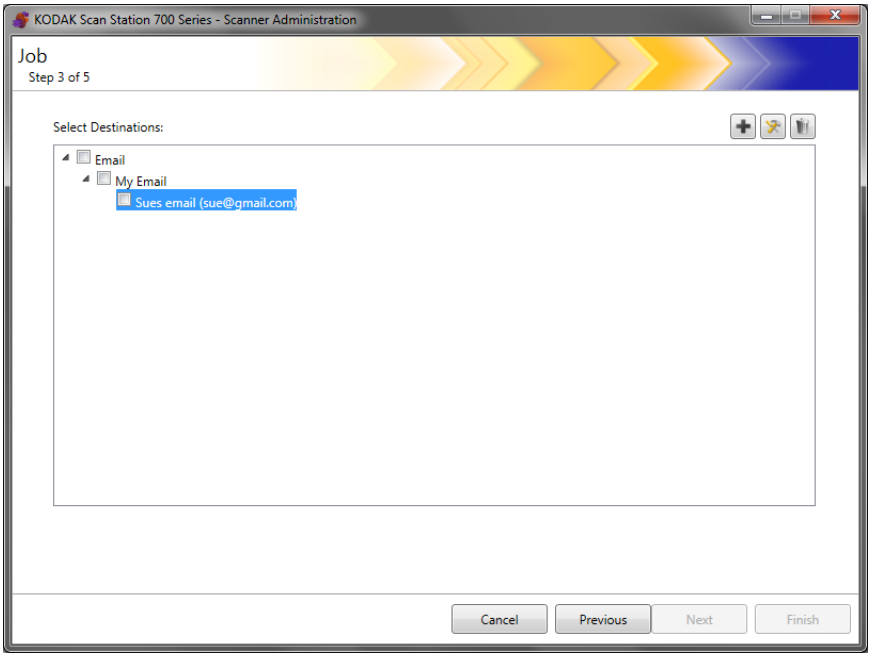
   - イメージの最大の幅は 200 ピクセルで、最大の高さは 130 ピクセルです。イメージは自動的に拡大縮小されます。
   - イメージファイルを選択すると、**[イメージと名前を表示]** オプションが自動的に選択されます。
   - 選択したイメージが設定ファイルにコピーされます。
5. 次のオプションからいずれかを選択します。
   - **ジョブ名を表示** — ジョブボタンにはジョブ名のみが表示されます。
   - **イメージを表示** — ジョブボタンにはイメージのみが表示されます。
   - **イメージと名前を表示** — ジョブボタンにジョブ名とイメージの両方が表示されます。

6. ［**次へ**］をクリックします。以下の画面が表示されます。



7. このジョブに使用する [スキャン設定] を選択し、**[次へ]** をクリックします。以下の画面が表示されます。

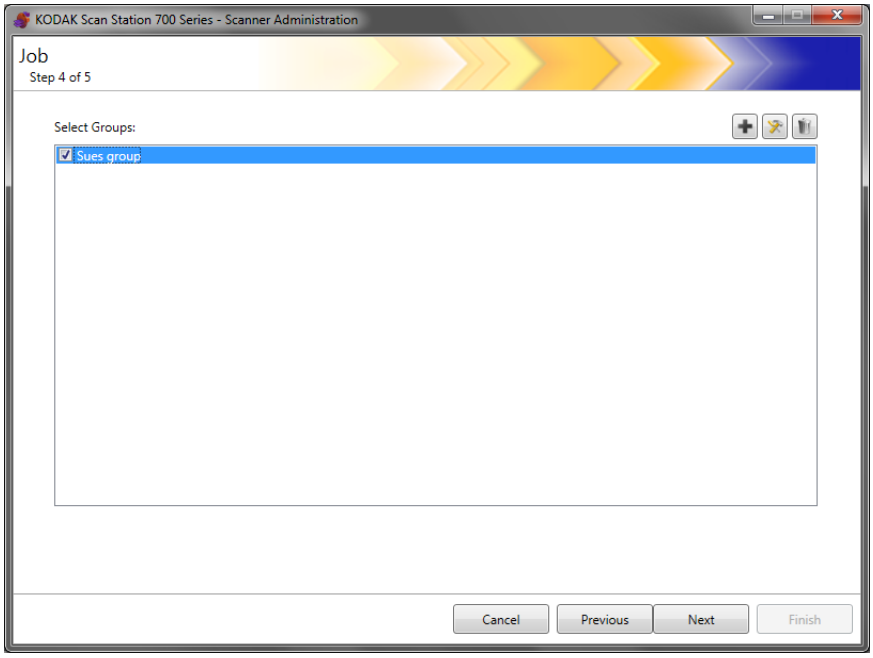
   注：**[追加]** アイコンをクリックして、新規スキャン設定を作成することもできます。



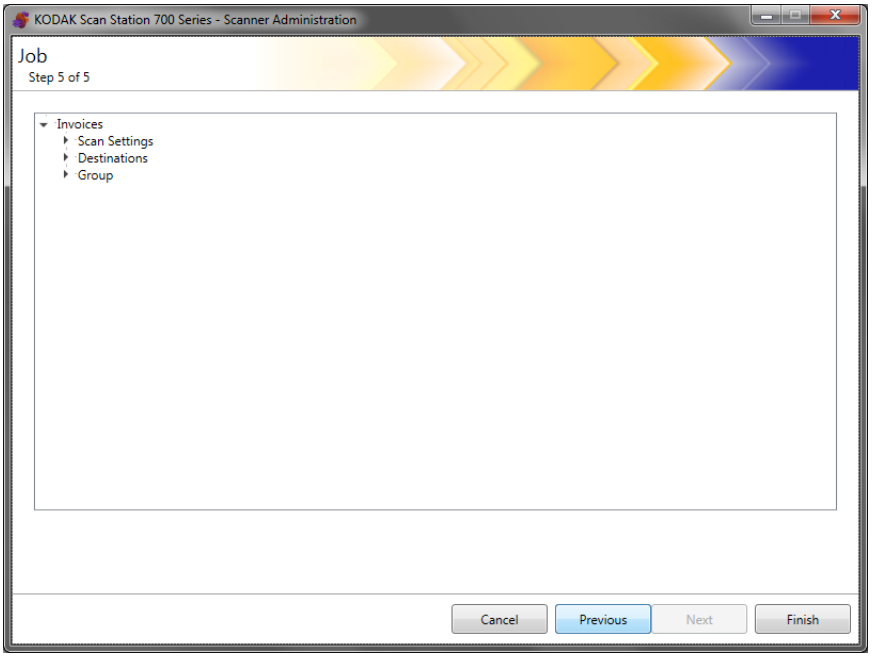
8. ジョブを送信する出力先を選択します。
   - グループに対する最上位レベルのチェックボックスをクリックすると、グループ全体の出力先を選択できます。
   - グループ名の下に表示される出力先をクリックすると、個々の出力先を選択できます。

- その時点で別の出力先を作成する場合は、**[追加]**アイコンをクリックします。[出力先] 画面が表示され、そこで別の出力先を追加できます。出力先を追加する手順については、第 6 章*「出力先の作成」*を参照してください。

9. **[次へ]**をクリックし、このジョブを送信するグループを選択します。

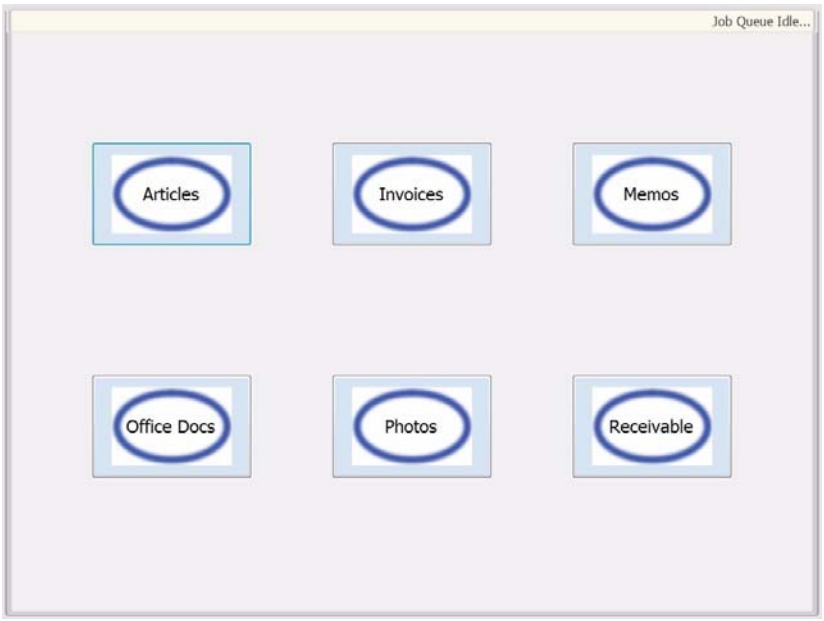


10. 完了したら、**[次へ]** をクリックします。ジョブ設定の概要が表示されます。



11. **[完了]** をクリックします。

ジョブが定義され、設定がスキャンステーションにアップロードされると、タッチスクリーンに通常のユーザーインタフェースではなくジョブのみの画面が表示されます。



9　スキャンステーションの監視と管理

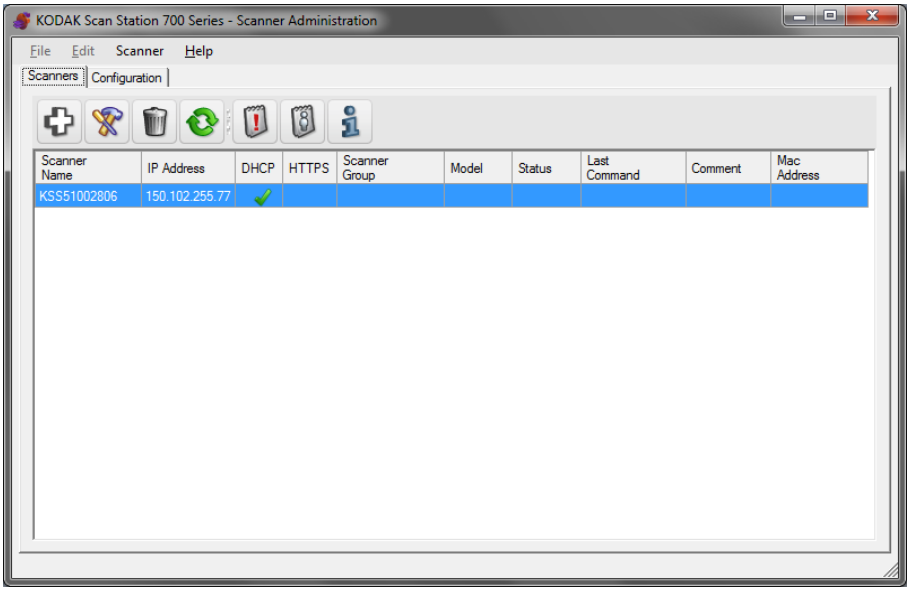
目次

[スキャナー] タブ 9-2
　ツールバー 9-2
　グリッドビュー 9-4
ネットワーク設定オプション 9-5
スキャンステーションの追加 9-5
機器の検出 9-7
スキャンステーションの変更 9-8
スキャンステーションの削除 9-9
リモートアクセスパスワードの変更 9-9
設定 / 設定ファイル 9-10
スキャンステーションの更新 9-10
　方法 1 9-11
　方法 2 9-13
　方法 3 9-15
　方法 4 9-16
　方法 5 9-17
スキャンステーションのセキュリティ 9-18
　スキャンステーションのパスワード保護 9-19
ファイルの取得と消去 9-20
　スキャンステーションのログファイルの取得 9-20
　ログファイルの消去 9-22
　スキャンステーションのトランザクションログファイルの取得 9-23
　トランザクションログファイルの消去 9-24
　すべてのログファイルの保存 9-25
　スキャンステーションの詳細 9-25
リモートでの日時の更新 9-25
スキャンステーションの電源オフ 9-26
スキャンステーションの再起動 9-26
スキャンステーションの移動 9-27

この章では、ネットワーク上にある構成済みのスキャンステーションの監視について説明します。

[スキャナー] タブ

[スキャナー] タブにはネットワーク上のスキャンステーションの接続詳細情報が表示されます。



[スキャナー] タブがアクティブな場合、[スキャナー] メニューが使用できます。[スキャナー] メニューと [ヘルプ] メニューのオプションについては、第 3 章の「メニューオプション」で説明します。

ツールバー

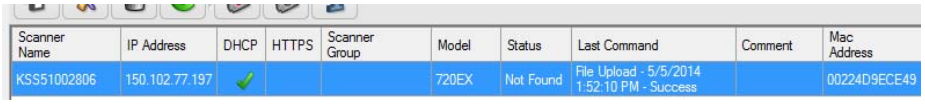
使用頻度の高い機能をすぐに使用できる様にツールバーを設定できます。ツールバーは常時表示されています。ツールバーボタンは追加、削除、移動できません。

アイコン	説明
	[スキャナーの追加] ダイアログボックスでスキャンステーションを選択してリモートで管理できます。
	選択したスキャンステーションの名前を変更したり、ネットワーク設定を設定できます。
	管理下にあるスキャンステーションのリストから選択したスキャンステーションを削除できます。

	グリッドを更新するとスキャンステーションの現在の状態が確認できます。 • 省電力 • スキャン中 • 画像処理中 • メール送信中 • 保存中 • 印刷中 • スキャン完了 • エラー • キャンセル • プレビュー • FAX 送信中 • FAX 受信中 • 電源の停止中 • 再起動中 • 更新中 • 使用中 • 見つかりません 詳細については、第 3 章の「メニューオプション」を参照してください。
	選択したスキャンステーションのログファイルを検索、表示、保存ができます。
	選択したスキャンステーションにトランザクションログファイルの表示や保存ができます。
	選択したスキャンステーションの詳細情報を表示します（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）。

グリッドビュー

以下にグリッドビューを説明します。



Scanner Name	IP Address	DHCP	HTTPS	Scanner Group	Model	Status	Last Command	Comment	Mac Address
KSS51002806	150.102.77.197	✓			720EX	Not Found	File Upload - 5/5/2014 1:52:10 PM - Success		00224D9ECE49

スキャナー名 — スキャンステーションに付けられた名前を表示します。

IP アドレス — スキャンステーションに設定された IP アドレスを表示します。

DHCP — DHCP を使用して IP アドレスを取得する場合は選択します。固定の IP アドレスを使用してスキャンステーションを設定する場合は、このフィールドを空欄にします。

HTTPS — HTTPS を使用して接続するようにスキャンステーションを設定する場合は、このフィールドを選択します。

スキャナグループ — スキャンステーションは、グループ名と関連付けることができます。この列には、スキャンステーションが属しているグループを表示しますこれはスキャンステーションの追加時に設定されます。

注：これは設定の作成時および修正時に定義されるユーザのグループと同じものではありません。

モデル — スキャンステーションのモデルを表示します（730EX、710、5XX など）。

ステータス — スキャンステーションの現在の状態を表示します（待機中、スキャン中、更新中、再起動中など）。

注：F5 を押すと、検出されたスキャンステーションのステータスが直ちに更新されます。

最後のコマンド — 管理者が最後に発行したコマンドを表示します。実行したアクションの日付、時刻、および成否も含まれます。

コメント — スキャンステーションの追加時に管理者がコメントを入れると表示されます。

Mac アドレス — ネットワークアダプタのユニークな識別子を表示します。

ネットワーク設定オプション

スキャンステーションを追加または検出する前に、IP アドレスかデバイス名（両方が望ましい）を事前に確認します。

スキャンステーションの名前を確認する場合は

1. 起動中で使用可能である事を確認します。

2. ［情報］アイコン をクリックするとスキャンステーションの名前、またはネットワークに接続している場合は IP アドレスが表示されます。

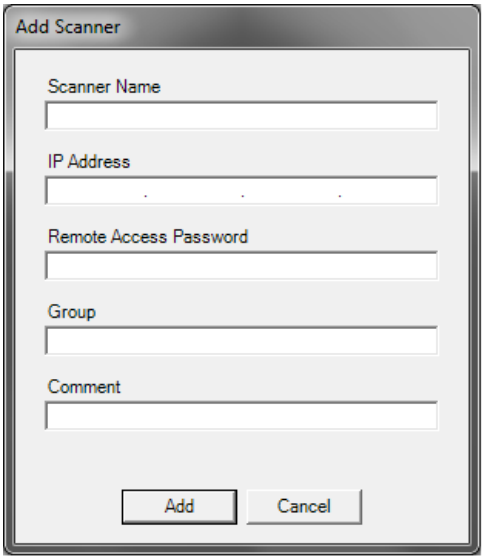
スキャンステーションの追加

スキャンステーションをリモートで管理するように設定する前に、追加するスキャンステーションの名前および IP アドレス、そしてリモートアクスパスワードを確認することをお勧めします。

注： スキャンステーションが設定されたネットワークに接続している場合は、IP アドレスだけ必要です。

スキャンステーションを追加すると、メイン画面が更新されます。

1. **[スキャナー] > [スキャナーの追加]** を選択します。[スキャナー追加] ダイアログボックスが表示されます。



2. スキャンステーションの名前を *［スキャナー名］* フィールドに入力します。

   注：このフィールドに入力できる値は、英数字とダッシュです。スペースやその他の記号は入力できません。

3. IP アドレスを入力します。IP アドレスは IPv4 形式 (xxx.xxx.xxx.xxx) にする必要があります。

4. スキャンステーションにリモートアクセスパスワードを入力します。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してくださ。

   注：このフィールドは空欄にしてもかまいません。スキャンステーションにリモートアクセスパスワードが設定されていない場合、このフィールドは空にしてください。

5. 必要に応じて、グループ（または場所）の名前を入力します。この名前はグリッドビューに表示されます。たとえば、スキャンステーションを導入した本社の名前などを入力します。
6. 必要に応じて、その他の情報は *[コメント]* フィールドに入力します。たとえば、スキャンステーションを導入した部署名などを入力します。
7. **[追加]** をクリックします。[*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理] メイン画面でスキャンステーションの名前と情報が表示されます。

   注：

   - スキャンステーションが検出されない場合またはスキャンステーションを後からネットワークにインストールした場合、***「デバイスとの通信中にエラーが発生しました。強制的に追加しますか？」*** というメッセージが表示されます。**[はい]** をクリックして、スキャンステーションを追加します。
   - IP アドレスが不適切な場合、[スキャナー管理] メイン画面からスキャンステーションを削除後、適切な情報で再度追加します。

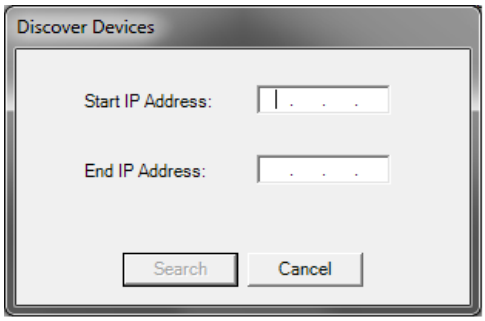
8. 1 から 7 の手順を繰り返します。

機器の検出

［機器の検出］オプションにより、IP アドレス範囲をスキャンし、定義済みのアドレス範囲内の IP アドレスを持つ任意のスキャンステーションを検出して、自動的に登録します。

注：［機器の検出］オプションは、リモートアクセスパスワードを設定していないスキャンステーションにのみ機能します。これは、[スキャナ] タブたは **[スキャナ] > [リモートアクセスパスワード]** から **[スキャナ] > [スキャナの追加]** メニューオプションを使って設定されたパスワードです。

1. **［スキャナー］>［機器の検出］**を選択します。［機器の検出］ダイアログボックスが表示されます。



2. IP アドレス範囲内で検索を開始する IP アドレスを、*［開始 IP アドレス］*フィールドに入入力します。

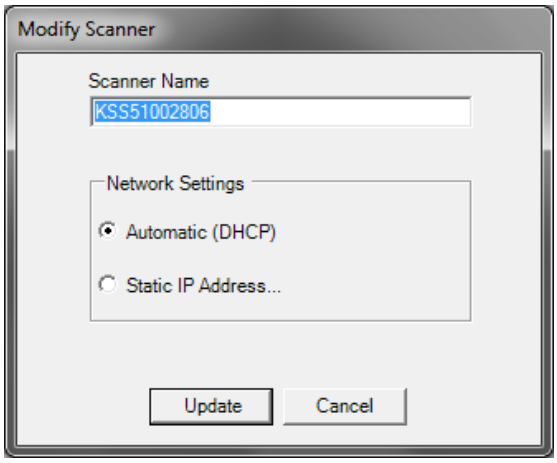
   注：*[終了 IP アドレス]* フィールドをクリックすると、開始 IP アドレスから 10 大きいアドレスが自動的に入力されます。例：開始 = 192.168.1.1、終了 = 192.168.1.10。

3. 検索対象の最後の IP アドレスを *［終了 IP アドレス］*フィールドに入力します。
4. **［検索］**をクリックします。検索が開始します。検索結果によっては、この処理は数分かかることがあります。IP アドレスが指定した範囲内にあれば、自動的に登録されます。

   注：IP アドレスの上位 2 つのアドレスセグメントに跨るアドレスを選択すると、機器の検出に非常に時間がかかる場合があります。例：192.168.1.1 - 192.169.1.1 または 192.168.1.1 - 193.168.1.1。

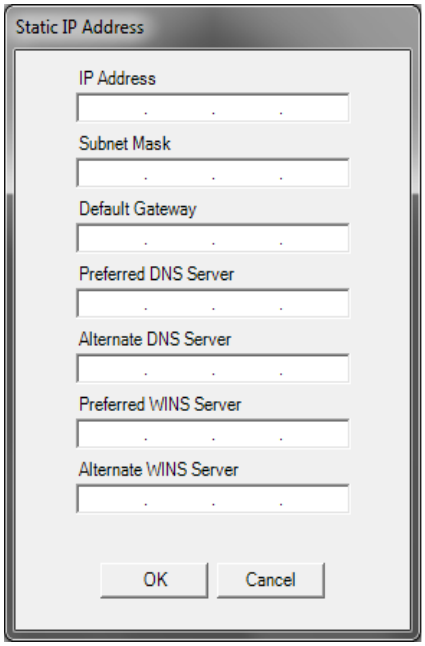
スキャンステーションの変更

1. **[スキャナー] > [スキャナーの変更]** を選択します。[スキャナーの変更] ダイアログボックスが表示されます。



2. 必要な変更を行います。

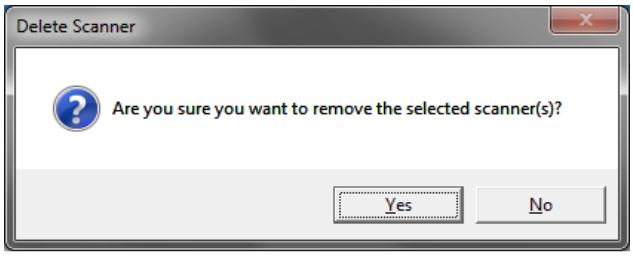
   注：**[固定 IP アドレス]** を選択すると、[固定 IP アドレス] ダイアログボックスが表示され、IP アドレスの設定を変更できます。



3. **[OK]** をクリックします。

スキャンステーションの削除

1. **[スキャナー] > [スキャナーの削除]** を選択します。[スキャナーの削除] ダイアログボックスが表示されます。

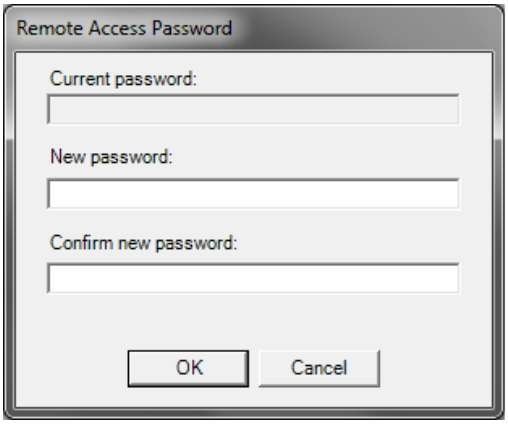


2. **[はい]** をクリックします。

リモートアクセスパスワードの変更

1. **[スキャナ] > [リモートアクセスパスワード]** を選択してください。このパスワードは、*Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナ管理とスキャンステーションとの通信に使用します。

   [リモートアクセスパスワード] ダイアログボックスが表示されます。



2. *[現在のパスワード]* フィールドにスキャンステーションのリモートアクセスパスワードを入力します。

   注：リモートアクセスパスワードが設定されていない場合、このフィールドはグレーアウトします。

3. *[新しいパスワード]* フィールドに新しいリモートアクセスパスワードを入力します。
4. *[新しいパスワードの確認]* フィールドに新しいリモートアクセスパスワードを再度入力します。
5. **[OK]** をクリックします。

設定 / 設定ファイル

設定はデバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブの集合です。設定はスキャナー管理アプリケーションを実行している PC、設定ファイルをアップロードするスキャンステーションに保存されます。設定と設定ファイルの違いについては、第 13 章、*「用語集」*を参照ください。

スキャンステーションの更新

スキャンステーションの更新には、以下の 5 とおりの方法があります。

- **方法 1**。スキャナー管理アプリケーションを使用して、設定とファームウェアを更新します。スキャンステーションは、自動的に新しい設定や更新パッケージを認識して、自動的に更新します。詳細については、後述の「方法 1」を参照してください。
- **方法 2**。設定ファイルとファームウェアの更新パッケージ（オプション）をネットワークドライブに保存します。指定した更新の日時になると、スキャンステーションがこの共有フォルダをポーリングするように設定します。詳細については、後述の「方法 2」を参照してください。
- **方法 3**。USB メモリに保存した設定ファイルは、スキャンステーションに読み込まれます。スキャンステーションの設定を更新するか確認されます。**[はい]** を選択すると、各項目の更新を確認する様にメッセージが表示されます。詳細については、後述の「方法 3」を参照してください。
- **方法 4**。設定ファイルは USB メモリにエクスポートされ、スキャンステーションのマニュアル設定に使用できます。USB メモリを使用して設定ファイルをインストールする際、設定ファイルのコンテンツがスキャンステーションに現在保存されている設定ファイルのコンテンツと一致しなかった場合、USB メモリ内の設定に基づいてスキャンステーションを更新するよう促されます。**[いいえ]** を選択すると、スキャンステーションはローカル管理モードになります。この時点でスキャンステーションのほとんどの設定を変更できます。USB メモリを取り外すとすぐに更新されます。詳細については、後述の「方法 4」を参照してください。
- **方法 5**。設定ファイルはファームウェア更新パッケージと共に USB メモリに保存されています。ファームウェアはこの方法でのみ更新されます。詳細については、後述の「方法 5」を参照してください。

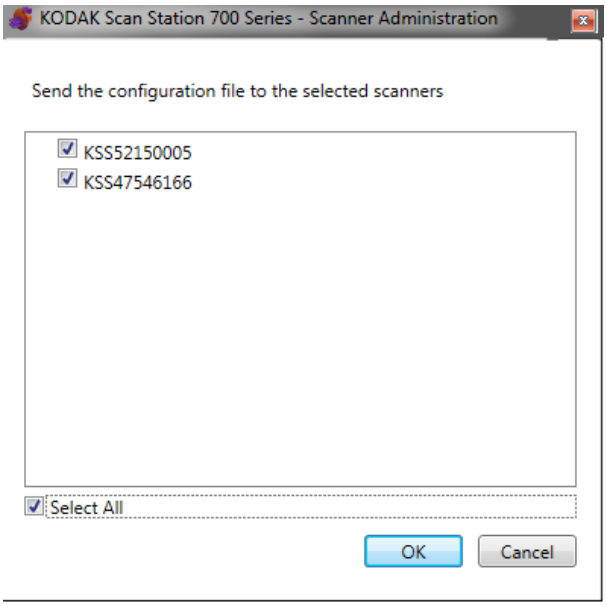
方法 1

設定ファイルと更新パッケージ（オプション）は、スキャナー管理アプリケーションを使用してアップロードします。スキャンステーションは、自動的に新しい設定ファイルや更新パッケージを認識して、更新します。

設定ファイルのアップロード

1. [設定] タブから、スキャンステーションにアップロードする設定を選択します。
2. **[ファイル]>[アップロード]** を選択します。次の画面が表示されます。

   注：選択した設定が変更された場合、設定名にアスタリスクが表示されます。設定をスキャンステーションにアップロードする前に、**[ファイル]>[保存]** を選択します。



3. 設定をアップロードするスキャンステーションのボックスを選択します。

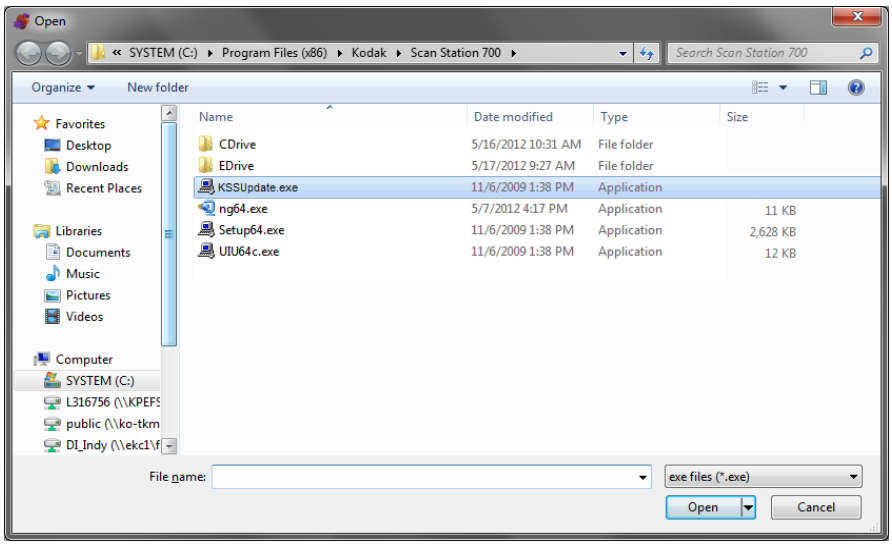
注：アップロード完了後、スキャンステーションが自動的に再起動します。

ファームウェアのアップロード

1. 新ファームウェアを適用するスキャンステーションを選択します。

   注：複数のスキャンステーションを選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択したスキャンステーションが強調表示されます。

2. **[スキャナー] > [ファームウェアのアップロード]** を選択します。[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。



3. アップロードする設定ファイルを選択して、**[開く]** をクリックします。

   注：

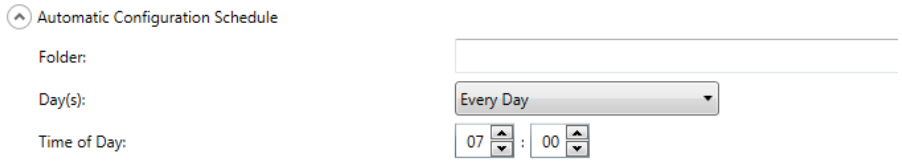
   - KSSUpdate.exe ファイルのみがスキャンステーションにアップロードされます。
   - 「***アップロードしています。***お待ちください」*というメッセージがファイルのアップロード中に表示されます。*
   - スキャンステーション本体のファームウェアと KSSUpdate ファームウェアが同じバージョンの場合は、何も起こりません。
   - スキャンステーションファームウェアを旧バージョンに戻したり、新バージョンに更新できます。KSSUpdate.exe ファイルの旧バージョンをアップロードすると、スキャンステーションは旧バージョンのファームウェアに戻ります。新バージョンをアップロードすると、スキャンステーションのファームウェアが更新されます。
   - 更新パッケージは、サービス担当者から入手できます。更新パッケージのファイル名は、KSSUpdate.exe です。

方法 2

設定とファームウェアの更新を保存したネットワークフォルダを監視するように、スキャンステーションを設定できます。

注： スキャンステーション 710 がある場合、低電力モードに移行するためこの方法は使用しないでください。

1. [設定] タブを選択します。
2. 変更する設定を選択します。
3. **［編集］> ［デバイス設定］**を選択します。
4. **[デバイスオプション]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
5. **[自動設定スケジュール]** 矢印をクリックし、以下の値を定義します。



- 更新ファイルのあるフォルダのパス。
- 曜日（毎日、毎週月曜日など）。
- 更新を確認する時刻（24 時間表示）。

*たとえば、フォルダ \\myserver\updates\myscanstationID を毎週月曜日の午前 7 時*に確認するとします。

スキャンステーションをリモートで設定して更新するには、2 つの方法があります。

- **ファイルやフォルダを 1 つ更新** — すべてのスキャンステーションが接続されたネットワーク上に、管理者がフォルダを 1 つ作成し、更新設定ファイルを監視させます。これにより、一度でネットワーク上のすべてのスキャンステーションに設定ファイルを送信できます。すべてのスキャンステーションが同じ設定を共有している場合は、この方法をお勧めします。

  注： リモートで更新する場合、ネットワーク上に複数のデバイスが作成されないように、設定の一部（スキャナ名、IP アドレス、リモートアクセスパスワード）が無視されます。

- **複数のファイルやフォルダを更新** — スキャンステーションごとに異なる設定が必要な場合は、ネットワーク上に共通のフォルダを作成し、直下にサブフォルダを作成して、ネットワーク上のスキャンステーションに個々の設定ファイルを保存することを推奨します。各スキャンステーションは、更新時に適切なフォルダを監視するように設定する必要があります。

定義された曜日の時刻に、スキャンステーションがネットワーク上の指定のフォルダを確認します。フォルダを確認したら、フォルダの内容を調べて、KSS.xml ファイルとオプションで KSSUpdate.exe ファイルを探します。KSS.xml ファイル、または KSSUpdate.exe ファイルを検出すると、変更日時とスキャンステーションで実行した設定の最終時刻を比較します。KSS.xml ファイルまたは KSSUpdate.exe ファイルが最新の場合、設定ファイルやファイル内のファームウェア更新を適用します。

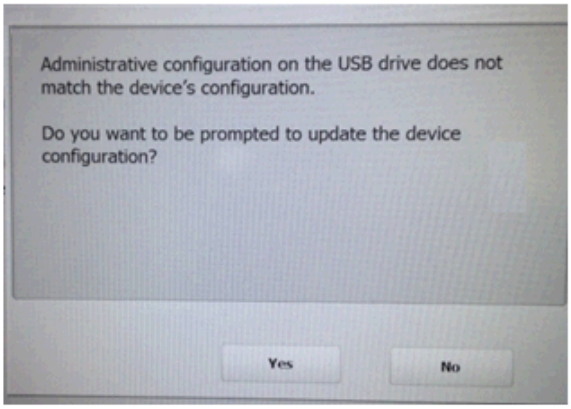
注：

- 更新パッケージは、コダックの Web サイトまたはサービス担当者から入手できます。更新パッケージのファイル名は KSSUpdate.exe です。
- 設定およびファームウェアを更新するためのネットワークフォルダの設定 (自動設定スケジュール : 手順 5 で指定したフォルダ):
  1. [設定] タブを選択します。
  2. ネットワークフォルダに保存する設定ファイルを選択します。
  3. **[ファイル]>[エクスポート]** を選択して、設定ファイルをネットワークフォルダに保存します。[名前を付けて保存] が表示されます。
  4. **KSS.xml** という名前で **[保存]** をクリックしてネットワークフォルダにファイルを保存します。
  5. KSSUpdate.exe をネットワークフォルダにコピーします。

方法 3

この方法では、設定ファイルを USB メモリにコピーする必要があります。USB メモリをスキャンステーションに挿入して認識されると、スキャンステーション設定の更新を求めるメッセージが表示されます。

注：ローカルアクセスパスワードが設定されている場合、ローカルアクセスパスワードを入力するようプロンプトされます。



[はい] を選択すると、各項目の更新を要求するメッセージが表示されます。設定の更新が完了したら、**[OK]** をクリックするか USB メモリを抜くと、スキャンステーションが再起動します。

これはスキャンステーションごとに実施してください。

USB メモリで設定を更新する場合

1. [設定] タブを選択します。
2. USB メモリに保存する設定ファイルを選択します。
3. **[ファイル]>[エクスポート]** を選択して、設定ファイルを USB メモリに保存します。[名前を付けて保存] が表示されます。
4. **KSS.xml** という名前で **[保存]** をクリックして USB メモリに保存します。

方法 4

この方法ではタッチスクリーンの設定モードで利用できる設定を対話式で選択して値を変更できます。設定ファイルをを保存した USB メモリがスキャンステーションに認識されると、スキャンステーション設定の更新メッセージが表示されます。

注：ローカルアクセスパスワードが設定されている場合、ローカルアクセスパスワードを入力するようプロンプトされます。

[いいえ] を選択すると、スキャンステーションはローカル管理モードになります。この時点でスキャンステーションのほとんどの設定を変更できます。USB メモリを抜くとすぐに更新されます。

USB で設定を更新する場合

1. [設定] タブを選択します。
2. USB メモリに保存する設定ファイルを選択します。
3. **[ファイル]>[エクスポート]** を選択して、設定ファイルを USB メモリに保存します。[名前を付けて保存] 画面が表示されます。
4. **KSS.xml** という名前で **[保存]** をクリックして USB メモリに保存します。

詳細については、「ユーザー設定」を参照してください。

方法 5

この方法では、更新パッケージと設定ファイルを USB メモリにコピーする必要があります。USB メモリをスキャンステーションに挿入して認識されると、更新パッケージが現在インストールされているバージョンとは異なる場合、スキャンステーションファームウェアの更新を求めるメッセージが表示されます。現在のバージョン番号と更新パッケージのバージョン番号の両方が表示されます。ファームウェアの更新を決定した場合は、更新パッケージにあるすべてのデータがスキャンステーションにコピーされてインストールされます。インストールが完了したら、**[OK]** をクリックするか、USB メモリを取り外すと、スキャンステーションが自動的に再起動します。

スキャンステーションが設定ファイル (kss.xml) を検出した場合、***[デバイス設定を更新するメッセージを表示しますか ?]*** というメッセージが表示されます。更新パッケージ (KSSUpdate.exe) が USB メモリに保存されており、スキャンステーションを更新する場合は、[はい] を選択し、スキャンステーションのメッセージに従います。

注： 更新パッケージは、サービス担当者から入手できます。更新パッケージにのファイル名は KSSUpdate.exe です。

USB を使用してファームウェアを更新する場合

1. [設定] タブを選択します。
2. USB メモリに保存する設定ファイルを選択します
3. **[ファイル]>[エクスポート]** を選択して、設定ファイルを USB メモリに保存します。[名前を付けて保存] 画面が表示されます。
4. **KSS.xml** という名前で **[保存]** をクリックしてファイルを USB メモリに保存します。
5. KSSUpdate.exe を USB メモリにコピーします。

スキャンステーションのセキュリティ

セキュリティは日々のビジネスにとってとても重要です。ネットワークデバイスは外部ソースからの侵入を許さないことが大事です。Scan Station 700 シリーズは、インターネットからの外部攻撃を防ぎ、ユーザが直接アクセスできないように設定されています。以下のセキュリティ機能で、スキャンステーションの OS へのアクセスをブロックします。

- スキャンステーションはファイアウォールを使用して、受信するほとんどすべてのネットワークトラフィックをブロックします。受信ポートの大半はブロックされ、ネットワークからのクエリには応答しません。
- また、スキャンステーションはエコー（別名 ping）に応答するように設定されています。これは接続性の問題を診断する際に便利です。
- また、スキャンステーションは、スキャンステーション USB ポートを介した外部の侵入からも保護されています。オペレーティングシステムは自動実行が無効に設定されているため、システムに新しい USB デバイスが接続されても自動的に起動することはありません。スキャンステーションは、USB メモリデバイスを認識し、スキャンステーションでの使用に限定された暗号化ファイルだけを読み取ります。正しく暗号化されていない ファイルが USB メモリにあっても無視されます。これにより、ウィルス感染した実行ファイルが保存された USB メモリを挿入しても、ウィルスの侵入はほとんど不可能になります。
- ウィルスはたびたび、E メールを介してネットワークに接続したコンピュータに侵入することがあります。ほとんどのウィルスは E メールの添付ファイルとして送信され、電子メールを開いて添付ファイルを実行するとコンピュータに感染します。スキャンステーションでは、メールを受信しないため、この方法で感染することはありません。
- スキャンステーションは、正しく暗号化された設定ファイルのみを読み取ります。
- 内部のオペレーティングシステムは、管理者やユーザは使用できません。OS とファームウェアの更新は、必要に応じて、Kodak Alaris の Web サイト (http://www.kodakalaris.com/go/disupport) を参照してください。
- スキャンステーションのセキュリティを確保するには、リモートアクセスパスワードを設定します。詳細については、第 3 章の「スキャナーメニュー」を参照してください。
- スキャン前にユーザに対してログインを要求することができます。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。

スキャンステーションのパスワード保護

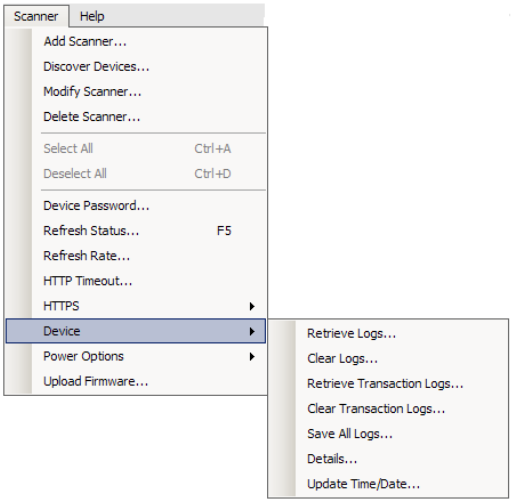
スキャン前にユーザに対してスキャンステーションへのログインを要求することができます。ローカルアクセスパスワードを割り当てる場合は、4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。このセキュリティ機能は、機密情報のスキャンと配信の管理を必要とする企業や部署使用することを前提としています。ローカルアクセスパスワードを割り当てると、パスワードを知らない全ユーザに対してアクセスが拒否されす。パスワード保護されたスキャンステーションでは、パスワードの入力を 3 回まで再試行できます。入力に 3 回失敗すると、スキャンステーショに数分間警告メッセージが表示され、ローカルアクセスパスワード入力画面に戻ります。

また、ローカルアクセスパスワードは、スキャンステーションに組み込まれた、非アクティブ状態のタイマーと連動して動作します。通常の操作は､スキャンステーションが待機状態になって 30 秒が過ぎると、スキャンステーション設定をデフォルトの状態にリセットするかを確認する警告画面が表示されます。何も選択しないで、非アクティブ状態でさらに 2 分が過ぎると、デバイスがデフォルトの状態に戻ります。この時点で、ユーザは、スキャンステーションを使用するためにローカルアクセスパスワードを再入力する必要があります。

注： 追加のセキュリティ対策として、個々のユーザーにスキャンステーションへのログインを要求できます。詳細については、第 4 章の「Active Directory Server の設定」を参照してください。

ファイルの取得と消去

ログファイルの取得と消去オプションは、**[スキャナー]>[デバイス]** を選択します。



スキャンステーションのログファイルの取得

[ログの取得] オプションでは、選択したスキャンステーションのログファイルを保存できます。ログ ファイルの拡張子は .log です。ログファイルには、スキャンステーションの関連情報（紙詰まりなど）が記録されます。

ログファイルの保存には、以下の 2 つの方法があります。

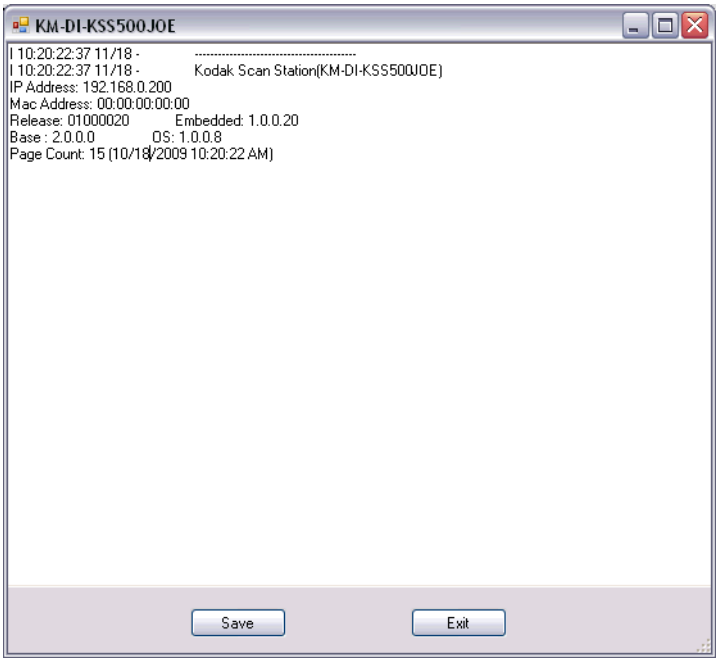
- 方法 1。スキャナー管理アプリケーションを使用。
- 方法 2。USB メモリを使用。

方法 1

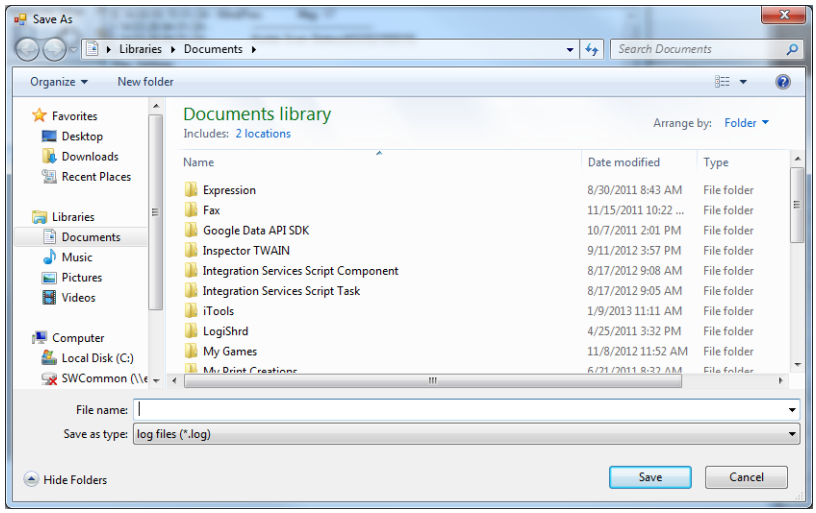
1. [スキャンステーション] を選択します。

   注：複数のスキャンステーションを選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択したスキャンステーションが強調表示されます。

2. **[スキャナー] > [デバイス] > [ログ取得]** を選択します。選択したスキャンステーションのログファイルが表示されます。



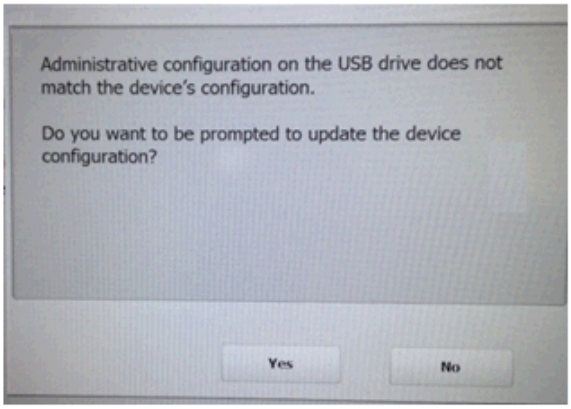
3. **[保存]** をクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



4. ログファイルの名前を入力して、**[保存]** をクリックします。

方法 2

1. 新しい USB メモリに設定ファイル (kss.xml) を作成します。
2. スキャンステーションに USB メモリを挿入し、ローカル管理者モードにします。以下のメッセージが表示されます。



3. **[いいえ]** を選択します。スキャンステーションに [設定] アイコンが表示されます。
4. 矢印を使用して、[診断] アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
5. **[ログを保存します]** をクリックしてから **[はい]** をクリックして、ログファイルを USB メモリに保存します。

analog.log、kss.xml.log 、NTBT.log.txt が USB メモリに保存されます。

ログファイルの消去

ログファイルを消去するには

1. トランザクションログを消去するスキャンステーションを選択します。
2. **[スキャナー] > [デバイス] > [ログ消去]** を選択します。「***選択したスキャナーのログファイルを削除してもよろしいですか？***」というメッセージが表示されます。
3. **[はい]** をクリックします。

スキャンステーションのトランザクションファイルの取得

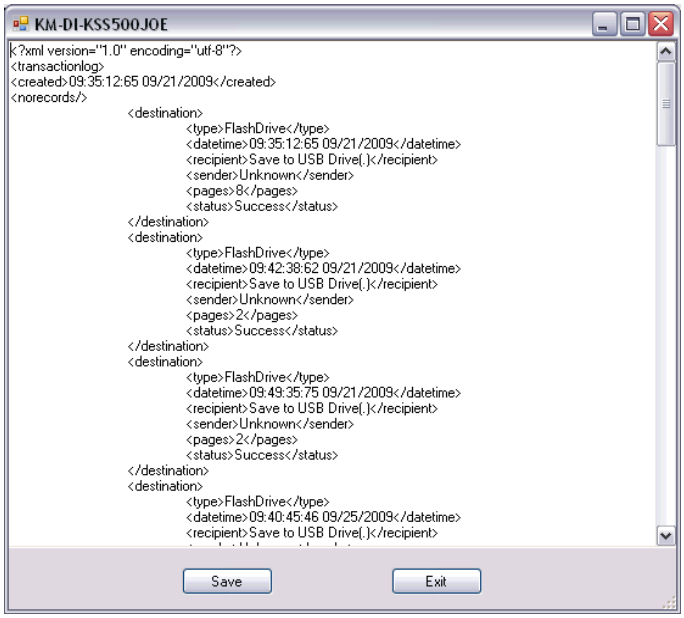
［トランザクションログの取得］オプションでは、選択したスキャンステーションのトランザクションログファイルを保存できます。トランザクションログファイルの拡張子は、,xml です。トランザクションログファイルには、スキャンステーションで行われたトランザクションに関する情報（トランザクションの宛先と時間、受信者、送信者、トランザクションのステータス、スキャンしたページ数）が含まれています。

ログファイルの保存には、以下の 2 つの方法があります。

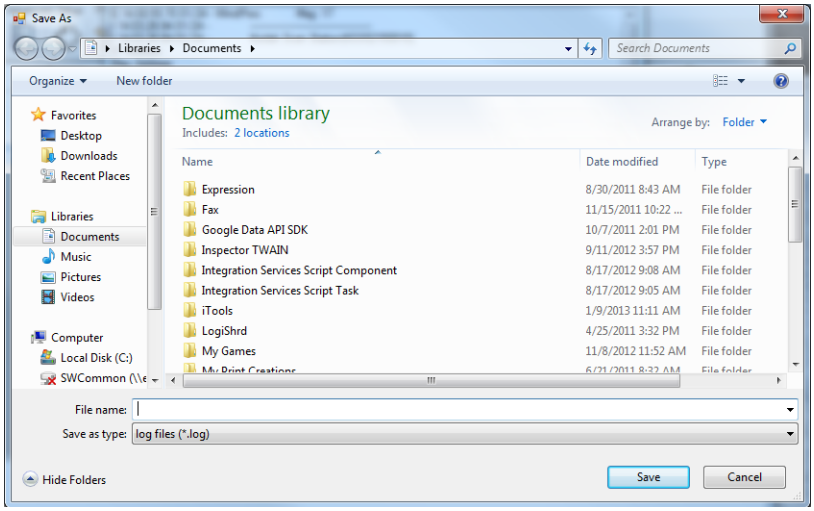
- 方法 1：スキャナー管理アプリケーションを使用。
- 方法 2：USB メモリを使用。

方法 1

1. ［スキャンステーション］を選択します。
2. **［スキャナー］＞［デバイス］＞［トランザクションログの取得］**を選択します。選択したスキャンステーションのログファイルが表示されます。



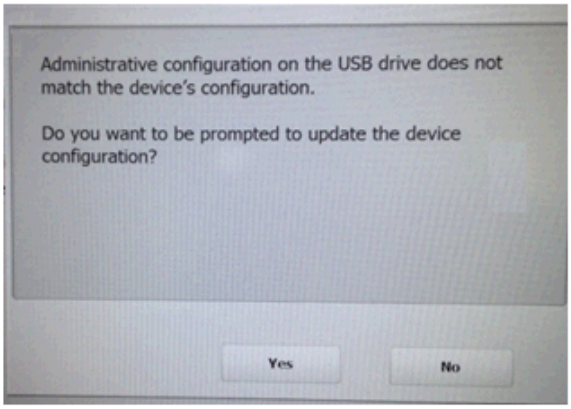
3. **［保存］**をクリックします。［名前を付けて保存］ダイアログボックスが表示されます。



4. ファイル名を入力し、**[保存]** をクリックします。

方法 2

1. 新しい USB メモリに設定ファイル (kss.xml) を作成します。
2. スキャンステーションに USB メモリを挿入し、ローカル管理者モードにします。以下のメッセージが表示されます。



3. **[いいえ]** を選択します。スキャンステーションに [設定] アイコンが表示されます。
4. 矢印を使用して、[診断] アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
5. **[トランザクションログを保存する]** をクリックしてから **[はい]** をクリックして、トランザクションログファイルを USB メモリに保存します。次のメッセージが表示されます。***トランザクションログが USB メモリにコピーされました。トランザクションログを消去しますか？***
6. **[はい]** をクリックしてログを消去します。

<Time>_<Date>_TransactionLog.xml が USB メモリに保存されます。

トランザクションログファイルの消去

トランザクションログファイルを消去する場合は

1. トランザクションログを消去するスキャンステーションを選択します。

   注：複数のスキャンステーションを選択する場合、Ctrl キーまたはシフトキーを押しながら、マウスボタンをクリックします。選択したスキャンステーションが強調表示されます。

2. **[スキャナー] > [デバイス] > [トランザクションログの消去]** を選択します。「***選択したスキャナーのトランザクション ログファイルを削除してもよろしいですか？***」というメッセージが表示されます。
3. **[はい]** をクリックします。

すべてのログファイルの保存

[すべてのログを保存] オプションでは選択したスキャンステーション上で検出されたすべてのログを取得できます。ログファイルを保存するディレクトリを選択します。ディレクトリの名前には選択したスキャンステーションの名前が含まれ、そのフォルダに取得されたログファイルが保存されます。

スキャンステーションの詳細

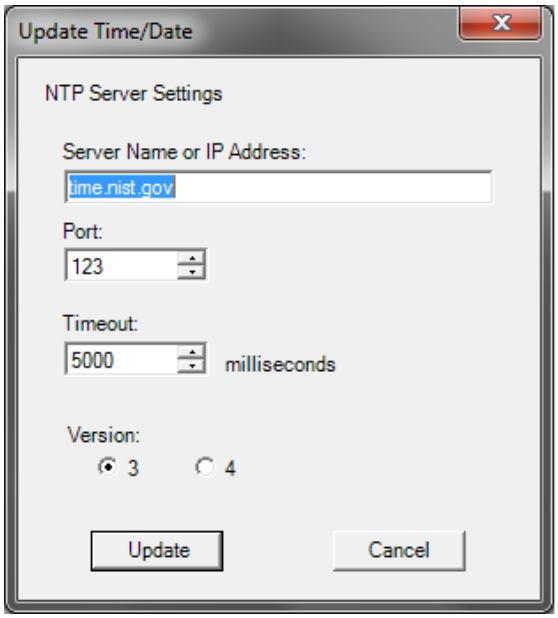
選択したスキャンステーションの詳細を表示するには

- **[スキャナー]>[デバイス]>[詳細]** を選択します。選択したスキャンステーションに関する詳細情報（ソフトウェアのバージョン、IP アドレスなど）が、[詳細] に表示されます。

リモートでの日時の更新

使用するネットワークから NTP サーバにアクセスできる場合は、[日時の更新] オプションを使用してすべてのスキャンステーションの内部クロックを NTP サーバと同期できます。

1. **[スキャナー] > [機器] > [日時の更新]** を選択します。以下のダイアログボックスが表示されます。



2. 内部クロックを同期させる NTP サーバのサーバ名か IP アドレスを入力します。
3. NTP サーバのポートを選択します。デフォルト値は 123 です。
4. スキャンステーションが内部クロックの同期を停止するまでの時間（ミリ秒単位）を入力します（500 ミリ秒 = 1/2 秒）。問題が無い場合は初期設定変更しないでください。
5. NTP サーバのバージョン **3** または **4** を選択します。
6. **[更新]** をクリックします。

スキャンステーションの電源オフ

スキャンステーションは特別な理由（ネットワークの定期的なダウンタイム、停電、特定の保守）によって、電源のオフが必要になる場合があります。必要の場合は、リモートで電源オフにできます。

1. 電源をオフにするスキャンステーションを選択します。
2. **[スキャナー] > [電源オプション] > [電源オフ]** を選択します。***「選択したスキャナーの電源をオフしてもよろしいですか？」***というメッセージが表示されます。
3. **[はい]** をクリックして、スキャンステーションの電源をオフにします。

注： また、電源ボタンを押して、スキャンステーションの電源オフや、再起動ができます。

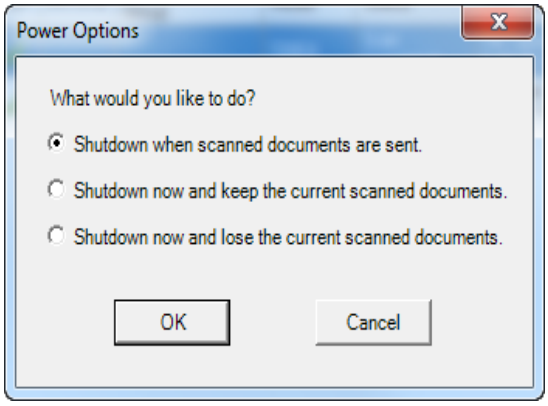
スキャンステーションの再起動

スキャンステーションは特別な理由（新規ファームウェアのロード）によって、再起動が必要になる場合があります。必要な場合、スキャンステーションはリモートで再起動できます。

1. **[スキャナー] > [電源オプション] > [再起動]** を選択します。***「選択したスキャナーを再起動してもよろしいですか？」***というメッセージが表示されます。
2. **[はい]** をクリックして、スキャンステーションを再起動します。

注： また、電源ボタンを押して、スキャンステーションの電源オフや、再起動ができます。

スキャナー管理アプリケーションを使用してスキャンステーションを再起動やシャットダウン時（**[スキャナー]>[電源オプション]**）に、バックグラウンド処理キューのジョブがある場合、オプションの一覧が表示されます。



- 該当するオプションを選択して、**[OK]** をクリックします。

スキャンステーションの移動

スキャンステーションをネットワーク間で移動する必要がある場合、

1. スキャンステーションの電源を切ります。
2. 電源コードとネットワークケーブルを取り外します。
3. スキャンステーションを目的の場所に移動します。
4. 電源コードとネットワークケーブルを取り外します。
5. スキャンステーションの電源を入れます。

10 メンテナンス

目次

カバーを開く 10-1
清掃手順 10-2
　ローラの清掃 10-2
　セパレーションモジュールの清掃 10-3
　フィードモジュールの清掃 10-4
　掃除機を使用した清掃 10-5
　イメージングガイドの清掃 10-6
　トランスポートクリーニングシートによる清掃 10-6
交換手順 10-7
　セパレーションモジュールタイヤの交換 10-7
　プリセパレーションパッドの交換手順 10-9
　フィードモジュールタイヤの交換 10-10
プリセパレーションローラのテンションの調整 10-12
アクセサリと消耗品 10-13

スキャンステーションのカバーを開く

1. スキャンステーションカバーを開く前に、出力カバーが下がっていることを確認してください。

2. スキャンステーションカバーリリースレバーを押しながら、スキャンステーションカバーを開きます。

3. スキャンステーションの清掃や部品の交換が完了したら、スキャンステーションカバーを両手で閉じます。

清掃手順

スキャンステーションは定期的に清掃する必要があります。書類がうまく給紙できなかったり、複数の書類が一度に給紙されたり、画像に線が入る場合は、スキャンステーションを清掃する必要があります。後述の「消耗品」で、スキャンステーションの清掃用消耗品リストがあります。

重要：コダックパーツサービスから購入したクリーナなど、不燃性のクリーナを使用してください。家庭用クリーナは使用しないでください。

清掃前に、室温になるまで表面を冷ましてください。高熱面にクリーナを使用しないでください。

換気を行ってください。狭い場所でクリーナを使用しないでください。

エアー、液体、ガススプレークリーナを使用しないでください。これらのクリーナは、ほこり、汚れ、ゴミをスキャンステーション内の別の場所に広げてしまいます。

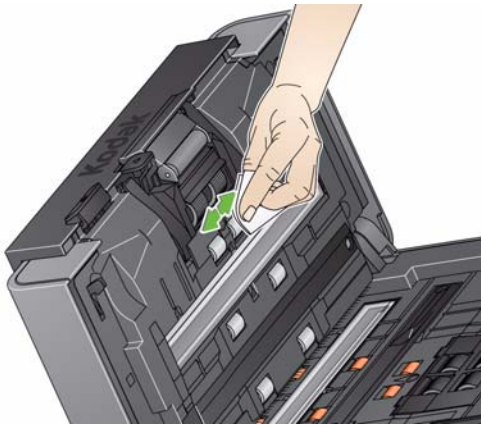
タイヤまたはイメージングガイドにはアルコールベースのクリーナを使用しないでください。

注：

- 清掃開始前に、スキャンステーションの電源をオフにして、電源コードを外してください。
- メンテナンス作業が終わったら、石鹸と水で手を洗ってください。

ローラの清掃

1. スキャンステーションのカバーを開きます。
2. ローラクリーニングパッドを使って、フィードローラを磨くように拭きます。フィードローラを回しながら、全面を清掃します。



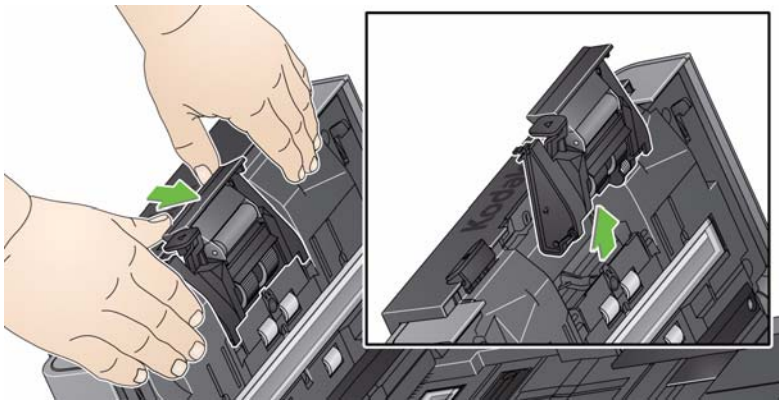
重要：ローラークリーニングパッドには、目に刺激を与える可能性のあるラウリル硫酸エーテルナトリウムが含まれています。メンテナンス作業が終わったら、石鹸と水で手を洗ってください。詳細については、MSDS（製品安全データシート）を参照してください。

3. チリの出ない布でローラを乾拭きします。

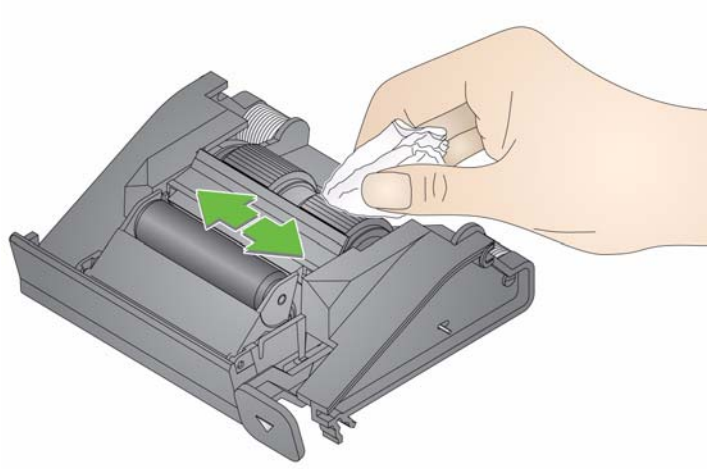
セパレーションモジュールの清掃

正しくクリーニングするには、スキャンステーションからセパレーションモジュールを取り外す必要があります。

1. セパレーションモジュールを押し上げて取り外します。



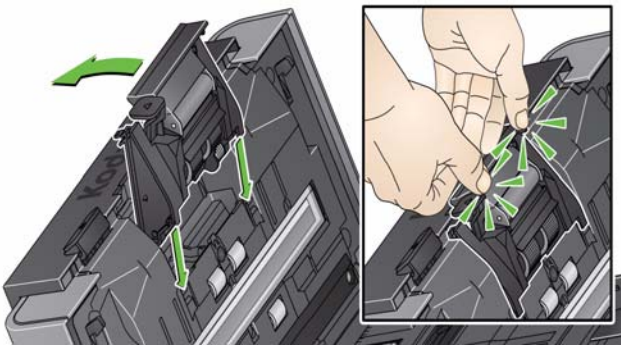
2. セパレーションモジュールタイヤを回しながらローラクリーニングパッドで拭きます。



3. セパレーションモジュールを確認します。

   セパレーションモジュールタイヤに消耗や損傷している兆候が見える場合には、セパレーションモジュールを交換します。詳細は「交換手順」を参照してください。

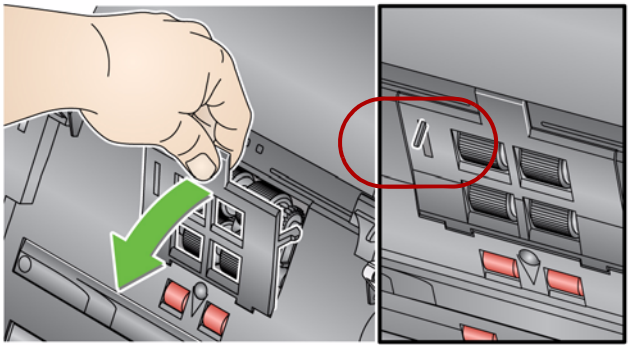
4. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



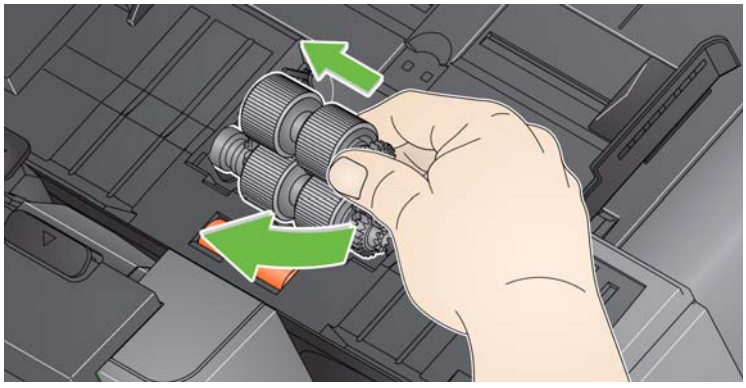
フィードモジュールの清掃

注：用紙センサはフィードモジュールの左側にあります。フィードモジュールを取り外したり、フィードモジュールの周囲を清掃する場合、用紙センサを傷つけないように注意してください。

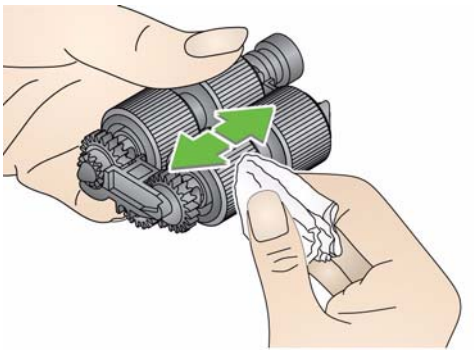
1. フィードモジュールカバー中央の先端をつまみ、持ち上げながら外します。



2. フィードモジュールを起こし、左側に押込みながら外します。



3. フィードモジュールタイヤを回しながら、ローラクリーニングパッドで拭いてください。

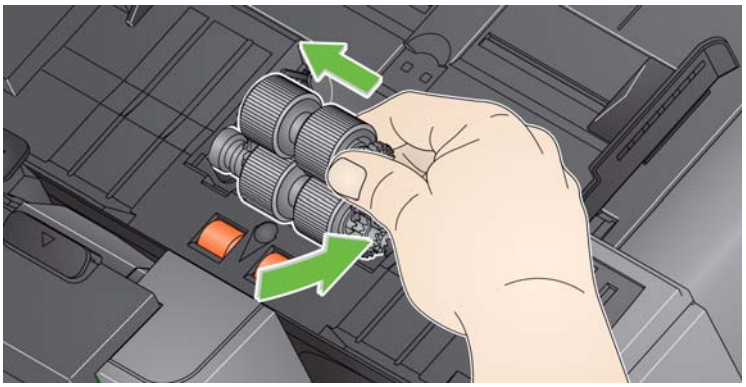


4. フィードモジュールを確認します。

   フィードモジュールタイヤに磨耗や損傷の兆候が見える場合は、タイヤまたはフィードモジュールを交換します。詳細は「交換手順」を参照してください。

5. 掃除機やクリーニングパッドを使って、フィードモジュールのゴミやホコリを取り除きます。

6. フィードモジュールピンを合わせ、左に押込みながら定位置に戻します。歯車が正しくかみ合うように取り付けてください。フィードモジュールを元の位置に戻します。



7. タブを溝に合わせてフィードモジュールカバーを正しい位置に押し込み、しっかりと取り付けてください。

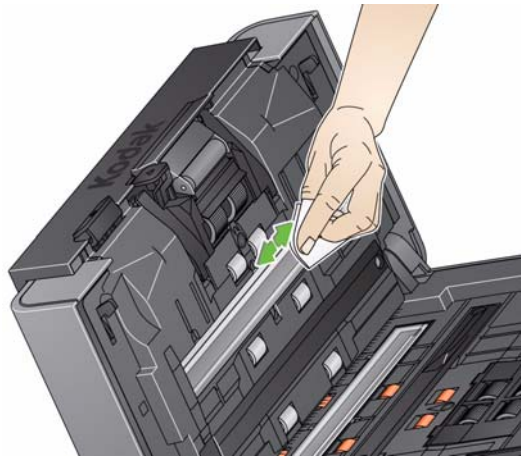
掃除機を使用した清掃

イメージングエリアをクリーニングする前に、スキャンステーション内部を掃除機を使って、ゴミやほこりを取り除きます。

イメージングガイドの清掃

1. 上部イメージングガイドと下部イメージングガイドを静電クリーニングクロスで拭きます。イメージングガイドに傷を付けないように注意してください。

重要：静電クリーニングクロスには、目に刺激を与え、肌の乾燥の原因となるイソプロパノールが含まれています。メンテナンス作業が終わったら、石鹸と水で手を洗ってください。詳細については、MSDS（製品安全データシート）を参照してください。



2. 拭き痕を残さない様に乾燥した静電クリーニングクロスを使って、もう一度上下のイメージングガイドを拭きます。
3. 完了したら、カバーを両手で閉じます。

トランスポートクリーニングシートによる清掃

1. トランスポートクリーニングシートの台紙を取り除きます。
2. クリーニングシートに合わせてサイドガイドを調整します。
3. 入力トレイにトランスポートクリーニングシートを（粘着面を手前に向けて）縦にセットします。
4. ジョブを選択するか、または出力先を選択して緑色の［スキャン］ボタンを選択します。
5. トランスポートクリーニングシートのスキャンが終了したら、裏返して（粘着面を入力トレイに伏せる）もう一度スキャンします。
6. カバーを開け、繊維くずの出ない布でイメージングガイドを拭きます。
7. カバーを両手で閉じます。
8. イメージ品質を確認します。
9. 必要に応じて、この手順を繰り返し、ローラから汚れをすべて取り除きます。

注： クリーニング シートがかなり汚れたら、破棄して新しいシートを使用してください。

交換手順

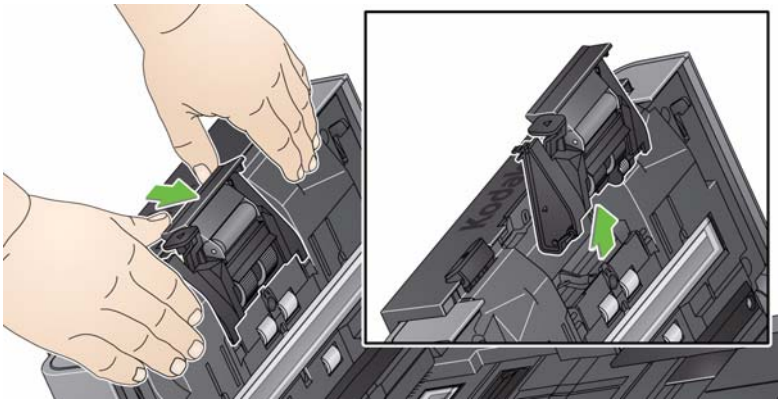
コダック スキャンステーションは、さまざまな種類、サイズ、厚みの原稿を給紙できる、交換可能なタイヤを使用しています。タイヤの寿命は、原稿の種類、搬送路とタイヤの清掃の頻度、推奨の交換スケジュールに従っているか、などの条件によって異なります。タイヤ平均寿命は、約 125,000 枚です。耐用年数については保証されていません。運用環境、原稿の種類や状態、推奨の清掃 / 交換手順の遵守によって、消耗品の寿命は異なります。後述する清掃手順に従って作業を行っても、重送、紙詰まり、フィーダパフォーマンスの低下などの問題が頻発する場合は、タイヤを交換してください。

注：

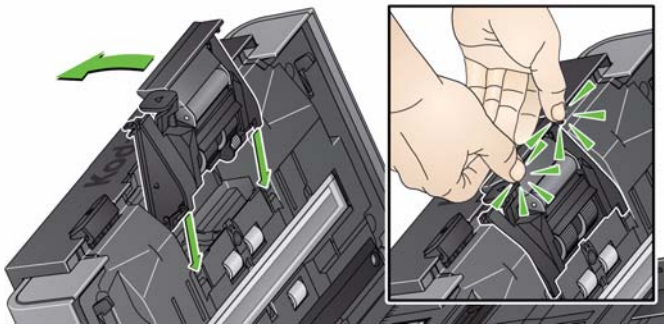
- 交換作業開始前に、スキャンステーションの電源をオフにして、電源コードを外してください。
- 特定の原稿（ノンカーボン用紙や新聞紙）を使用して、定期的に清掃を行わなかった場合、推奨品以外のクリーニング液を使用した場合などは、ローラの寿命が短くなる場合があります。

セパレーションモジュールタイヤの交換

1. セパレーションモジュールを押し上げて取り外します。



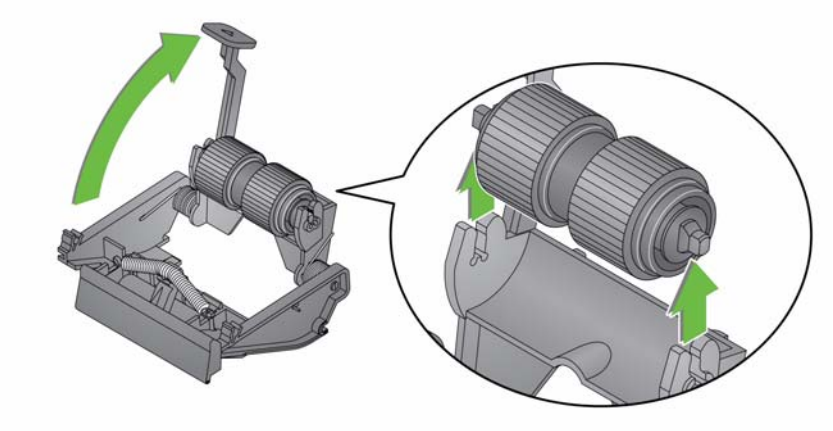
- セパレーションモジュールを交換する場合、新しいセパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



- タイヤを交換する場合は、手順 2 に進みます。

2. セパレーションモジュールを持ったまま、リリースレバーを後ろに回し、セパレーションローラーを取り出します。

注意： リリースレバーにはスプリングが付いているので、正しく保持しないと跳ね返るおそれがあります。充分に注意してください。

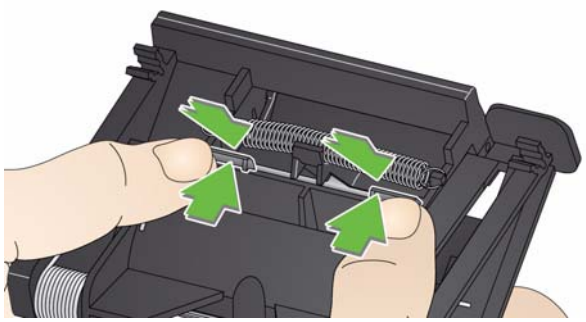


3. セパレーションモジュールからセパレーションローラーを取り外します。
4. 各タイヤを軸から外します。
5. 新しいタイヤを軽く引き伸ばしながら軸に取り付けます。

   重要： タイヤを引き伸ばし過ぎないでください。破損する場合があります。
6. セパレーションローラを元の位置に取り付けます。正しい位置にセパレーションローラを取り付けてください。
7. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。

プリセパレーションパッドの交換手順

1. 「セパレーションモジュールタイヤの交換」で説明されている手順に従って、セパレーションモジュールを取り外します。
2. 両手でセパレーションモジュールを持ち、セパレーションモジュールの後部からわずかに出ている、2 つのタブを確認します。
3. タブを、プリセパレーションパッドがセパレーションモジュールの前面から少し出るまで押し出します。
4. プリセパレーションパッドをつまみ、セパレーションモジュールから引き出します。

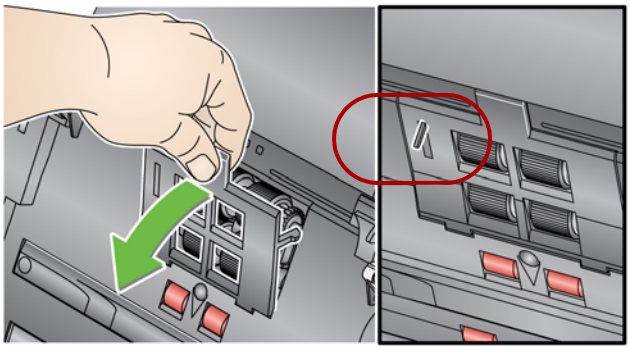


5. 使用済みのプリセパレーションパッドを破棄します。
6. 新しいプリセパレーションパッドのタブと、セパレーションモジュールの溝を合わせます。
7. プリセパレーションパッドフラップがセパレーションモジュールタイヤに軽く付くまで、しっかりと押し込みます。
8. セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。

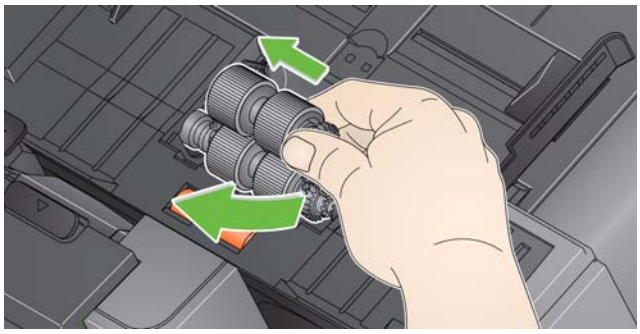
フィードモジュールタイヤの交換

注： 用紙センサはフィードモジュールの左側にあります。フィードモジュールを取り外したり、フィードモジュールの周囲をクリーニングする場合、用紙センサを傷つけないように注意してください。

1. フィードモジュールカバー中央の先端をつまみ、持ち上げながら外します。

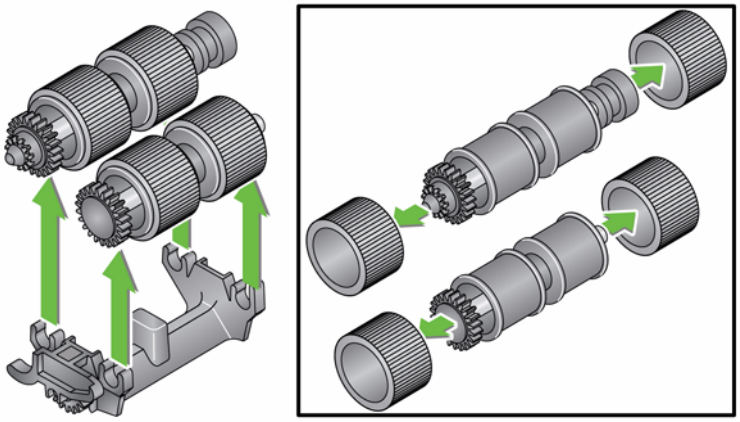


2. フィードモジュールを起こし、左側に押込みながら外します。



- フィードモジュールを交換する場合、新しいフィードモジュールピンを合わせ、左に押し込みながら定位置に収めます。ギアが正しい位置にはめ込まれていることを確認し、手順 8 に進みます。
- タイヤを交換する場合は、手順 3 に進みます。

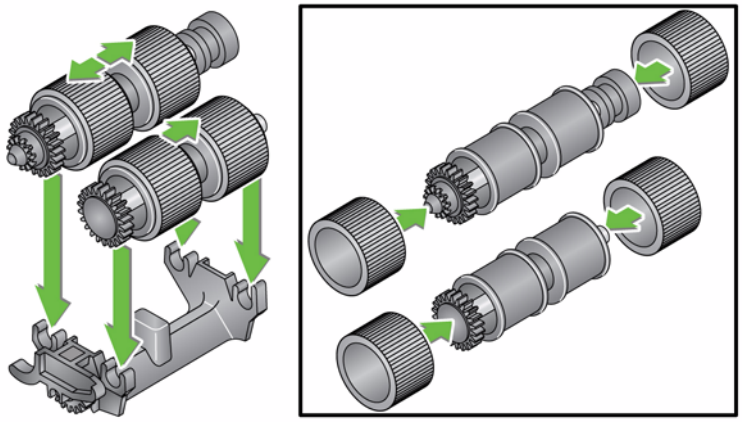
3. コアアセンブリを持ち上げて取り外します。
4. 各タイヤを軸から外します。



5. 新しいタイヤを軽く引き伸ばしながら軸に取り付けます。

   重要：タイヤを引き伸ばし過ぎないでください。ちぎれる場合があります。

6. フィードモジュールにコアアセンブリを取り付けます。フィードモジュールを正しく取り付けるために、シャフトを右か左にずらす必要があることもあります。
7. 上記の交換手順を繰り返し、もう一方のコアアセンブリのタイヤを交換します。
8. フィードモジュールピンを合わせ、左に押込みながら定位置に戻します。

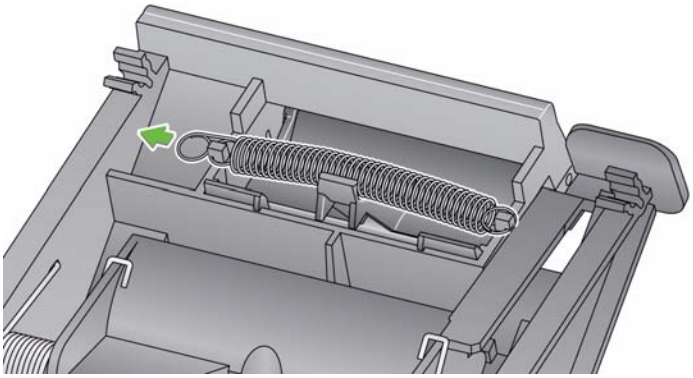


9. タブを溝に合わせてフィードモジュールカバーを正しい位置に押し込み、しっかりと取り付けてください。

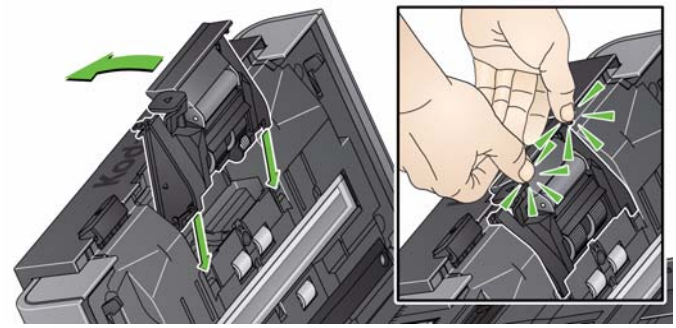
プリセパレーションローラのテンションの調整

重送または原稿詰まりが発生している場合は、プリセパレーションローラのテンションの調整が必要になります。

1. 「セパレーションモジュールとタイヤの交換」で説明されている手順に従って、セパレーションモジュールを取り外します。
2. セパレーションモジュールのスプリングを確認します。
3. このスプリングをホルダから持ち上げて左か右に動かし、テンションを調整します。



4. 完了したら、セパレーションモジュールのタブと溝の位置を合わせて、押し込みます。



消耗品

消耗品を注文するには、最寄りのスキャンステーション販売代理店に連絡してください。

説明	カタログ番号
*コダック*フィードローラ（数量 : 12）	148 4864
セパレーションモジュール	173 6115
フィードモジュール	826 9607
Kodak Digital Science ローラクリーニング パッド（数量 : 24）	853 5981
Kodak Digital Science トランスポートクリーニング シート（数量 : 50）	169 0783
静電クリーニングクロス（数量 : 24 x 6 箱）	896 5519

注 : 品名とカタログ番号は、変更される場合があります。

化学製品の化学物質安全データシート (MSDS) は、次のコダック Web サイトで入手できます。www.kodakalaris.com/go/msdsウェブサイトから MSDS にアクセスする場合、消耗品のカタログ番号を提示する必要があります。

11 トラブルシューティング

目次

問題の解決 11-1
インジケータライト 11-6
エラーログファイルの保存 11-6
サービスセンターへの問い合わせ 11-6

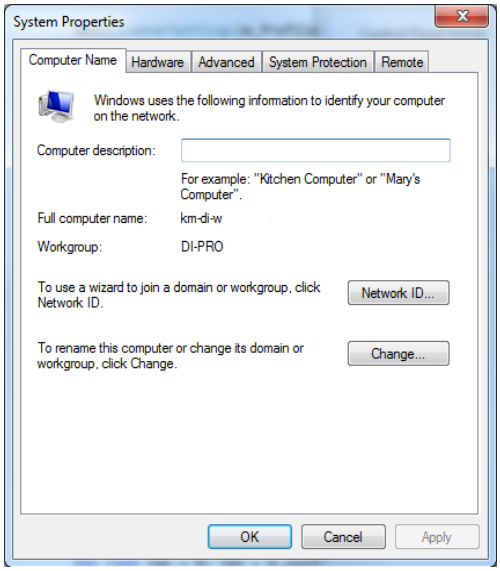
問題解決

スキャナーの使用状況によっては、スキャンステーションが正常に動作しない場合があります。以下のチャートを参照して、サービス&サポートに問い合わせる前にご自分で問題を解決できるか確認してください。

問題	解決方法
スキャンステーションでは、書類をスムーズにスキャンして最適な画質を得るために、定期的にクリーニングとメンテナンスが必要です。スキャンステーションで最高のパフォーマンスを発揮するには、*第 10 章「メンテナンス」*で説明したクリーニングの処理手順を推奨します。	
紙詰まりになる。または原稿が重送する	以下を確認してください。 • サイドガイドが書類の幅に正しく調整されている。 • 入力トレイに 80 g/m^2（20 ポンド）用紙を 75 枚以上載せていない。 • スキャンする原稿の長さに合わせて出力トレイが調整されている。 • すべての書類が付録 A *「仕様」*に挙げられたサイズ、重量、タイプに適合しているか確認する。 • スキャンステーションとローラが清掃されている。 • ローラが磨耗していない。交換の必要がないこと。 • プリセパレーションモジュールのスプリングのテンションが適切に調整されている。手順については、第 10 章*「メンテナンス」*を参照してください。 • フィードモジュールとプリセパレーションモジュールが正しく取り付けられ、確実に固定されている。手順については、第 10 章*「メンテナンス」*を参照してください。 **紙詰まりを解消するには：** *重要：カバーを開く前に、必ず入力トレイが下になっていることを確認してください。詰まった書類は Scan Station から引き出さないでください。まずはスキャンステーションのカバーを開いてください。* • スキャンステーションカバーリリースレバーを押しながら、スキャンステーションカバーを開きます。 • 詰まっている書類をスキャンステーション内部から取り出します。 • スキャンステーションカバーを閉じ、スキャンを再開します。
スキャンステーションが書類をスキャンしない、または給紙しない	以下を確認してください。 • 電源コードがスキャンステーション本体と電源コンセントに確実に接続されている。 • 電源スイッチがオンで、LED が青である。 • 電源コンセントに問題がない（資格のある電気技術者にお問い合わせください）。 • 書類がフィードローラに接触している。

問題	解決方法
画像が表示されない	スキャンする原稿はジョブの設定に基づいて入力トレイに適切にセットするようにしてください。たとえば、**片面 - 原稿を伏せて**スキャンするようにジョブがセットアップされている場合は、スキャンする面を入力トレイに向けて（伏せて）セットします。ジョブの設定が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
スキャン後に、ローラの跡が原稿に付着する	ローラを清掃してください。手順については、第 10 章 *「メンテナンス」* を参照してください。
イメージの背景に黒いにじみがある	半透明の原稿をスキャンするとき、黒いにじみが画像に現れる場合があります。最小限に抑えるため、[スキャン設定] 画面で [コントラスト] の値を調節してください。
赤、緑、青の線がカラー写真に入っている	スキャナーが汚れているので清掃が必要です。手順については、第 10 章 *「メンテナンス」* の「清掃手順」を参照してください。
イメージ品質が悪い、または低下している	スキャンステーションを清掃します。手順については、第 10 章 *「メンテナンス」* の「清掃手順」を参照してください。
ネットワーク認証問題	**解決方法**
スキャンステーション起動中にアイドルモードで 15 分以上経過し省電力モードになっている場合は、Scan Station 700 シリーズスキャナ管理アプリケーションはキャンステーションと通信できません	Wake On LAN(WOL) は、ブロードキャストアドレスを使用して作動するように設計されているため、スキャンステーションとスキャナ管理アプリケーションが同じサブネットを使用している場合はより確実に作動します。これはサブネット全体で使用可能ですが、ネットワーク上のルーター/ スイッチの ARP テーブルにスキャンステーションの情報が残っている場合にのみ作動します。これは揮発性情報であり、スキャンステーションの省電力モー状態が長くなればなるほど作動しにくくなります。ただし、スキャンステーションのダウンが短時間の場合は、多くの場合問題なく作動します これらの制限はスキャンステーションに限定されません。これはネットワークインフラを制限しています。 スキャンステーションに静的IPアドレスを割り当てることを推奨します。
スキャンステーションが正しく設定されていても FAX の受信ができない	• （デジタル電話回線ではなく）アナログ電話回線に接続してください。 • 以下を確認してください。 1. ケーブルが本体後部にある RJ11 ポートに接続されていることを確認します。 2. FAX 受信用に FAX オプションが正しく設定されていることを確認してください。詳細については、第 4 章の「FAX の設定」を参照してください。
ドメイン認証	次の設定を確認して、ネットワークドメインに適切に接続されているかを検証してください。 [構成] タブで **[編集]>[デバイス設定]** を選択します。**[デバイスオプション]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。**[ネットワーク出力先証明書]** オプションを開き、ネットワークの*ユーザー名、パスワード、ドメイン名を確認します。* 適切に設定されていないと、スキャンステーションはドメインにアクセスできません。
デバイス名は同じです	すべてのスキャンステーションには、工場で割り当てられたデフォルトの名前があります。デフォルト名は、**KSSxxxxxxxx** です（xxxxxxxx は、スキャンステーションのシリアル番号を示します）。これにより、すべてのスキャンステーションのデバイス名がユニークであることが確認できます。デバイス名設定時に、このオプションを無効にすると、工場出荷時のデフォルトのデバイス名を使用します。デフォルトのデバイス名を変更する場合は、**ユニーク**な名前を入力する必要があります。

ネットワーク認証問題	解決方法
アカウント名とパスワードの確認	スキャンステーションがスキャンイメージをネットワークフォルダに送信しなかったり、スキャンが停止する場合は、スキャンステーションに登録したログイン証明書に問題がある可能性があります。スキャンステーションに割り当てるネットワークアカウントの作成時に、*最初のログインでパスワードを変更*してから xx 日ごとに*パスワードを変更する*、*などの特定のプロパティがアカウントに適用されてることがあります。*この種の制限は、スキャンステーションで使用するアカウントには適用しないことをお勧めします。 ネットワーク管理者は、通常のネットワークコンピュータにログインするための証明書を使用して、スキャンステーションに割り当てられたアカウント設定を検証できます。これらの証明書を使用して自分のネットワークにログインできない場合は、アカウントに問題がある可能性があります。設定を変更できるのはネットワーク管理者です。パスワードのリセットが必要になる場合もあります。
ワークグループ認証	ワークグループ内のローカルにある共有フォルダへの書き込み時に問題が発生した場合は、フォルダを共有しているネットワーク上の PC からフォルダに付与されたアクセス権限を確認してください。スキャンステーションがアクセス可能な権限がフォルダにあることを確認します。
E メール認証	スキャンステーション設定で定義された認証方法が、SMTP サーバの認証方法と一致していることを確認します。現在スキャンステーションでサポートする設定は、シンプルパスワード、NTLM、チャレンジレスポンスです。これらの設定を確認するには、Outlook Express などの Windows メールクライアントを使用し、スキャンステーションに割り当てられたユーザ名とパスワードを使用してメールアカウントを作成します。
SMTP サーバの問題	SMTP サーバアドレスの問題を解決するには、次の処理を実行します。 • 別のデバイス上にある他の E メールクライアントを使用して、メールを送信でき、SMTP サーバーに到達できることを確認します。 • 設定ファイルを変更して、完全ドメイン名 (FQDN) の代わりに IP アドレスを持つ SMTP サーバを識別します。FQDN ではなく IP アドレスを持つ SMTP サーバに到達できる場合は、DNS に問題があります。DNS サーバに到達でき、それから FQDN を適切に解決できることを確認してください。 • SMTP サーバでは SSL または TLS が必要になる場合があります。いずれかのオプションを選択する必要がある場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
SMTP サーバのアドレスを調べる	SMTP サーバアドレスを調べるには、次のようにします。 • ワークステーションで使用するメールクライアントの設定を調べ、SMTP サーバの IP アドレスか、ドメイン名を探します。または、 • 内部のメールクライアントから送信したメールを調べ、メールのヘッダーをすべて表示します。または、 • メールサーバの管理者に、この情報を問い合わせます。
SMTP サーバのアドレスを確認する	スキャナー管理アプリケーションで、**[テスト接続]** を使用します。 スキャンステーションと同じネットワークに接続されているメールクライアント PC のメールアプリケーションを使用して、SMTP サーバーにメールを送信します。 • メールの送受信が正常に終了したら、SMTP サーバのアドレスは有効です。 • SMTP サーバーにメールを送信できない場合は、受信したエラーメッセージを確認してください。SMTP サーバのアドレスが有効でも、認証証明書が無効である可能性があります。

ネットワーク認証問題	解決方法
FTP の認証	FTP サイトへのスキャンでは、プロキシ証明書と FTP サーバ証明書の 2 セットの設定が必要になることがあります。 ネットワーク環境で外部FTPサイトへのアクセスにプロキシサーバを使用する場合、ユーザ名、パスワード、認証方法を含む適切なプロキシ証明書を設定する必要があります。プロキシ認証手段には、**ログイン後のユーザ**または**無し**があります。また、FTP サーバにアクセスするには、ユーザ名とパスワードの設定が必要になることもあります。スキャンステーションでは、anonymous（匿名）FTP もサポートしています。
ネットワークドメイン名	スキャンステーションで使用するドメイン名を見つけるには、次のようにします。 1. スキャンステーションを使用する同じネットワークやドメインにログインした PC から、**[コンピュータ]** を右クリックして **[プロパティ]** を選択します。次の画面で **[システムの詳細設定]** を選択して、システムのプロパティウィンドウを表示します。 2. [コンピュータ名] タブを選択します。  ドメイン上にいる場合は、*[ドメイン]* フィールドにドメイン名が表示されます（上図を参照）。 3. [デフォルト証明書] の **[ドメイン]** フィールドに入力できるように *ドメイン名*をコピーします。([構成] タブから **[編集]>[デバイス設定] を開きます**)。 4. **[デバイスオプション]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。 5. **[ネットワーク出力先証明書]** で下矢印をクリックし、ドメイン名を入力します。

ネットワーク共有先へのスキャンの問題	解決方法
ネットワークフォルダへスキャンできない	ネットワーク上にある Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8 の PC から共有保存先の NETBIOS コンピュータ名を ping します。たとえば、保存先が **\\Servername\Sharename** の場合は、*Servername* を ping します。 • ping に応答があった場合は、NETBIOS 名の解決法が使えます。共有名または共有するためのアクセス権限が問題である可能性があります。 • 応答が**ない**場合は、NETBIOS 名の解決法は機能しません。有効な共有フォルダが判明している場合は、サーバ名の代わりに IP アドレスや、状況によって権限のあるドメイン名のいずれかを使用できます。たとえば、共有サービスを提供しているコンピュータの IP アドレスが *100.100.100.1* で、完全修飾ドメイン名が *server.company.com* の場合、**\\100.100.100.1\Sharename** または **\\server.company.com\sharename** のいずれかを試すことができます。通常、これらのどちらかが NETBIOS 名の代わりに、共有の宛先アドレスの役割を果たします。 • NETBIOS 名の解決法が機能せず、これがネットワークパスを定義する唯一の方法の場合は、ルーターの設定変更について、ネットワーク管理者に確認してください。通常では、TCP/IP トラフィックのポート 137 と 139 をブロックしています。これらのポートは、Microsoft が TCP/IP 上で NETBIOS 用に使用する TCP ポートです。これらのポートがブロックされると、宛先アドレスまでのパスがルーター（サブネット）の境界を超える場合に、NETBIOS 名を解決できません。 • ネットワーク上の別の Windows XP、Windows Vista、Windows 7、または Windows 8 でエクスプローラを起動し、ネットワークドライブを \\Servername\Sharename にマップしてください。これも機能しない場合は、ホストコンピュータ上の共有フォルダのアクセス権限を確認します。スキャンステーションのユーザまたはユーザアカウントに、共有フォルダの読み込みと書き込みのアクセス権限があることを確認します。 • ネットワークからネットワーク共有フォルダにアクセスできるかどうかを確認するには、ネットワーク上の他の PC から **[スタート]>[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。*[開く]* フィールドでサーバ名（例：\\servername）を入力して、**[OK]** をクリックします。サーバにアクセスできる場合は、利用可能な共有リソースがすべて表示されます。これらの共有リソースのうち、1 つを選択してアクティブであることを確認します。アクティブでない場合は、スキャンステーションからフォルダにアクセスする前に、共有フォルダの *アクセス権限* を修正します。

インジケータライト

スキャンステーションが起動中の場合、電源ボタンは青く点灯します。LED の状態を以下に説明します。

LED	ステータス
青色で点灯	• スキャンステーションの初回電源投入時は少しの間表示されます。 • 起動中です。
青色で点滅	• 電源が入れられたか、ウォーミングアップから復帰し、初期化を実行中です。 • 省電力モード。
赤色で点滅または点灯	• スキャンステーションの初回電源投入時は少しの間表示されます。 • スキャンステーションのエラーを表します（カバーが開いている状態など）。

エラーログファイルの保存

サービス担当者が状況を詳しく調べるために、ログファイルを E メールに添付して送信するように依頼させて頂く場合があります。新しい USB メモリに設定ファイルを作成します。

1. スキャンステーションに USB メモリを挿入し、ローカル管理者モードにします。スキャンステーションに [設定] アイコンが表示されます。
2. 矢印を使用して、[診断] アイコン が表示されるまでスクロールし、選択します。
3. **[ログを保存します]** をクリックしてから **[はい]** をクリックして、ログファイルを USB メモリに保存します。

analog.log および kss700.xml.log ファイルは USB メモリに保存されます。

また、キャナー管理アプリケーションを使用してログファイルを保存できます。

1. スキャナー管理アプリケーションを起動します。
2. **[スキャナー]** タブをクリックします。
3. **[スキャナー]>[デバイス]** を選択し、保存するファイルのタイプを選択します。

サービスセンターへの問い合わせ

1. 国内のお問い合わせは、0120-085580 までお願い致します。
2. お電話の際は、次の情報をお手元にご用意ください。
   - 障害の内容。
   - スキャンステーションのシリアル番号。

12 用語集

DFS（分散ファイルシステム）— 複数のサーバに存在している共有フォルダを 1 つ以上の DFS 名前空間に透過的に接続することにより、それらの共有フォルダをグループ化できます。DFS 名前空間は、組織内の共有フォルダの仮想ビューです。DFS ツールを使用することにより、名前空間内に存在している共有フォルダを選択したり、それらのフォルダが表示される階層を設計したり、名前空間内に示される共有フォルダの名前を決定したりできます。名前空間が表示された場合、ユーザからはフォルダが 1 つの大容量ハードディスクに存在しているように見えます。

DHCP (Domain Host Control Protocol) — コンピュータおよび他のネットワークデバイスに、ネットワークアドレス（IP アドレス）を動的に割り当てるネットワークプロトコル。

FQDN（*Fully Qualified Domain Name*、*完全修飾ドメイン名*）— コンピュータの IP アドレスにリンクされた、人間が読める（可読）名前。この名前には、コンピュータ名とドメイン名が含まれます。

FTP（*File Transfer Protocol*、*ファイル転送プロトコル*）— 標準的なインターネットプロトコル。インターネットにアクセスしているコンピュータ間でファイルを送受信するための簡単な方法です。同種のプロトコル（通信規約）には、表示可能な Web ページと関連ファイルを転送する HTTP（Hypertext Transfer Protocol、ハイパーテキスト転送プロトコル）、E メールを転送する SMTP（Simple Mail Transfer Protocol、簡易メール転送プロトコル）があります。FTP は、インターネットの TCP/IP プロトコルを使用するアプリケーションプロトコルです。FTP は一般的に、作成者から、インターネット上にある全ユーザのサーバの役割をするコンピュータに Web ページファイルを転送するのに使用されます。また、他のサーバから使用しているコンピュータに対して、プログラムやその他ファイルのダウンロードにも、一般的に使用されます。

IP アドレス（*Internet Protocol*、インターネットプロトコル）— ネットワーク上のコンピュータの参照に使用。アドレスは、3 桁の数字 4 個で構成される、国際フォーマットの値で、ピリオドで区切られます。例 : 192.168.1.1 個々のアドレスセグメントの範囲は 0 ～ 255 です。

NETBIOS (*Network Basic Input Output System*) — ローカルエリアネットワーク内で、異なるコンピュータ上のアプリケーション間の通信を可能にするネットワーク層。NETBIOS は物理的トポロジとして最もよく使用され、Windows NT ネットワークで不可欠です。ルーティングメカニズムをサポートしない、ブロードキャスト " プロトコル " である NETBIOS は、他のプロトコルが、より大規模な最新の（ルーティング）ネットワークで継続使用されることを可能にするために、そのプロトコルを引き継ぎます。

NETBIOS 名 — Microsoft Windows での別名、*コンピュータ名*。NETBIOS 名は、デバイスに対するユニークな名前です。15 文字（15 バイト）の名前のみ使用できます。

NTLM — メールサーバへのアクセスに対する認証アルゴリズム。

NT ドメインサーバ — ネットワークドメインを定義する、Microsoft Windows の基本サーバ。ネットワークドメインは、コンピュータ、プリンタ、メールサーバ、ファイルサーバなどのコンピュータリソースのグループ化を定義します。

Ping — ユーザや管理者が、ネットワーク上の特定のデバイスがアクティブであるか、応答可能であるかを確認できる、一般的なコマンドラインプログラム。たとえば、*ping 127.0.0.1* を実行すると、（使用している）ローカルコンピュータがネットワーク要求に応答できるか確認するテストをします。

SMTP（*Simple Mail Transfer Protocol*、簡易メール転送プロトコル）— E メールの送受信に使用するプロトコル。

TCP/IP（*Transmission Control Protocol / Internet Protocol*、*伝送制御プロトコル / インターネットプロトコル*）— 高度なネットワークの特定の必要性に適合させたプロトコルの組み合わせ。TCP と IP の複合プロトコルの組み合わせが一般的で命名されました。TCP/IP は、インターネット上の通信に対する基本規格を形成します。

TCP ポート — ネットワークデータパケットのヘッダの特別な番号。TCP ポートは、データの、コンピュータプロセスまたはアプリケーションへのマッピングに使用されます。たとえば、ヘッダに番号 21 が設定された受信 TCP データパケットを受け取ったサーバは、通常、データをサーバで稼動している FTP プロセスにデータをマッピングします。番号 21 はクライアントで FTP セッションを開始するための標準的ポートです。

UNC（*Universal Naming Convention*、汎用命名規則）— ネットワーク上のサーバ、プリンタ、他のリソースを特定する規格。UNC パスは、2 つの \ の後に PC 名と、1 つの \ にアクセス先のリソース名を使用します。Windows オペレーティングシステムでは、UNC 名は次のようになります。

```
\\servername\sharename\path\filename
```

スキャナー管理アプリケーション — このソフトウェアは、ネットワーク上のスキャンステーションの設定と管理に使用します。

ジョブ名 — スキャン設定、出力先、グループをまとめた物の名前です。スキャン設定、出力先、ユーザのグループをグループ化することにより、スキャンステーション管理者は複雑なタスクを簡素化できます。これにより、ユーザは、ワンタッチでジョブを選択できます。これは、スキャンステーションのタッチスクリーンに表示されるボタンの名前です。

チャレンジレスポンス (*CRAM-MD5*) — E メールサーバへの認証済みアクセスに使用する暗号化アルゴリズム。

プロキシサーバ — ワークステーションユーザとインターネットの中継として機能するサーバ。企業における安全性、運営管理コントロールおよびキャッシュサービスを確保するために設置されます。プロキシサーバは、企業のネットワークを外部のネットワークから切り離すゲートウェイサーバ、および、企業のネットワークを外部からの侵入に対して保護する、ファイアウォールサーバに関連付けられるか、これらの一部として機能します。

リモートアクセスパスワード — *Kodak* Scan Station 700 シリーズ - スキャナ管理アプリケーションからスキャンステーションへのアクセスを制御するパスワードです。詳細については、第 3 章の「スキャナメニュー : リモートアクセスパスワード」を参照してください。

リモート設定 — ネットワーク上のリモート位置からネットワークデバイス（スキャンステーション 700）を設定する機能。

ルーター — 複数のコンピュータやデバイスから、ローカルエリアネットワークへの接続を可能にするデバイス。また、1 台のルーターを、ワイドエリアネットワーク (WAN) を構成する複数のルーター内の 1 つとして使用できます。

ローカルアクセスパスワード — スキャンステーションへのユーザアクセスを制御するパスワードです。詳細については、第 4 章の「デバイスオプションの設定」を参照してください。

ローカル管理者モード — スキャンステーションで管理者機能を直接実行します。ローカル管理者モードは、有効な構成ファイルを保存した USB メモリをスキャンステーションに挿入すると有効になります。

ワークグループ — 複数のコンピュータとコンピュータリソースをグループ化する、Microsoft のネットワークメカニズム。実際のネットワークドメインは使用しません。

自動設定スケジュール — ネットワーク上のリモート位置からスキャンステーションにファームウェアおよび設定のアップデートをスケジュールする機能です。

設定 — デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループ、ジョブ設定のをまとめた物。設定は PC のハードディスクに格納されます。通常、定義する情報が記録されており、スキャンステーションに内容が反映されます。設定はハードディスク上の 1 つのファイルでは示されませんが、スキャンステーションを手動で設定する際に暗号化された .xml ファイルへのエクスポートが可能です。

設定ファイル — スキャンステーションのすべての設定が記述され、暗号化された .xml ファイル。基本的に設定ファイルはスキャンステーションの固有名、スキャン方法、イメージファイルの送信先などを指示します。

設定名 — デバイス設定、スキャン設定、出力先、グループジョブ設定をまとめた物の名前です。

認証証明書 — スキャンステーションがネットワークリソースにアクセスするのを許可する、ユーザ名、パスワード、ネットワークドメイン名（省略可）。

付録 A　仕様

この付録では、スキャンステーションの仕様とシステム要件について記載しています。

インタフェース	10/100/1000 Mb/ 秒 イーサネット LAN、RJ-45 スキャンステーション 730EX のみ：56K FAX モデム搭載、RJ-11
出力方法	共有ネットワークフォルダ、ネットワークプリンタ、E メール、USB メモリ、FTP（匿名、認証、プロキシサポート）、SharePoint、Kofax Front Office Server グループ
ネットワークプロトコル	TCP/IP、SMB、認証 SMTP（ログイン、プレーンテキスト、CRAM、NTLM）、DHCP（またはスタティック）、ネットワークドメイン認証
セキュリティ機能	PDF の暗号化、オプションで USB メモリドライブへのスキャン機能の有効化 / 無効化、LDAP によるセキュアログイン、ログイン ID によるアクティビティログイン、IP ポートブロッキング
スキャナー管理（システム管理者向け）	設定変更可能なパスワードによる安全なログイン、複数デバイスの作成や管理機能、管理デバイスのグループ化や分類、1 ～ 複数、または全デバイスや内蔵ソフトウェアの管理、管理デバイスのステータスの表示、管理デバイス毎にログファイルにリモートアクセスと管理、管理デバイス毎に再起動や電源オフ。
出力ファイルフォーマット	シングルページ TIFF、マルチページ TIFF、JPEG、PDF、サーチャブル PDF、PDF/A、Microsoft Word、Microsoft Excel、RTF、暗号化 PDF、圧縮 JPEG（オプション）、TIFF、WAV オーディオファイル
コントロールパネル	24.6 cm 、1024 x 768 (XGA) TFT LCD タッチスクリーン
オーディオ	注釈メッセージを記録 / 再生用内蔵マイクロフォンとスピーカ
イメージセンサ	デュアルカラー Quadlinear CCD（光学解像度 600 dpi）による両面スキャン 読取階調 30 bit (10 x 3) カラー出力階調 24 bit (8 x 3) グレースケール出力 256 階調 (8 bit)
出力解像度	75, 100、150、200、300、400、600
イメージ処理機能	パーフェクトページスキャン、自動傾き修正、自動枠消し、文字量基準白紙ページ削除、自動方向検出、パンチ穴除去、エッジ埋め、縦縞フィルタ、カラードロップアウトなど
読取り速度（A4 縦送り）	白黒、グレースケール、カラー：200 dpi 時に最大 50 ppm/100 ipm
重送検知	（超音波センサ）
光源	デュアル間接 LED
フィーダ	80 g/m^2 用紙を 75 枚まで積載可能
最大書類サイズ	215 x 863 mm 解像度によって制限される場合があります
最小書類サイズ	50 x 63.5 mm 連続給紙時：75 x 125 mm
書類の厚さおよび重量	413 g/m^2 用紙または ID カード（最大厚 1.25 mm）
推奨処理枚数	最高 1 日 6000 枚
外形寸法	**高さ**：20.8 cm **幅**：34.9 cm **奥行き**：38.1 cm
重さ	9.97 kg（22 ポンド）

USB メモリ推奨スペック	USB 2.0、最小容量：2 GB 画像ファイルを保存する場合の最小容量：2 GB
電力消費	**オフモード時**：< 0.3 W AC **スリープ時 (Energy Star)**：≤ 5 W AC **待機中**：24 W AC **動作時**：< 55 W AC
電源要件	AC 100 ～ 240V（海外対応）、50/60 Hz
動作温度	10 ～ 35 ℃ (59 ～ 95°F)
高度	< 2000 メートル
湿度	相対湿度：10 ～ 85%
環境要因	Energy Star 認証スキャナー

システム要件

Kodak Scan Station 700 シリーズ - スキャナー管理アプリケーションは、以下のオペレーティングシステム環境にインストールできます。

- Windows XP Service Pack 3
- Windows Vista、Service Pack 2
- Windows 7
- Windows 8

いずれのオペレーティングシステムにも、Microsoft .Net 4.0 Framework が必要です。PC にインストールされていない場合は、自動的にインストールされます。

付録 B　ネットワークプロトコル

Scan Station 700 シリーズは、標準的な RJ45 コネクタを使用して直接イーサネットベースの IP ネットワークに接続し、以下の環境で独立して動作します。

- Microsoft Windows Server 2003、Server 2008、Server 2012（TCP/IP、MS 共有、SMTP、FTP、印刷）
- MS services for NetWare 上の NetWare 3.x または 4.x（TCP/IP、MS 共有、SMTP、FTP）
- Unix/Linux 環境（SMTP、FTP のみ）

  注：使用するネットワーク環境では、これらすべてのネットワークプロトコルをサポートしていない場合もあります。

Scan Station 700 シリーズは、SMTP と認証済み SMTP プロトコル環境下で、画像ファイルを添付した E メール送信をサポートします。認証済み SMTP では、シンプルパスワード、NTLM、チャレンジレスポンスがサポートされています。使用する SMTP サーバで認証が必要な場合は、スキャンステーションへ証明書を提供する必要があります。

注： このバージョンでは、Kerberos はサポートしていません。

匿名 FTP (File Transfer Protocol) と、プロキシサポートを含む認証済み FTP もサポートされています。認証済み FTP のいずれか（プロキシあり / なし）を使用する場合は、FTP 設定で FTP サイトにアクセス可能な証明書が必要です。この情報については、ネットワーク管理者に確認してください。

Scan Station 700 シリーズを SMTP と FTP の異なるネットワークで使用できますが、ネットワークプリンタへの出力には Microsoft プリンタドライバが必要です。共有ネットワークフォルダへイメージを送信する場合は SMB (Server Message Block) ドライブアクセスが必要です。

Microsoft NT ドメイン内で使用する場合、管理者から提供される標準のドメインユーザアカウントを使用して、スキャンステーションからドメインリソース（共有フォルダおよびプリンタ）へアクセスします。

Microsoft Workgroup 内で使用する場合、ワークグループ PC が共有リソースへのゲストアクセスができるように設定されていれば、スキャンステーションからワークグループリソース（共有フォルダおよびプリンタ）へログイン証明書なしでアクセスします。

付録 C　保証 ー米国、カナダ限定

Kodak スキャナーをご購入いただき、ありがとうございます。*Kodak* スキャナーは、お客様に最高レベルのパフォーマンスと信頼性をお届けします。すべての *Kodak* スキャナーは次の限定保証の対象となります。

Kodak スキャナーの限定保証

Kodak Alaris 社は、Kodak Alaris または Kodak Alaris 認定小売チャネルを通じて販売された、*Kodak* スキャナー（部品および消耗品を除く）に次の限定保証を適用します。

Kodak Alaris 社は、販売時から製品に適用される限定保証期間内において、*Kodak* スキャナーの材料および製造上の欠陥がなく、特定の *Kodak* スキャナーに該当するパフォーマンス仕様に準拠することを保証します。

すべての *Kodak* スキャナーには以下の保証除外規定が適用されます。欠陥がある、または製品仕様に準拠していない *Kodak* スキャナーは、Kodak Alaris の判断により、修理、新製品または代替製品と交換いたします。

購入者は、www.kodakalaris.com/go/disupport にアクセスする、または *Kodak* スキャナーに同梱されている限定保証の概要のカードを見て、購入した *Kodak* スキャナーに適用される限定保証期間を確認できます。

保証によるサービスを受けるには、購入を証明する書類が必要となります。

保証の除外

Kodak Alaris の限定保証は、災害、事故、不可抗力、輸送などの原因によって、購入後に *Kodak* スキャナーがこうむった物理的損害には適用されません。これには、次の場合が含まれます。(a) Kodak Alaris にスキャナーを送り返す際に、現行の Kodak Alaris の梱包と輸送のガイドラインにしたがってスキャナーを梱包および輸送しなかったために損害が生じた（発送前に輸送中の損害を防ぐ手段を講じなかった、または、使用前にこれらの手段を取り外さなかった場合を含む）。(b) ユーザのオペレーティングシステムまたはアプリケーションソフトウェアのインストール、システム統合、プログラミング、または再インストール、製品またはコンポーネントのシステムエンジニアリング、移動や廃棄、データの再構築によって損害が生じた（コネクタ、カバー、ガラス、ピン、シールの破損を含む）。(c) Kodak Alaris、または Kodak Alaris の正規修理店以外によってサービス、変更、または修理が行われた、または、製品の改造、Kodak Alaris 製品の模造コンポーネントや Kodak Alaris 社製以外のコンポーネント、アセンブリ、アクセサリ、モジュールの使用によって損害が生じた。(d) 誤用、妥当な範囲外の製品の扱いやメンテナンス、手荒な扱い、使用者のミス、適切な監督やメンテナンスを行わなかった（推奨されている手順や仕様に従わなかった、Kodak Alaris の承認しないクリーニング用品やその他のアクセサリの使用を含む）ことによって損害が生じた。(e) 環境的な条件（過度な高温や、その他の不適切な物理的稼動環境）、腐食、しみ、製品外での電気配線、静電気放電（ESD）保護を行わなかったことによって損害が生じた。(f) 製品に対して提供されているファームウェアの更新やリリースをインストールしなかったために損害が生じた。(g) その他の随時追加される除外項目によって損害が生じた。これらの追加項目はオンライン (www.kodakalaris.com/go/disupport) で確認可能。

Kodak Alaris では、米国およびカナダ以外の国で購入された製品に対しては、限定保証を提供していません。米国外の流通経路から製品を購入した場合は、購入元によって保証が行われます（該当する場合）。

Kodak Alaris では、サードパーティの製品、コンピュータシステム、またはその他の電子機器の一部として購入された製品に対しては、限定保証を行いません。

これらの製品に対する保証は、OEM (Original Equipment Manufacturer) により、このメーカーの製品やシステムの一部として提供されます。

製品を交換した場合の限定保証の期間は、欠陥のあった元の製品に適用される期間か、30 日のうち、長い方となります。

設置に関する警告と断り書き

Kodak Alaris では、原因のいかんを問わず、この製品の販売、設置、使用、修理、または機能障害に起因する結果的または偶発的な損害について、いかなる責任も負いません。これらの Kodak Alaris が保証責任をもたない損害には、収入や利益の損失、データの損失、ダウンタイムの費用、製品の使用の損失、当製品を置換する製品のコスト、設備やサービス、および顧客によるこれらの損害に対する要求を含み、またこれに限られたものではありません。

この付録の条項と、限定保証の条項間に矛盾がある場合は、限定責任の条項が優先されます。

限定保証によるサービスを受けるには

Kodak スキャナーには、開梱、セットアップ、設置、操作に関する情報が付属しています。ユーザズガイドを注意して読むことで、製品の適切な設置、使用、メンテナンスに関し、ほとんどの技術的情報が得られます。ただし、ユーザズガイドを参照してもまだ疑問がおありの場合は、当社の Web サイト (www.kodakalaris.com/go/disupport) にアクセスしていただくか、以下までお問い合わせください。Kodak Alaris サポートセンター：**(800) 822-1414**

サポートセンターは、休日を除く月曜日から金曜日の午前 8 時から午後 5 時まで営業しています。

お問い合わせになる前に、該当する購入者は *Kodak* スキャナーのモデル番号、パーツ番号、シリアル番号、購入を証明できるものをご用意ください。また、問題について説明できるように、情報を整理しておいてください。

サポートセンターの担当者は、ユーザが問題を解決できるように、電話でお手伝いします。場合によっては、いくつかの簡単な自己診断テストを実行して、結果のステータスやエラーコードのメッセージを伝えるように求められることがあります。これは、問題が *Kodak* スキャナーにあるかまたは別のコンポーネントにあるのか、問題を電話で解決できるか、サポートセンターでの判断に役立てるためです。サポートセンターが、ハードウェア障害が限定保証や購入されたサービス保守契約の範囲であると判断する場合は、必要に応じて RMA 番号（返品認証番号）が発行されます。その後、サービスのリクエストが発行され、修理か交換が行われます。

梱包と輸送のガイドライン

購入者は、保証が適用される製品を返送する場合、製品が輸送中に損傷しないように、十分な梱包を行ってください。梱包が十分でなかった場合、*Kodak* スキャナー保証が無効になります。製品の保管や輸送のために、元の箱や梱包を保管しておくことをお勧めします。Kodak Alaris では、輸送中の損傷に関連する問題については責任を負いません。購入者は *Kodak* スキャナーのみを返品してください。発送の前に、すべての追加のアイテム（アダプタ、ケーブル、ソフトウェア、マニュアルなど）を取り外して、保管しておいてください。Kodak Alaris はこれらの品目について責任を負わず、修理または交換した *Kodak* スキャナーと一緒に返送されません。すべての製品は、元の梱包、または返品するユニットに対して承認された梱包を使用して、Kodak Alaris に返送してください。購入者は *Kodak* スキャナーを発送する前に、梱包材を取り付けてください。元の梱包がない場合は、Kodak Alaris のサポートセンター（電話：800-822-1414）に、新しい梱包用品のパーツ番号と注文方法を問い合わせてください。

返送の手順

本限定保証の対象となる *Kodak* スキャナーのサービスを受けられる購入者は、(800) 822-1414 に連絡して返品認証番号（RMA）を取得し、RMA の発行から 10 営業日以内に Kodak Alaris の現行の梱包と輸送のガイドラインに従い、*Kodak* スキャナーをエンドユーザーの送料および保険料負担で RMA が指定する宛先まで発送するものとします。

Kodak Alaris が交換した製品や部品は、Kodak Alaris の所有となります。

顧客の責任

サービスの要求を行うことによって、限定保証の対象となる購入者は、限定保証の条件（断り書きと限定保証の条項を含む）に合意したものとみなされます。サービスを受けるまえに、ユーザは損傷を受ける、または損失される恐れのあるデータやファイルをすべてバックアップしてください。Kodak Alaris では、失われた、または損傷を受けたデータやファイルに対し、何ら責任を負いません。

保証サービスの説明

Kodak Alaris は限定保証をサポートし、*Kodak* スキャナーの使用および取り扱い（サービス方法）を支援する、様々なサービスプログラムを提供しています。*Kodak* スキャナーは重要な投資です。*Kodak* スキャナーは、競争力を維持するために必要な生産性を発揮します。たとえ一時的であっても、この生産性を失うと、ビジネスに支障が生じる場合があります。ダウンタイムは、修理費だけでなく、時間を失ったという意味でも、非常に高価なものになりえます。これらの問題を避けるために、Kodak Alaris では限定保証の遂行にあたり、製品タイプによって、以下にあげるサービス方法のいずれかを使用します。

選択した *Kodak* スキャナーには限定保証登録カードと限定保証概要カードが付属しています。このカードは、モデルごとに異なります。限定保証の概要カードには、モデル番号と限定保証を含む、重要な保証に関する情報が記載されています。特定の *Kodak* スキャナーに適用されるサービス方法を判断するには、限定保証概要カードを参照してください。

限定保証登録カード、または限定保証の概要カードが見つからない場合、製品に関する情報（最新の保証やサービスプログラムに関する情報や制限を含む）は、ネット上 (www.kodakalaris.com/go/disupport) で入手できます。

サービスの遅延を避けるために、限定保証登録カードをできるだけ早く返送してください。限定保証登録カードが見当たらない場合は、ネット上 (www.kodakalaris.com/go/disupport) で登録できます。

Kodak Alaris はまた、*Kodak* スキャナーの使用と取り扱いを支援するために購入できるサービスプログラムも提供しています。

Kodak Alaris では、限定保証によってお客様に、品質、パフォーマンス、信頼性、そしてサービスをお届けするべく努力しています。

当社は、製造終了後、最低 5 年間はスペア部品と消耗品を供給いたします。

出張サービス

選択した *Kodak* スキャナーに対して、サポートセンターがハードウェアプログラムを確認した場合、サービスコールが作成され、記録されます。製品がアメリカ合衆国の 48 州、またはアラスカとハワイの一部の地域にあり、技術者がスキャナにアクセスするにあたってセキュリティ上、安全上、または物理的な制限のない場合は、Kodak Alaris の技術者が製品のある場所に派遣されて、修理が行われます。サービスが提供されている地域の詳細については、当社の Web サイト (www.kodakalaris.com/go/docimaging). 出張サービスは、休日を除く、月曜日から金曜日までの現地時間で午前 8 時から午後 5 時の間に実施されています。

AUR（アドバンスユニット交換）

AUR は、業界で提供されているサービスの中で、もっとも簡単で、包括的なものといえるでしょう。万が一製品に欠陥があった場合、特定の *Kodak* スキャナーの該当する購入者に対し、Kodak Alaris は 2 営業日以内に製品を交換します。

AUR では特定の障害または破損のある *Kodak* スキャナーについて、事前に交換を行います。AUR を利用するには、対象となる購入者は RMA 番号を取得し、アドバンス交換合意書に署名し、交換用製品を確保するためのクレジットカードへの課金に了承します。RMA 番号は、交換のための製品を確認しなければならない場合のために、大切に保管してください。対象となる購入者は、交換のための製品の郵送先住所を尋ねられます。また、故障した製品の返品のために、梱包と発送に関する指示がファックスで送信されます。サービスのリクエストが始まり、Kodak Alaris が署名された合意書を受け取ってから 2 営業日以内に、交換用の製品が届けられます。故障した製品は、ユーザーが交換用製品を受け取ってから 10 日以内に Kodak Alaris に届けられる必要があります。この期日を過ぎると、交換用製品の標準価格がユーザーのクレジットカードに課金されます。交換用製品の発送にあたっては、Kodak Alaris が送料を負担し、輸送手段を選択します。Kodak Alaris の指示や、Kodak Alaris が希望する輸送業者以外を使って発送が行われた場合、限定保証は無効になることがあります。

製品を Kodak Alaris に返送する前に、限定保証でカバーされていない、すべてのオプションやアクセサリ（電源コードやマニュアルを含む）を取り外してください。故障した製品の返送には、交換用製品に使われていた箱と梱包を使用してください。故障した製品が、交換用製品に使われていた箱と梱包で返送されなかった場合、限定保証は無効になることがあります。故障した製品が適切に受理されるように、RMA (Return Material Authorization) 番号を箱の外側にはっきりと書いてください。

ディーポサービス

Kodak スキャナーが AUR またはオンサイトサービスの対象外の場合、該当する購入者はディーポ修理サービスを利用できます。対象となる購入者は、最寄の正規ディーポ修理センターに製品を送るように指示されます。修理センターまでの輸送の費用は購入者が負担し、輸送中の破損などについては購入者が責任をもつものとします。製品を修理センターに返送する前に、限定保証でカバーされていない、すべてのオプションやアクセサリ（電源コードやマニュアルを含む）を取り外してください。すべての製品は、元の梱包、または推奨されている箱を使用して、Kodak Alaris に返送してください。*Kodak* スキャナーは、発送前に梱包材を取り付けてください。元の梱包がない場合は、Kodak Alaris のサポートセンター（電話 : 800-822-1414）に、新しい梱包用品の注文方法を問い合わせてください。*Kodak* スキャナーのサービスを受けられる購入者は、(800) 822-1414 に連絡して返品認証番号（「RMA」）を取得し、RMA の発行から (10 営業日以内に Kodak の現行の梱包と輸送のガイドラインに従い、*Kodak* スキャナーをエンドユーザーの送料および保険料負担で RMA が指定する宛先まで発送するものとします。故障した製品が適切に受理されるように、RMA (Return Material Authorization) 番号を箱の外側にはっきりと書いてください。

製品の受理後、修理センターは製品を 10 営業日以内に修理します。修理された製品は、2 日以内に配送されるエクスプレス便で購入者に返送されます。購入者はこの送料を負担する必要はありません。

重要な制限

資格：アドバンス交換プログラムおよびディーポサービスは米国 50 州の該当する購入者が利用でき、オンサイトサービスは隣接した 48 州、アラスカおよびハワイの特定の領域で Kodak Alaris の認定ディストリビュータから購入した製品に対して利用できます。*Kodak* スキャナーは、購入者が Kodak Alaris のその時点で有効な梱包および発送のガイドラインに従って欠陥のある製品を返送しなかった場合など、製品が Kodak Alaris のその時点で有効な保証除外規定を満たさない場合、保証内のいかなるサービスも受けられません。購入者は、*Kodak* スキャナーを個人またはビジネス目的で購入し、再販目的ではない場合に「該当する購入者」または「エンドユーザー」とみなされます。

消耗品：消耗品は、通常の使用において消費され、必要に応じてエンドユーザによって交換される品目です。消耗品や備品など、および、ユーザズガイドでユーザの責任であると述べられているアイテムは、限定保証の対象とはなりません。

Kodak Alaris が交換した製品や部品は、Kodak Alaris の所有となります。

Kodak Alaris へのお問い合わせ

Kodak スキャナーに関する情報：

Web サイト：www.kodakalaris.com/go/docimaging

米国内の電話によるサービス、修理、技術サポート

電話によるテクニカルサポートは、休日を除く月曜日から金曜日まで、午前 5 時から午後 5 時まで営業しています。
電話：(800) 822-1414

技術文書と FAQ（24 時間）：

Web サイト：www.kodakalaris.com/go/docimaging

サービスプログラム情報：

Web サイト：www.kodakalaris.com

電話：(800) 822-1414

Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2014 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.
コダックの商標およびトレードドレスはイーストマンコダック社の許可を受けて使用しています。